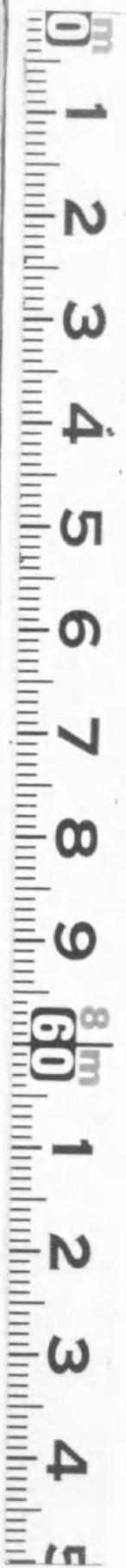


會社四季報

昭和十五年第二輯

東洋經濟新報社編

14.5
817



始



公社債、株式の引受募集及び賣買
コール、手形の仲介其他金融業務

藤本ビルブローカー証券株式會社

本店 大阪市東區北濱五丁目
東京支店 東京市麴町區大手町二丁目
支店 小樽・福島・横濱・静岡・名古屋
金澤・京都・神戸・岡山・廣島
松山・門司・福岡・京城・新京・奉天

有價證券業
大株一般・國債・實物取引員

武田證券株式會社

大阪市東區北濱一丁目
大阪東郵便局私書函第九十號
電話北濱(23) 345 6768 69代表 六四五(6)
市外專用 大阪(24) 2526 27 五四三一(10) 28 29 125

編社報新濟經洋東

報季四社會

輯三第年五拾和昭

融金・式株・債社・債公

社會式株券證村野

目丁二町土安區東市阪大 店本

店支

松高・島廣・山岡・戸神・都京・屋古呂・京東
城京・幌札・岡靜・瀧新・澤金・岡福・司門

社會式株券證村野洲滿

店本 店支



目種業營				
會計の検査	財産に關する遺言執行	貸付並保證	不動産信託	有價證券信託
				金錢信託

託信同共

東京支店

總町區内幸町一丁目七番地
電話銀座(57)三四八六番
振替口座東京八四六六三番

大阪本店

東區今橋三丁目一番地
電話北濱(23)代表三四〇一番
振替口座大阪七九九〇〇番

凡例

【決算期】 決算期中三月末より八月末決算迄を上期とし、九月末より翌年二月末決算迄は下期とす。

【單位】 統計欄「資産負債」「收支勘定」は千圓。「利益率」「配当率」は割、「構成比率」は%、「株價」は圓を單位とす。

【株主資本】 期末拂込資本、各種積立金準備金及引當金（但し社員積立金、法定退職準備積立金に類する勘定は控除）前期繰越益金及び当期利益金（繰越損失金及び当期損失金は負數にて加ふ）の合計を以て株主資本とす。

【社外負債】 社債、借入金、支拂手形、諸未拂金、預り金等の他便宜上、前受金、假勘定、未決算勘定、繰越勘定等をも含む。

【使用總資本】 株主資本と社外負債の合計で、又固定資産、投資勘定及流動資産の合計に一致す。

【固定資産】 土地建物、機械諸設備、什器、建設假勘定、増設假拂金等の他、特許並商標權地上並營業權等の無體資産をも含む。

【投資勘定】 子會社及び關係會社に對する出資金、貸付金或は取引上の貸金、其他營業直接の目的でなく、利殖の爲に所有する不動産、長期に互つて所持する有價證券を含む。

【流動資産】 使用總資本中より固定資産、投資勘定を除いた残額を便宜上流動資産と見做す、猶使途不詳の假拂金も流動資産に合算す。従つて此の中には假拂金、未経過保険料、預り有價證券の如き會計學上流動資産と認め難いものも若干包含す。

【收入・支出】 收入中には前期繰越金、積立金準備金等の戻入、財産評價益、他社合併益等を含まず。又各種消却金、賞與金、弔慰金、減資損金は支出中より除く。然し、礦工業其他の會社の法定退職準備積立金、瓦斯會社の報償金は経費と看做す。

【利益金】 利益金は前述の如く消却金、賞與金等控除前のものである。従つて之等を支出にて落せるものに就ては、之をそれぞれ資産負債の當該勘定に還元す。

【利率】 對平均拂込資本利率。

【消却年率】 $(\text{消却金額} \times 2) \div (\text{國庫券總額} - \text{償還中額})$

【構成比率】 $\frac{\text{流動比率}}{\text{流動比率} + \text{固定比率}}$ (外部負債 - 社債並海關借入金)

【流動比率】 $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債} + \text{社外負債}}$

【固定比率】 $\frac{\text{固定資産}}{\text{固定負債} + \text{社外負債}}$

【負債比率】 $\frac{\text{負債總額}}{\text{資本總額} + \text{負債總額}}$

【株價】 東長は東株長期相場、大長は大株長期相場の略、長期株價中の△印は實物相場。

日本製鐵株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内郵船ビル(電丸ノ内一三二)九

【利益減少】 鐵鋼價格の引下と原料値上りで鐵鋼會社の業績は低下しつゝあるが、當社は原料關係に於ては比較的恵まれてゐるとは云ふものの、軍需、官需の特別注文が多いため鋼材價值低下の打撃も他社に比して大きい。従つて利益の減少は既に十三年下期より始つてゐるが、昨年九月末締切の十四年下期も計上利益は四千八百七十一萬八千圓で、前期より六十三萬二千圓の減益となつた。この結果擴張費に向けられる社内保留金は半期五百萬圓程度に減じたと思はれなければならない。七分配當には心配ないとしても、當社の擴張はこの社内保留金に負ふ處大きいから、増産と鐵價引下の兩道を進む當社の經營は仲々困難と云はざるを得ない。

【社債依存の再強化】 周知の如く、當社の擴張計畫は目下進行中だが、その資金は資材の値上り等で計畫より膨脹を余儀なくされてゐる。一方、この資金供給の一要素たる社内保留金は前記の如く減少しつゝある。かくて當社の擴張資金の調達に社債への依存を強めざるを得ぬ結果となつてゐる。昨年六月社債發行限度を一億から二億に擴張したが、また來る六月頃一億乃至二億圓擴張する意向だ。

【使命重大】 原料難、原料値上り等で鐵鋼界は今や危機の前後にある。日本鐵鋼業を支配、指導する當社の役割は一層重加した。

【設立】	昭和九年一月
【決算期】	三月、九月
【事業】	鐵鋼、鋼材、板、其他製鐵副製品
【資本金】	公稱 200,000,000 拂込 112,912,000
【株數】	政府 (50,000) 民間 (62,912)
【重役】	會長 平生三郎 社長 中松貞彌 常務 渡邊謙介 景山齊 正雄 飯田九州雄 取締役 井上匡四郎 米山辰夫 吉田豊彦 松田貞治郎 松本健次郎 荒城二郎 尾形次郎 福田庸雄 田尻生五 北村保太郎 監査 橋山愛輔 原邦道 齋谷正輔 小倉正恒
【株主數】	十三年下 十三年上 十四年下 十三年上 三、二〇〇 三、一〇〇 三、一〇〇
【大株主】	大藏大臣 六、三〇〇 金石山 六〇〇,〇〇〇 三井物産 一、四〇〇,〇〇〇 九州製鐵 四〇〇,〇〇〇 三井鐵山 一、四〇〇,〇〇〇 三井物産 一、四〇〇,〇〇〇 住友金業工業 一、〇〇〇,〇〇〇 重工業 一、〇〇〇,〇〇〇
【事業規模】	主要工場 大阪製鐵所 八幡製鐵所、釜石製鐵所、福西製鐵所 兼二浦製鐵所、富士製鐵所、二瀬製鐵所
【主要設備】	鋼材壓延機 三基 電氣爐 三基 平爐 三基 發電所 三基
【事業成績】	十年下 十年上 十一年下 十一年上 十二年下 十二年上
【鐵鋼生産】	(千噸) 一〇,三三三 一〇,〇〇〇 一〇,三三三 一〇,〇〇〇 一〇,三三三 一〇,〇〇〇
【鋼材】	(千噸) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【資本異動】	十三年十一月五億圓に増資 第一回、十四年十月各三億圓拂込徴收

【資産負債】	十三年 十四年 十四年 十四年
株主資本	六、三〇〇 六、三〇〇 六、三〇〇 六、三〇〇
積立金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
社債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
借入金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	九、三〇〇 九、三〇〇 九、三〇〇 九、三〇〇
固定資産	九、三〇〇 九、三〇〇 九、三〇〇 九、三〇〇
流動資産	九、三〇〇 九、三〇〇 九、三〇〇 九、三〇〇
現金預金	九、三〇〇 九、三〇〇 九、三〇〇 九、三〇〇
【收支勘定】	本年下 本年上 十三年下 十三年上
收入	三、二〇〇 三、一〇〇 三、二〇〇 三、一〇〇
支出	三、二〇〇 三、一〇〇 三、二〇〇 三、一〇〇
利益	〇 〇 〇 〇
固定消却	九、三〇〇 九、三〇〇 九、三〇〇 九、三〇〇
社内保留	七、七〇〇 七、七〇〇 七、七〇〇 七、七〇〇
【構成比率】	十三年下 十三年上 十四年下 十四年上
流動比率	七、七〇〇 七、七〇〇 七、七〇〇 七、七〇〇
固定比率	一、六〇〇 一、六〇〇 一、六〇〇 一、六〇〇
負債比率	一、六〇〇 一、六〇〇 一、六〇〇 一、六〇〇
平均拂込	一、六〇〇 一、六〇〇 一、六〇〇 一、六〇〇
【株價】	(東京) 新株 (舊株) 新株
十四年	六、三〇〇 六、三〇〇 六、三〇〇 六、三〇〇
十五年	六、三〇〇 六、三〇〇 六、三〇〇 六、三〇〇
十六年	六、三〇〇 六、三〇〇 六、三〇〇 六、三〇〇
十七年	六、三〇〇 六、三〇〇 六、三〇〇 六、三〇〇
十八年	六、三〇〇 六、三〇〇 六、三〇〇 六、三〇〇
十九年	六、三〇〇 六、三〇〇 六、三〇〇 六、三〇〇
二十年中	六、三〇〇 六、三〇〇 六、三〇〇 六、三〇〇
【名義書換】	二十號 新券交付 五十號

日本鋼管株式會社

(本社) 神奈川県川崎市渡田字若尾新田(電川崎 三三三)
(出張所) 東京市麹町區丸の内一ノ二大川田中ビル (電丸ノ内三七一五)

【合併遅延】 鶴見製鐵造船との合併は成立しさうで仲々成立しない
兩社首腦部には勿論合併の意志が依然としてあるのだが、合併の條
件でうまく折合ひがつかないのである。當社側からすれば一株對一
株の對等では承知し難く、と云つて對等でなければ鶴見側が肯じ得
ない情勢にある。合併するのは兩社にとつて利益には相違ないが、
いま俄にこれを實行しなければならぬ切迫した事情もないので、渺
々しく話が進まないであらう。最近再び兩社の間に於いて合併比
率決定の問題が取上げられ常務重役が目下切角研究中のやうである
果して如何なる結果が得られるか注目される。

【前期の成績】 營業成績は悪くない。昨年同期の實績を見ても、利
益金千六百五十一万四千圓を擧げた。九月中旬に第一、第二兩新株
に對し一株七圓半總額千六百八十八万五千圓の拂込を徴収したが、對
平均拂込資本利益率は尙ほ四割に當る。昨年同期も殆ど變らぬ高利
益率で一割二分配當には餘裕綽々であつた。

【今期は稍低下か】 尤も今十五上期は多少の利益率低下は免れま
い。大戦後に手當した安い原材料も次第に一順して原價高の影響が
全面化する一方、賣値は据置きだからである。しかし一割二分配當
に問題のないことは勿論である。

【設立】	明治四十五年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	鋼管、丸、平、角鋼、山形鋼、 特殊鋼、
【資本金】	公稱100,000,000 拂込118,000,000
【株主数】	第一新(三三三) 八六,〇〇〇 第二新(三三三) 八六,〇〇〇
【重役】	社長 白石元治郎 常務 松下 長久 取締役 大橋 進一 間島 三三 取締役 鑄谷 正輔 香田 五郎 取締役 川崎 芳雄 田中 嘉八郎 監査 西野 惠之助 今泉 嘉一郎 監査 川崎 芳雄 田中 嘉八郎
【株主数】	十一年上 十一年下 十一年上 總數(名) 二〇,六三三 二〇,六三三
【大株主】	鐵道證券 九三,三六一 第一鐵兵 三六,八六六 川崎重工業 三〇,〇〇〇 大川合名 三六,八六六 富國鐵兵 三三,〇〇〇 帝國生命 四〇,〇〇〇 日本鐵兵 三三,〇〇〇 三井物産 三三,〇〇〇 【生産高】(噸) 十一年上 十一年下 十一年上 鋼管及鋼材 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 合金鐵 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【販賣高】(噸)	鋼管及鋼材 三三,〇〇〇 三三,〇〇〇 三三,〇〇〇 合金鐵 三三,〇〇〇 三三,〇〇〇 三三,〇〇〇
【投資會社】	昭和鐵業、日本瓦斯管 鐵鋼證券、南洋鐵鋼、日本鐵鋼管
【資本異動】	十一年各新株面拂込徴収 十月各新株面拂込徴収十四年五月各新 七圓五拂込徴収

【資産負債】	十二期 十四期 十五期
株主資本	一三,三三三 一三,三三三 一三,三三三
積立金	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
外部負債	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
社債	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
借入金	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
使用總資本	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
固定資産	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
流動資産	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
現金預金	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【收支勘定】	十一年上 十一年下 十一年上
收入	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
支出	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【構成比率】	平均拂込 利益率
流動比率	一〇〇 一〇〇 一〇〇
固定比率	一〇〇 一〇〇 一〇〇
【業績】	平均拂込 利益率
十一年上	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
十一年下	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
十四年上	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
十四年下	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
十五年上	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
十五年下	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【名義書換】	五 錢【新券支附】三十 錢

株式會社 神戸製鐵所

(本社) 神戸市東灘區瀧町一丁目三三(電東合 〇二四六)
(出張所) 東京市麹町區丸の内一ノ二鐵鋼銀行ビル内(電丸ノ内九)

【第三回拂込】 去る一月三十日新一株に付十二圓五十錢宛、總額一
千二百二十五萬圓の第三回拂込を徴収、擴張資金に充當した。昨年七
月の第二回拂込、同九月の社債發行、それから右の第三回拂込と、
當社の資金調達はこのところ矢張り早やである。

【擴充】 擴張の樞軸をなすものは長府工場及び宇治山田工場の建設
だ。前者は既にその第一期を終り操業中だが、引き続き第二期計畫
を續行して居る。製品はデュラルミン關係のもだ。宇治山田工場
は電機類の製作を目標とするもので、目下工場建物の建築に取り掛
つて居る模様だ。これは本年上期中に一部操業を開始する予定のも
のだが矢張り若干の遅延は免れぬと思ふ。

【資金計畫】 右の擴張を進めむには少からぬ資金を要するから今の
未拂込も早晚徴収の筋合だが、發行予定社債五千萬圓の中、四千萬
圓は未發行に屬するから、此の社債發行と拂込とを併用する方針に
出よう。

【重點主義】 鐵鋼機械部門に於ては今後重點主義が進められるが、
當社は此の場合その筆頭の部に屬するから、今後の業績に就ては
懸念を要しない。従つて現行九分の配當も依然余裕を以て維持し得
る筋合だ。

【設立】	明治四十四年九月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	鋼材、線材、伸鋼、電氣機械 並に一般機械類の製造、販賣
【資本金】	公稱100,000,000 拂込118,000,000
【株主数】	十一年上 十一年下 十一年上 總數(名) 二〇,六三三 二〇,六三三
【大株主】	鐵道銀行 九三,三六一 第一鐵兵 三六,八六六 川崎重工業 三〇,〇〇〇 大川合名 三六,八六六 富國鐵兵 三三,〇〇〇 帝國生命 四〇,〇〇〇 日本鐵兵 三三,〇〇〇 三井物産 三三,〇〇〇
【生産高】(噸)	十一年上 十一年下 十一年上 鋼管及鋼材 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 合金鐵 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【販賣高】(噸)	鋼管及鋼材 三三,〇〇〇 三三,〇〇〇 三三,〇〇〇 合金鐵 三三,〇〇〇 三三,〇〇〇 三三,〇〇〇
【投資會社】	昭和鐵業、日本瓦斯管 鐵鋼證券、南洋鐵鋼、日本鐵鋼管
【資本異動】	十一年各新株面拂込徴収 十月各新株面拂込徴収十四年五月各新 七圓五拂込徴収

【資産負債】	十二期 十四期 十五期
株主資本	一三,三三三 一三,三三三 一三,三三三
積立金	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
外部負債	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
社債	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
借入金	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
使用總資本	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
固定資産	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
流動資産	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
現金預金	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【收支勘定】	十一年上 十一年下 十一年上
收入	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
支出	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【構成比率】	平均拂込 利益率
流動比率	一〇〇 一〇〇 一〇〇
固定比率	一〇〇 一〇〇 一〇〇
【業績】	平均拂込 利益率
十一年上	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
十一年下	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
十四年上	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
十四年下	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
十五年上	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
十五年下	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【名義書換】	十 錢【新券支附】五十 錢

【鐵鋼事業】

小倉製鋼株式會社

(本社) 福岡縣小倉市許斐町一番地 (電 三三三—七)
(事務所) 東京市麹町區丸ノ内海上ビル(電丸ノ内二六一〇)

【十一月期減益】十一月末締切の昨年同期の計上利益は二百四十萬六千圓で、上期に比し十四萬圓の減益であつた。これは賣値引下と製鋼原料の騰貴による採算悪化と云ふ鐵鋼界一般に共通する原因に基くものであるが、殊に電力制限が強化された昨年七月九月の減産に影響される處大きい。かくて利益率も減益に加へるに拂込資本の増加で二割四分に低下した。

【今後】平爐會社は、輸入屑鐵の騰貴で今後成績悪化を氣遣はれる。當社は昨年第一焙煉爐の完成によつて鐵鋼一貫作業態勢を實現し、屑鐵の使用は少くなつたが、未だ完全な一貫作業を行ひ得る段階に達してゐる譯ではなく、屑鐵値上りの影響は免れ得ない。併し、安値の屑鐵手持がある上に、製鋼設備の増加分が順次運轉を開始するので、生産減を來す様なことはなく、今期中は採算も急悪化しない。今期も前期並の利益は確保出來よう。だが舊曆十二月一日、第二回拂込四百萬圓を徴收したので利益率は再低下することとなりう。一割二分配當は次第に窮屈となつて來る譯だ。目下建設中の第二焙煉爐、平爐、中形ロールは何れも今年秋迄には完成するので一貫作業態勢は完備され、また鐵鋼價格の修正も行はれやうから採算は緩和されやうが、一割二分配當は引上げられることになるかも知れぬ。

【設立】	大正七年十二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	丸鋼、線材、角材、平鋼
【資本金】	公稱 三〇〇,〇〇〇 拂込 三〇〇,〇〇〇
【株主数】	新(五〇) 三〇,〇〇〇 舊(五〇) 三〇,〇〇〇
【重役】	社長 淺野總一郎 専務 末兼 要 取締役 周村 秀 常務 淺野 義夫 監査 野口 彌三 取締役 淺野 良三 淺野 八郎 金子喜代太
【株主名】	淺野同族 三六、〇〇〇 千歳商會 七、一七〇 末兼 要 一六、七〇〇 日華生命 一六、三〇〇 東洋代 行 一三、〇〇〇 横濱取引 一〇,〇〇〇 萬興 業 一〇,〇〇〇 島田海運 七、〇〇〇
【主要製品】	鋼塊 鋼片 丸鋼 角鋼 線材 平鋼 六角鋼 八角鋼 彈簧鋼 鋼索 耐火煉瓦 精鋼原料 鐵線
【工場】	小倉市許斐町 製鋼工場 造塊 工場 製鐵工場 拉仲工場 鐵金工 場 旋盤工場 鑄造工場 鐵工
【取高】	七年以上 十一年下 十三年上 鋼材(丸) 三、七、六、〇〇 空、五、四
【投資會社】	小倉製港、尼ヶ崎製鋼、日 本鋼業、東海鋼業、小倉海運、華中鐵道
【資本興助】	十三年九月三回(最終)拂込 徴收十四年一月、三〇〇萬圓増資第一回一 三圓五拂込徴收十二月第二回一三圓五拂込 徴收

【資産負債】	十三年 十四年 十五年
株主資本	三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇
積立金	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
外部負債	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
使用總資本	三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇
固定資産	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
流動資産	二九〇,〇〇〇 二九〇,〇〇〇 二九〇,〇〇〇
現金預金	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【收支勘定】	本年上 本年下 十三年上 十三年下
收入	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
支出	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【名義書換】	十 十 十 十

【鐵鋼事業】

株式會社 中山製鋼所

(本社) 大阪市大正區船町三 (電櫻川百〇一八)
(支社) 東京市麹町區大手町日清生命ビル(電丸ノ内二〇一)

【石炭と電力】電力の制限よりも石炭不足の方がより痛手である。然し當社は周知の如く焙煉爐を持つてをり、焙煉用炭は略々充分に手當がしてある。それに副産物たる瓦斯を利用するから、焙煉用以外の石炭不足はさほど心配したものではないのだ。焙煉爐用の石炭電力を制限すると鉄鐵の出來高に影響を及ぼし、それが更に生産力擴充にも影響を與へることになるから、この事業に對する電力、石炭の制限は極めて輕微だ。

【擴張順調】第二期焙煉爐と之に附屬する迴轉爐、混鉄爐、大型分解工場等々の新、増設工事は着々と進行しつゝ、ある。資材は自給可能だから、その使用許可さへ貰へばよい譯だ。勿論一部の機械は外註の他ないが、之とて既に注文済であり、その原料は當社から供給してやつてゐるから、案外順調に進行してゐる。

【拂込・増資】右の擴張に要する金額は概算三千萬圓位の予定である。之は過日徴收した拂込金と借入金で賄ふことになつてゐるが、總ては第三回拂込徴收となる見込だ。第四回も今年中に徴收し、明年早々には増資の段取りでもある。
【成績】未働資本の壓迫で最近の成績は稍々低下傾向にあるが、今期邊りから盛り返す見込みである。配當は不動とみられる。

【設立】	大正十三年
【決算期】	三月、九月
【事業】	鉄鋼、鋼板、鋼材、薄鐵板、 鋳力板、特殊鋼、亞鉛鍍、洋 釘等の製造販賣
【資本金】	公稱 三〇〇,〇〇〇 拂込 三〇〇,〇〇〇
【株主数】	新(五〇) 三〇,〇〇〇 舊(五〇) 三〇,〇〇〇
【重役】	社長 中山 悅治 取締役 一松 政二 常務 片桐 仲二 池尾 芳藏 小泉 米藏 監査 中山 牛 取締 中山 登 林 市藏 武 文彦 小野 義夫
【株主名】	中山悅治 一〇,〇〇〇 中山證券 六、八〇〇 中山商事 三〇,〇〇〇 三和銀行 一〇,〇〇〇 第一徴兵 一〇,〇〇〇 日本生命 一〇,〇〇〇 帝國生命 一〇,〇〇〇 共同信託 一〇,〇〇〇
【工場】	大阪、尼崎、東京、和歌山、徳島
【事業成積】	十三年上 十三年下 十四年上 十四年下
【資本興助】	十五年五月格額増資三〇〇萬圓 五千圓増資十五年一月三圓五拂込徴收

【資産負債】	十三年 十四年 十五年
株主資本	三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇
積立金	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
外部負債	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
使用總資本	三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇
固定資産	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
流動資産	二九〇,〇〇〇 二九〇,〇〇〇 二九〇,〇〇〇
現金預金	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【收支勘定】	本年上 本年下 十三年上 十三年下
收入	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
支出	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【名義書換】	十 十 十 十

【鐵鋼事業】

大同製鋼株式會社

(本社) 名古屋市港區龍宮町一〇(電 南六五〇一三)

【倍額増資】四月一日未拂込二百三十三万五千圓を徴收し、續いて倍額増資を断行。五月一日現在株主に一對一で新株を割當て第一回拂込は六月一日一株十二圓五十錢、總額六百五十万圓を徴收する。

【擴充計畫】増資資金を注入される築地、及星崎の工場は専ら特殊鋼の生産に従事して居るから時局柄航空機工業、自動車工業に關聯して廣義國防上その増産は一刻も忽せに出來ぬ。手許資金を充當して合金鐵の増産を計畫し岩手縣宮古町工場の擴張に着手。合金鐵は電力を相當多量に消費するものだが、東北振興からこれを供給される段取りがついて居るのでこの點不安が少い。

【増益確實】擴張部分が漸時運轉を始めたので三月期は平均月額五百萬圓以上の注文引渡高があつた。二月三月の二ヶ月間電力使用制限で多少これが減少しても總額では大体三千万圓には達しよう。特殊向供給が大部分だから利益を一割二分とすれば三百六十萬圓で、償却を百萬圓と見て純益二百六十萬圓となり約六十萬圓の増益だ。

【前途】資産内容は下表の通り優秀だし、配當には不安がない。特殊鋼は現在の本邦各社の擴張計畫だけでは供給不足だ。製品の優秀を誇る當社が獨米からの輸入をこなへて一層の増産に進むは必至だ。前途に再度の倍額増資の興味を惹いて居る。

【設立】	大正十年十一月
【決算期】	三月、九月
【事業】	製鐵、製鋼、特殊鋼、合金鐵
【資本金】	公稱二〇〇〇〇〇 拂込二〇〇〇〇〇
【株主】	新(四二・〇) 舊(五八・〇)
【重役】	社長 下田 義雄
事務	川崎金恒三 取締役 坂下 忠雄
常務	野長 禮三 高木 益彌
中村 秀夫 監査 下郷 寅吉	
取締役	中村 恒貞 山田 平十郎
齋藤 直武 島田 忠次	
志水 懷民 相談 福澤 駒吉	
小野 秀一 安東 昌喬	
【株主数】	十一年下 十一年上 十二年下
【大株主】	總(名) 三三〇 三三〇 三三〇
【事業成績】	大正十一年 十一年上 十一年下
【投資】	築地製鐵、岩手縣宮古、
【資本】	三三〇〇〇〇 三三〇〇〇〇 三三〇〇〇〇
【名義書換】	五・錢 新券交付 二十錢

【資産負債】	十三年 十四年 十四年
株主資本	三三〇〇〇 三三〇〇〇 三三〇〇〇
外部負債	一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇
借入金	一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇
流動資産	一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇
流動負債	一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇
流動比率	一〇〇 一〇〇 一〇〇
固定資産	一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇
固定負債	一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇
固定比率	一〇〇 一〇〇 一〇〇
平均比率	一〇〇 一〇〇 一〇〇
【業績】	十一年上 十一年下 十二年上 十二年下
平均比率	一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
【株主】	十一年上 十一年下 十二年上 十二年下
平均比率	一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
【名義書換】	五・錢 新券交付 二十錢

【鐵鋼事業】

日本特殊鋼管株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内南區(丸ノ内西)

【下期配當據置】去る十一月末締切の十四年下期は、利益金百六十八萬圓と上期より三十七萬圓の増益となつたが、利益率は一割九分五厘と幾分の低下を示し、一分増配は行はず九分配當据置となつた。

【半額増資内定】當社は大湊の砂鐵製鍊設備を完成したが、同工場の鉄鐵を原料とする特殊鋼設備を擴充するため戸田町の製管工場に隣接して平爐、電氣爐、壓延設備を新設する計畫を樹てゐる。而してこの認可は既に下つたので、愈々増資案を内定した。増資額は一千五百萬圓である。目下申請中だから、當局の認可がどう決まるか未定だが、削られても一千万圓は動かぬ處だらう。

【九分配當据置】一方業績は、大湊の砂鐵工場の完成で収益力を増したが、最近石炭不足等で思ふ様な出鉄成績を擧げてゐない。併し、最近鋼路炭鐵の買収で石炭手當の路が確保されたし、國鐵大間線の開通で、従来トラックで運搬してゐた砂鐵を鐵道で運搬出来る様になつたし、また餘熱ホイラーも完成したので製鉄コストは急激に低下される。一方砂町工場の特殊鋼も戸田工場の鋼管も順調だから、利益は漸増する筋台にあり、一概に悲觀は要しない。併し、増資で資本負擔が増すので、戸田工場の擴張が完成し、収益期に入るまで、當面増配を差控へるのではないかと思はれる。

【設立】	昭和十年一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	鋼管、鋼線、製鐵並に之に必要なる事業
【資本金】	公稱一〇〇〇〇〇 拂込一〇〇〇〇〇
【株主】	新(四二・〇) 舊(五八・〇)
【重役】	社長 橋本圭三郎 取締役 戸澤 芳樹
事務	中島 統一 監査 近藤 正一
常務	相田平太郎 高橋 真一
取締役	梅津 七郎 相談 安川雄之助
【株主数】	十一年下 十一年上 十二年下
【大株主】	總(名) 二五七 二五七 二五七
【事業成績】	十一年上 十一年下 十二年上 十二年下
【事業規模】	砂町製鐵工場 東京市南砂町
戸田製管工場 埼玉縣戸田村	
川口製鋼工場 埼玉縣川口市	
大湊製鐵及製鋼工場 青森縣大湊町	
【事業成績】	十一年上 十一年下 十二年上 十二年下
【資本】	一〇〇〇〇〇 一〇〇〇〇〇 一〇〇〇〇〇
【名義書換】	十 錢 新券交付 三十錢

【資産負債】	十三年 十四年 十四年
株主資本	一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇
外部負債	一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇
借入金	一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇
流動資産	一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇
流動負債	一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇
流動比率	一〇〇 一〇〇 一〇〇
固定資産	一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇
固定負債	一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇
固定比率	一〇〇 一〇〇 一〇〇
平均比率	一〇〇 一〇〇 一〇〇
【業績】	十一年上 十一年下 十二年上 十二年下
平均比率	一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
【株主】	十一年上 十一年下 十二年上 十二年下
平均比率	一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
【名義書換】	十 錢 新券交付 三十錢

【鐵鋼事業】

吾孀製鋼所

【設立】昭和八年八月
【決算期】五月、十一月
(本社) 東京市向島區吾孀町東四ノ九三(電燈田三三九)

【下期二分減配】去る十一月末締切の決算では配當を二分減の八分とした。計上利益は五十四万八千圓、利益率は一分八分三厘で、一割配當踏襲に事缺くやうな成績ではないから、この減配は寧ろ將來の事態を見越しての善處策と見られる。

【前途】平爐會社は受難期を迎える。下級層鐵の使用を主とする當社もコストの騰貴から来る採算の悪化は免れ難い。加ふるに重點主義の立場からは電力石炭等不利を免れない。鑄鋼製産に設備を替へ第三國向輸出製品を増加を以て苦境に對處する方針だ。上期は八分配當を掲置かうが、大勢は樂觀を許さな。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	10,000	10,000
【重役】	社長 田中榮八郎 取締役 白石元治郎、伊藤九萬一、岡崎久次郎、長谷川太郎、鈴木和志、大西良輔、鈴木和志、岡崎久次郎	
【事業設備】	工場 九州若松 製鋼工場 加熱爐、壓延機 製鋼小工場 加熱爐、壓延機	
【大株主】	十四年十一月期 三六名 大橋不二雄 九、五〇〇 岡崎久次郎 五、〇〇〇	
【名義書換】	【新券交付】三十錢	

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	10,000	10,000
【重役】	社長 高橋正雄 取締役 高橋正雄、高橋正雄、高橋正雄	
【事業設備】	工場 本社工場 製鋼工場 加熱爐、壓延機	
【大株主】	十四年十一月期 三六名 大橋不二雄 九、五〇〇 岡崎久次郎 五、〇〇〇	
【名義書換】	【新券交付】五十錢	

宮製鋼所

【設立】昭和十年十月
【決算期】三月、九月
(本社) 東京市城東區南砂町六ノ四一(電本所三三六)

【拂込徴収續く】去る二月一日新株の第三回拂込四分の一づゝ總額七十五萬圓を徴収したが、来る四月一日更に同額の最終拂込を徴する。共に昨年春完成の電氣爐二基並びにその他の設備擴張に使はれた借入金も、拂込株金に振り替へる譯である。

【業績低下か】最近の層鐵の値上り、人手難は當社にも打撃だが、當社に關係ある報國砂鐵製煉の存在は一面希望を與へる。然し電力並びに石炭の不足問題も深刻だから、今期は或は百万圓程度の利益に低下するかも知れぬ。この程度なら現行配當は續けられるが、今後の情勢は手放しに樂觀されぬ故、若干減配を斷行するが賢明だ。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	10,000	10,000
【重役】	社長 高橋正雄 取締役 高橋正雄、高橋正雄、高橋正雄	
【事業設備】	工場 本社工場 製鋼工場 加熱爐、壓延機	
【大株主】	十四年十一月期 三六名 大橋不二雄 九、五〇〇 岡崎久次郎 五、〇〇〇	
【名義書換】	【新券交付】五十錢	

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	10,000	10,000
【重役】	社長 高橋正雄 取締役 高橋正雄、高橋正雄、高橋正雄	
【事業設備】	工場 本社工場 製鋼工場 加熱爐、壓延機	
【大株主】	十四年十一月期 三六名 大橋不二雄 九、五〇〇 岡崎久次郎 五、〇〇〇	
【名義書換】	【新券交付】五十錢	

【鐵鋼事業】

東海鋼業

【設立】大正五年十二月
【決算期】五月、十一月
(本社) 東京市向島區丸ノ内ノ二(電丸ノ内八八)
(出張所) 大阪市西區江之子島西町

【練業短縮か】當社の製品は鋼板、條鋼、軌條の三種で時局關係品が主であり、日鐵から鋼塊の供給を受けてゐる。たゞ高能率重點主義の強化によつて、その供給高は減る惧れはあつても増加する望みは渺ない。而も他國米國の對日スクラップ輸出禁止が懸念され、さなくとも最近のスクラップの不足、價格昂騰は勢ひ當社の業績に響く。原料の減少から操短を除儀なくされよう。

【一割配當續くか】右の如く前途不牙を免れないが、當社は近年堅實決算を行ひ、内容の充實に努力して來てゐるから、少々業績が低下しても目先現行一割配當が崩れることはあるまい。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	10,000	10,000
【重役】	社長 田中榮八郎 取締役 白石元治郎、伊藤九萬一、岡崎久次郎、長谷川太郎、鈴木和志、大西良輔、鈴木和志、岡崎久次郎	
【事業設備】	工場 九州若松 製鋼工場 加熱爐、壓延機 製鋼小工場 加熱爐、壓延機	
【大株主】	十四年十一月期 三六名 大橋不二雄 九、五〇〇 岡崎久次郎 五、〇〇〇	
【名義書換】	【新券交付】三十錢	

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	10,000	10,000
【重役】	社長 高橋正雄 取締役 高橋正雄、高橋正雄、高橋正雄	
【事業設備】	工場 本社工場 製鋼工場 加熱爐、壓延機	
【大株主】	十四年十一月期 三六名 大橋不二雄 九、五〇〇 岡崎久次郎 五、〇〇〇	
【名義書換】	【新券交付】五十錢	

特殊製鋼

【設立】昭和四年六月
【決算期】四月、十月
(本社) 東京市浦田區南六郎二丁目(電浦田三三三)

【擴張計畫順調】川崎第一工場の建設工事は予定通り進捗した。去る十二月ハンマー工場の一部が操業を開始したが、四月中には全部完成する筈だ。製鋼、鍛造壓延の能力が加り、下期の収益力は一段と増大する。この擴張に引續いて第三工場の建設に取掛る筈だ。資材の制約もあるが事業の性質上比較的容易とならう。

【拂込・増資】第二工場の建設費は一千二、三百万圓を要した。今後の所要資金から見れば未拂込を一度に徴収しても不足だ。が、第三回拂込總額三百七十五萬圓を五月に、最終拂込は八月頃と、二回に分けて徴収することゝならう。年末迄には倍額増資も期待される。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	10,000	10,000
【重役】	社長 高橋正雄 取締役 高橋正雄、高橋正雄、高橋正雄	
【事業設備】	工場 本社工場 製鋼工場 加熱爐、壓延機	
【大株主】	十四年十一月期 三六名 大橋不二雄 九、五〇〇 岡崎久次郎 五、〇〇〇	
【名義書換】	【新券交付】五十錢	

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	10,000	10,000
【重役】	社長 高橋正雄 取締役 高橋正雄、高橋正雄、高橋正雄	
【事業設備】	工場 本社工場 製鋼工場 加熱爐、壓延機	
【大株主】	十四年十一月期 三六名 大橋不二雄 九、五〇〇 岡崎久次郎 五、〇〇〇	
【名義書換】	【新券交付】五十錢	

【鐵鋼事業】

昭和特殊製鋼

【設立】昭和十二年三月
【決算期】五月、十一月

(本店) 横浜市鶴見區生麥町神明前二〇三六(電鶴見三三)

【業績低下】十一月期は利益金五十四万八千圓と前期に比し十四万圓の増益となつたが、期中に拂込を三十七萬圓半徴收したので、利益率は三割三分五厘に低下した。壓延工場、電氣爐等が運轉を開始したものの、プレス工場、ハンマー工場新設のために右の如く拂込をとつたので、業績低下は避けられなかつた。

【増資遅滞】九月の最終拂込徴收後、當然増資が必然となり、豫定では十二月に倍額増資を行ふ筈であつた。所が今に至るも認下は下らぬ。大口需要先に關する問題があるやうだ。物資不足の折柄、當社の如き新進会社はともすれば、後廻しにされるのである。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000

【株数】(株) 10,000

【重役】

會長	榎橋寅五郎	取締役	根本富士雄
専務	佐野隆一	取締役	大塚寛治
常務	石川重三郎	監査	山本忠治
取締役	立山重三郎	監査	山本忠治
取締役	近藤賢二	監査	山本忠治

【大株主】 十四年十一月期

日本カーボン	七九,000	佐野隆一	一六,000
榎橋寅五郎	六,000	住友生命	三,000

【工場】 横浜市鶴見區生麥町

【名義書換】 十錢 【新券交付】 三十錢

【資産負債】

株主資本	1,000,000	十二月	548,000	十四年	1,000,000
外部負債	1,114,000	三月	1,114,000	三月	1,114,000
流動資産	2,114,000	三月	2,114,000	三月	2,114,000
固定資産	1,114,000	三月	1,114,000	三月	1,114,000
流動負債	1,114,000	三月	1,114,000	三月	1,114,000
固定負債	1,114,000	三月	1,114,000	三月	1,114,000

【株主資本】 (株) 10,000 安値

【業績】 利益率 10.0% 配当率 1.0%

【株價】 (株) 100.00 安値

【業績】 利益率 10.0% 配当率 1.0%

【株價】 (株) 100.00 安値

山陽製鋼

【設立】昭和九年十二月
【決算期】三月、九月

(本社) 大阪市西區立賣場北通二丁目三番地

【増資期待】去る十二月二十日に一株に付き二十圓總額八十万圓の拂込を徴收したので、あと七十萬圓残つてゐる。之は来る四月頃に徴收し、六月頃に倍額増資を實現したい意圖を持つてゐる。事業の性質からみて略々當局者の希望通り許可されるものとみられる。

【前途】擴張は着々と進行してゐる。予定通り今年中に大部分の完成がみられるだらう。電力制限は痛手であるが、他の事業に比べれば當社の制限率はまだまだよい方だ。ベアリング鋼材を製造してゐるからである。成績は依然好調を示してゐるから、拂込資本が増加しても一割配當は余裕を持つて續けられるだらう。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000

【株数】(株) 10,000

【重役】

會長	山本東作	取締役	藤田勤兵衛
専務	野崎榮	監査	山本愛蔵
常務	山本弘之	監査	山之内赴
取締役	吉川順藏	監査	山之内赴

【大株主】 十四年九月期

山本車作	九〇,000	山本商店	一六,000
山本弘之	九,000	住友生命	三,000
安田銀行	二,000		

【資産負債】

株主資本	1,000,000	九月	1,000,000	九月	1,000,000
外部負債	1,014,000	三月	1,014,000	三月	1,014,000
流動資産	2,014,000	三月	2,014,000	三月	2,014,000
固定資産	1,014,000	三月	1,014,000	三月	1,014,000
流動負債	1,014,000	三月	1,014,000	三月	1,014,000
固定負債	1,014,000	三月	1,014,000	三月	1,014,000

【株主資本】 (株) 10,000 安値

【業績】 利益率 10.0% 配当率 1.0%

【株價】 (株) 100.00 安値

【業績】 利益率 10.0% 配当率 1.0%

【株價】 (株) 100.00 安値

東京製鐵

【設立】昭和九年
【決算期】五月、十一月

(本社) 東京市麹町區三ノ二(電丸ノ内三〇〇)

【業績は順調】去る十一月末締切の昨年同期決算では収入五百十一万一千圓を挙げた。支出は四百六十五万三千圓であつたから、差引四十五万八千圓の利益を計上した。平均拂込資本に對する利益率は二割四分四厘だ。前年同期に比べて三分六厘の向上で、現行一割配當は一段と余裕を加へた譯である。

【前途】金山炭礦の出炭は豫期以上の成績を挙げ得なかつたとは云へ、安岳鐵山の開業は大体順調に推移した。石炭、原料不足の今日當社の強味たる自給の一貫作業も漸次妙味を發揮する。五月予定の廿五圓焙燒爐一基の完成後は一層好調が期待出来る。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000

【株数】(株) 10,000

【重役】

社長	岩崎清七	取締役	安宅武
専務	南俊二	取締役	安宅武
常務	高橋正彦	監査	河端政吉
取締役	大谷米太郎	監査	金丸喜一

【大株主】 十四年五月期

新日本	一六〇,000	景樹	二二〇,000
山中	一三〇,000	南俊二	一〇〇,000
南合	一〇〇,000	大谷米太郎	五〇,000
南合	一〇〇,000	大谷米太郎	五〇,000

【事業規模】 特殊鋼製工場、炭素鋼、ニッケル鋼、マンガン鋼、クロム鋼

【投資会社】 大阪造船所

【名義書換】 二十錢 【新券交付】 五十錢

【資産負債】

株主資本	1,000,000	十一月	1,000,000	十一月	1,000,000
外部負債	1,114,000	三月	1,114,000	三月	1,114,000
流動資産	2,114,000	三月	2,114,000	三月	2,114,000
固定資産	1,114,000	三月	1,114,000	三月	1,114,000
流動負債	1,114,000	三月	1,114,000	三月	1,114,000
固定負債	1,114,000	三月	1,114,000	三月	1,114,000

【株主資本】 (株) 10,000 安値

【業績】 利益率 10.0% 配当率 1.0%

【株價】 (株) 100.00 安値

【業績】 利益率 10.0% 配当率 1.0%

【株價】 (株) 100.00 安値

滿洲鑛物

【設立】昭和十二年十月
【決算期】一月、七月

(本社) 奉天市大和區東亞街五段第一〇五號
(支社) 東京市麹町區有樂町一ノ二東日會館(電丸五九元)

【増資期待】目下新工場建設中であり、之が完成すると流動資金も相當に増額しなければならぬ。そこで建設費及び流動資金調達のため近々最終拂込徴收の上倍額増資が期待される。時期は新工場完成の今年九月頃と豫想される。

【前途】滿洲に於ける鑛物の需要は非常なものである。殊に姉妹會社の工作機械が本格的に操業開始するに至れば旋盤作用鑛物の需要だけでも相當な額に上る筈だ。之を一手に供給する當社の前途は實に洋々たるものと云つてよい。過渡期に於いては多少成績を壓迫されようが現行配當は維持出来る。尤も増資後は多少減配するだらう。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000

【株数】(株) 10,000

【重役】

社長	根本富士男	取締役	鶴岡吉士
専務	田中忠	取締役	午石虎雄
常務	水内清一郎	監査	演田勝美
取締役	松崎清一郎	監査	奥村康太郎

【大株主】 十四年七月期

滿洲工	六〇〇,000	根本富士男	二五〇,000
日本生命	二〇〇,000	田中忠	一〇〇,000
大阪屋商店	二〇〇,000	田中忠	一〇〇,000

【事業規模】 鑛物、可鍛鑄鐵、工作機械及一般鑄物、鑄鋼、可鍛鑄鐵、放熱器等

【名義書換】 十錢 【新券交付】 三十錢

【資産負債】

第一期所要資金	1,000,000	概算	1,000,000
第二期所要資金	1,000,000	概算	1,000,000
流動資産	2,000,000	概算	2,000,000
固定資産	1,000,000	概算	1,000,000
流動負債	1,000,000	概算	1,000,000
固定負債	1,000,000	概算	1,000,000

【株主資本】 (株) 10,000 安値

【業績】 利益率 10.0% 配当率 1.0%

【株價】 (株) 100.00 安値

【業績】 利益率 10.0% 配当率 1.0%

【株價】 (株) 100.00 安値

住友金屬工業株式會社

(本社) 大阪市此花區島屋町三七(電土佐堀番五七七)

【重點主義】舊住友伸銅鋼管が舊住友製鋼所を吸收合併して、今の住友金屬工業と改名したのは去る昭和十年九月だが、前者の發端が明治三十年、後者のそれが同三十四年に遡るのを見れば、歴史は極めて古い。而して此の古い歴史の當社のバックが住友財閥であつて見れば製造技術の上にも幾多の優れたものを持つて居るであらうことは容易に想像されるところだ。一例を挙げれば當社のデュラルミンがある。今日でこそデュラルミンは古河電工や神戸製鋼でも製造して居るが、當社がこれの研究を始めたのは前の歐洲大戰當時で、大正八年には完成して居るのである。いまでは住友のデュラルミンと云へば我が國にはその右に出るものがないのだ。かうした例を數へれば幾つもある筈だ。斯の如き歴史と背景と技術の三拍子が揃つて居る當社だから、重點主義が採用されればその筆頭に置かれること勿論だ。

【擴張】さうとすれば擴張も比較的圓滑に進む筈だし、所要原料の手當も懸念する程のことにはあるまい。擴張は神崎工場及び名古屋工場の建設だ。目下着々工事が進められて居る。此の資金調達のため遠からず第一回拂込の機運とならう。電力制限のため若干の影響は受けたが、現配當は餘裕綽々だ。

古河電氣工業株式會社

(本社) 東京市豊町區丸の内二ノ八(電丸ノ内四四二一六)

【今期も好調持續】物動計畫の實施以來、電線界は原料配給の統制により民需向は抑制されたが、軍需用並に輸向製品生産は無條件乃至優先配給を受けるため、當社の如き一流メーカーは軍需用受註が多いので、工場操作には格別の影響を受けず、依然繁忙を持續してゐる。來る四月末締切の今期も、伸銅及び電線を基本とする事業は引續き順調である。只だ電池のみは未だ全操業に入らぬが、未働資産が漸次活動開始するので賣上高は更に増進する筈だ。

【合理化への道】併し、最近の傾向として従來の如く新註文が活潑に伸びて居らぬ點が擧げられる。當局者もこの點に注目してゐるが殊に軍需が大部分を占める事業の性質上予算の縮減如何では相當の影響を免れぬ點に鑑み、此際反動來に處する用意として經營の合理化に努めることとなつた。

【増資】當社の擴張は目下進捗中だが更に東電との合作による日本輕金屬の育成、關西伸銅所内にデュラルミン工場の建設、保土ヶ谷電池工場内に化學製品工場を建設する等まだまだ續く。従つて資金は老大なものとなる。來る六月頃最終拂込の徴收とならうがやがて増資へ進まねばならない。併し當局者は未だ増資の具体案を考へて居らず、當面は財産處分金と利益保留で賄つて行く方針らしい。

【設立】	大正十五年七月
【決算期】	三月、九月
【事業】	伸銅、亞鉛、鋼管、鑄鋼品、鐵鋼品、壓延品、特殊兵器
【資本金】	公稱 1,000,000,000 払込 1,000,000,000
【株主數】	新(一) 1,125 舊(二) 1,125 合計 2,250
【重役】	會長 古田俊之助 取締役 野村 靜 久島 亮吉 監査 大平 賢作 小倉 正恒 國府 精一 山本 信夫 岡崎 林 荒木 宏 谷林 徳太郎 杉浦 稔三 淡輪 敏雄
【株主數】	十一年下 十一年上 十二年下 十二年上 十三年下 十三年上 十三年中
【大株主】	住友本社 5,000,000 住友信託 1,000,000 住友銀行 1,000,000 住友實業 1,000,000 住友電線 1,000,000 住友友夫 1,000,000 住友友義 1,000,000
【事業規模】	大阪此花區島屋町五八 伸銅所 鋼、鐵鋼管、鐵鋼品、其他 板、管、棒製品 製鋼所 大阪市此花區島屋町二四八 鋼管製造所 尼崎市東向島西之町二九 製 品 熱間冷間仕上鋼管、鋼管類 製 品 熱間冷間仕上鋼管、鋼管類 製 品 熱間冷間仕上鋼管、鋼管類
【資本異動】	十四年四月最終三回拂込 徵收十一月倍額増資第一回三回拂込 徵收

【資産負債】	十三月 十四月 十四年 十四年
株主資本	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
積立金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
外部負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
支拂手形	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
流動負債	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
現金預金	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
固定資産	1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000
投資資産	1,000,000,00

【金屬工業】

日滿アルミニウム

【設立】昭和八年十月
【決算期】五月、十一月

(本社) 東京市豊町區内幸町二ノ一 大阪ビル二號館内(電報掛七二一九)

【國經との提携】日電系の國産輕銀と提携する事になった。提携と言つても表面に現はれた處は國經側で日滿株六萬株を肩代りして取締役一名を送り込んだ程度である。國經はこれからの會社であり、日滿はアルミ統制の犠牲を受けて行闊へてをる會社である。従つて、このため特に樂觀に價するものは何れも出て來ない。

【減配が當然】日滿に特に缺けたるものは技術であり資本である。この二ツを誘導して局面の轉換を計ることが何よりも肝要だ。重役の紛擾對立は五重役の連袂退陣で解決したが陣容は一向に變り映へがしない。業績も不振をつゞけ減配避け難き情勢である。

【資本金】	公稱 100,000,000	拂込 100,000,000
【株数】	舊 100,000	新 100,000
【重役】	社長 吉田 忠徳 常務 林 好文 取締役 神戶 徳太郎 取締役 小畑 三郎 取締役 多田 耕象 監査 齊藤 茂一 監査 齊藤 修治 監査 間宮 信治	
【大株主】	十四年十一月期 買電先 富山縣縣營受本發電所 使用原料 富山縣縣營受本發電所 富山縣縣營受本發電所 富山縣縣營受本發電所	
【名義書換】	十錢	【新券交付】 三十錢
【資産負債】	十二年度 株主資本 100,000,000 外部負債 100,000,000 使用總資本 200,000,000 固定資産 100,000,000 流動資産 100,000,000 平均拂込 100,000,000 平均利益 100,000,000 平均配当 100,000,000	十四年度 株主資本 100,000,000 外部負債 100,000,000 使用總資本 200,000,000 固定資産 100,000,000 流動資産 100,000,000 平均拂込 100,000,000 平均利益 100,000,000 平均配当 100,000,000

日本アルミニウム

【設立】昭和十年六月
【決算期】三月、九月

(本社) 東京市豊町區丸ノ内海上ビル新館内(電九ノ内六空)

【光る優越性】優越性は愈々光つて來た。アルミ界が統制されて販賣値段が單一化され、使用原材料の總てが同一となつて當社の優越性は目立つて來た。技術が勝れ経験が物を言ひ、それがコストの低廉と製品の優秀となつて現はれて來たのだ。

【増設工事進捗】高純工場の増設は完成し操業は本格化となつた。目下建設中の九州黒崎工場は殆んど竣成し既に機械の据付を開始したから四月には完成し最新式のアルミナ工場として操業を開始する。附屬發電所は遅れ完成は五月末となるが、花連港工場の建設完成と相俟つて能力は増大し益々優位を誇る日は近づいた。

【資本金】	公稱 100,000,000	拂込 100,000,000
【株数】	舊 100,000	新 100,000
【重役】	社長 井坂 孝 常務 吉田 忠徳 取締役 原 邦造 取締役 三谷 恒貞 取締役 三谷 一二 監査 中村 房太郎 監査 後藤 茂吉 監査 能澤 外茂吉	
【大株主】	十四年九月期 三菱 100,000,000 三井 100,000,000 古河 100,000,000 三井 100,000,000 古河 100,000,000	
【名義書換】	十錢	【新券交付】 五十錢
【資産負債】	九三年度 株主資本 100,000,000 外部負債 100,000,000 使用總資本 200,000,000 固定資産 100,000,000 流動資産 100,000,000 平均拂込 100,000,000 平均利益 100,000,000 平均配当 100,000,000	九四年度 株主資本 100,000,000 外部負債 100,000,000 使用總資本 200,000,000 固定資産 100,000,000 流動資産 100,000,000 平均拂込 100,000,000 平均利益 100,000,000 平均配当 100,000,000

【金屬工業】

日本輕金屬

【設立】昭和十四年三月
【決算期】五月、十一月

(本社) 東京市芝區田村町一ノ一 東電ビル(電報掛三三〇)

【操業開始期】蒲原、新潟、清水の三工場は着々と建設を急いでをるが無論豫定期間に豫定計畫の完成は不可能だ。併し、來る八月頃からは電解工場に限り一部操業期を迎ふる模様である。清水アルミナ工場は電解部よりも半年或はそれ以上の遅延とならう。不安視された輸入機械は幸にも一部到着し亦引續き入津の見込が附いた。建設資材に於ても當局の手厚い加護があつて、兎も角に新設會社としては異例の順境振りを示してゐる。アルミナ工場完成までは受命會社より内國産のものを購入し不足分は輸入に依存する建前であるが萬事は來る四月以後にならねば見透しがつかない。

【資本金】	公稱 100,000,000	拂込 100,000,000
【株数】	舊 100,000	新 100,000
【重役】	社長 小林 一三 常務 田邊 七六 取締役 安本 太郎 取締役 橋本 太郎 取締役 村千太郎 監査 鈴木 五十鈴 監査 鈴木 五十鈴 監査 鈴木 五十鈴	
【大株主】	東電 100,000,000 多賀 100,000,000 支分 100,000,000 半々分 100,000,000 【新券交付】 五十錢	
【起業費要項】	各種工場建設費 100,000,000 附屬建築及諸設備費 100,000,000 建設準備費並流動資金 100,000,000 年産能力 アルミナ 100,000,000 原料 ピンタン島ボーキサイト 100,000,000	
【株價】	十四年 元六 十五年 元三 一月中 元三 二月 元八	十四年 元六 十五年 元三 一月中 元三 二月 元五

朝鮮理研金屬

【設立】昭和十三年九月
【決算期】六月、十二月

(本社) 朝鮮嶺南浦三和町三(電報掛三三〇)

【一部操業】當社は嶺南浦でアルミ及マグネを、仁川で鐵鋼をそれぞれ生産する目的のもとに、目下兩地に工場を建設中である。この内アルミの電爐工場は三月から運轉を開始し、他も年内に殆ど全部の操業を行ふべく工事を進めてゐる。技術、原料、電力、石炭等に恵まれてをり、これから發展する會社として注目される。

【成績】昨年十二月決算(第三期)では配當收入、雜收入其他から廿餘万圓の利益を計上した。初配當を行ふかどうか本稿執筆當時未定だが、此の上期から多少の事業益を得ることではあり、もう一期自重するのが賢明だ。鮮銀の資金援助があり當面拂込は微らぬ。

【資本金】	公稱 100,000,000	拂込 100,000,000
【株数】	舊 100,000	新 100,000
【重役】	社長 大河内正敏 常務 島村 收三 取締役 田中 寛 取締役 今富 一三 監査 大塚 萬丈 監査 河村 達藏	
【大株主】	十四年六月期 理化學工業 100,000,000 富國工業 100,000,000 理研工業 100,000,000 理研工業 100,000,000 理研工業 100,000,000 理研工業 100,000,000 理研工業 100,000,000 理研工業 100,000,000	
【名義書換】	二十錢	【新券交付】 五十錢
【事業豫算】	工場建設費 100,000,000 關係特許實施購買費 100,000,000 其他共總計 100,000,000	
【株價】	十四年 元三 十五年 元三 一月中 元三 二月 元八	十四年 元三 十五年 元三 一月中 元三 二月 元八

ラサ工業株式会社

(本社) 大阪市西淀川区高見町一ノ六四(電土佐堀三三)
(支店) 東京市京橋區京橋一ノ二(代田證券ビル)(電京公三)

【今期増益】昨年九月期は拂込資本の増加で利益率は二割三分に低下、一割二分配當は若干窮屈を來した。これは宮古製鍊所が操業を開始したばかりでまだ業績に奇異しなかつたためである。今期は、この宮古製鍊所の活動が漸く本格化して來たので業績も回復を示す。未だ正確な数字は判らぬが、田老鑛山、宮古製鍊所關係と田川炭鑛、大坂工場等全部引くるめて五百三、四十万圓の利益が予想される。平均拂込資本も殖えるが利益率は二割四分とならう。百万圓の増益、利益率にして一分の向上である。

【業績回復への途】一時懸念された田老鑛山の出鑛力も順調であり、加ふるに銅の値上も實現されたので、田老鑛山、宮古製鍊所を中心とする産銅事業は今後一段と収益力を増す筋合にある。更に田川炭鑛の出炭も漸次本格化しつゝあるから、當社の業績は今後回復期に入るものと思はれる。

【最終拂込徴収】来る五月一日、最終拂込六百二十五万圓を徴収することに決定した。これは大部分借入金金の返済に當てられる。併しなほ一千万圓以上の借入金が残る。これは近い裡に返済を要するものばかりだし、其他諸擴張費にまだ二千万圓を必要とするから、必然増資の筋合にある。増資は時期の問題と云へよう。

【設立】	大正二年五月	【資産負債】	九十二年
【決算期】	三月、九月	株主資本	九、三〇〇
【事業】	過燐酸、硫酸、硝酸、苛性苛達、合成鹽酸、燒碱、石炭化鑛、銅	積立金	一、〇〇〇
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 14,750,000	外部負債	三、八〇〇
【株数】	新(五〇、〇〇〇) 舊(五〇、〇〇〇) 五〇,〇〇〇	借入金	三、八〇〇
【重役】	社長 小野 義夫	支拂手形	三、〇〇〇
常務 横田小八	取締役 山田復之助	流動資産	三、〇〇〇
取締役 小島基太郎	監査 新田直太郎	現金預金	三、〇〇〇
石崎 石三	紙園清太郎	【收支勘定】	九十二年
【株主名】	十三年上 十三年下	收入	八、九〇〇
【大株主】	十三年上 十三年下	支出	六、〇〇〇
【設立】	大正九年九月	【名義書換】	十歳
【決算期】	三月、九月	【新券交付】	三十歳
【事業】	鑛山並精鍊業、海運並倉庫業		
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 11,000,000		
【株数】	新(五〇、〇〇〇) 舊(五〇、〇〇〇) 五〇,〇〇〇		
【重役】	社長 石原新三郎		
常務 林田 七夫	取締役 高田儀三郎		
川上豊太郎	監査 山田 留吉		
【株主名】	十三年上 十三年下		
【大株主】	十三年上 十三年下		
【設立】	大正九年九月		
【決算期】	三月、九月		
【事業】	鑛山並精鍊業、海運並倉庫業		
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 11,000,000		
【株数】	新(五〇、〇〇〇) 舊(五〇、〇〇〇) 五〇,〇〇〇		
【重役】	社長 石原新三郎		
常務 林田 七夫	取締役 高田儀三郎		
川上豊太郎	監査 山田 留吉		
【株主名】	十三年上 十三年下		
【大株主】	十三年上 十三年下		

石原産業海運株式会社

(本社) 神戸市神戸區海岸通八(電三宮三三三)
(出張所) 東京市麹町區丸ノ内二ノ二(中一三三號館)

【三月期減益】昨年九月期の成績は大して良好なものでなく、大體前期と同額のものであつたが、今年三月期は幾分減益を免れないやうに思はれる。減益の理由は馬來半島ケマン鑛山が十一月から三月まで出鑛を休止した爲、鑛石輸入量が減り、従つて又其所から舉がる利益も減少を免れなかつた譯だ。決算までにはまだ數句を残すので、判然した事は云へないが、二百二、三十万圓の利益に落着くのではないかと思はれる。利益率は一割七、八分見當になる譯だから一割配當の維持は一寸苦しい。然し減配はしないであらう。來期から業績がよくなるからだ。

【九月期増益】來九月期ともなれば、紀州鑛山が充分偉力を發揮するやうになるし、馬來半島からの鑛石輸入も増加する筋合にあるから、増益は必至と見られる。恐らく二百五、六十万圓の利益は期待出来るのではないかと思はれる。これだけの利益が出れば一割配當もそう無理でなくなるだらう。

【増資】當社は最近老大な擴張、新設計畫を持つてゐる。紀州鑛山の擴大と九州旭金山の浮遊選鑛場の設置及び青化製鍊所の建設、四日市工場内の中和工場の建設等々がある。これ等には少く共一千七、八百万圓近い資金を要するから、増資は必至と見られる。

【設立】	大正九年九月	【資産負債】	九十二年
【決算期】	三月、九月	株主資本	三、〇〇〇
【事業】	鑛山並精鍊業、海運並倉庫業	積立金	一、〇〇〇
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 11,000,000	外部負債	三、八〇〇
【株数】	新(五〇、〇〇〇) 舊(五〇、〇〇〇) 五〇,〇〇〇	借入金	三、八〇〇
【重役】	社長 石原新三郎	支拂手形	三、〇〇〇
常務 林田 七夫	取締役 高田儀三郎	流動資産	三、〇〇〇
川上豊太郎	監査 山田 留吉	現金預金	三、〇〇〇
【株主名】	十三年上 十三年下	【收支勘定】	九十二年
【大株主】	十三年上 十三年下	收入	八、九〇〇
【設立】	大正九年九月	支出	六、〇〇〇
【決算期】	三月、九月	【名義書換】	十歳
【事業】	鑛山並精鍊業、海運並倉庫業	【新券交付】	三十歳
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 11,000,000		
【株数】	新(五〇、〇〇〇) 舊(五〇、〇〇〇) 五〇,〇〇〇		
【重役】	社長 石原新三郎		
常務 林田 七夫	取締役 高田儀三郎		
川上豊太郎	監査 山田 留吉		
【株主名】	十三年上 十三年下		
【大株主】	十三年上 十三年下		

北海道炭礦汽船株式會社

(本社) 東京市麹町區丸の内一ノ二(電九ノ内話一〇)

【一割配當目標】當社は昨年度下期の決算に於て、普通九分の外に一分の特配を行つた。これは當社の創立五十周年記念の爲めであつた元々當社の業績は良好で此の期を待つまでもなく、増配可能であつたが、自重して九分に据置いてゐたのである。當社も、石炭統制の壓迫を蒙つてこゝ二、三期は業績は低下してゐるが若し會社がやらうと思へば一割配當に出來たのである。本年上期も更に若干業績が悪化しても一分の特配を普通配當に引直して一割とすることに支障はない。果して何うするか不明だが、一割配當を目標として投資してゐて大過ないのではないかと思ふ。

【獎勵策期待】尤も業績の方は本年上期は低下するかも知れぬ。と言ふのは昨年度下期は上期より僅か乍ら良好であつたが、これは此の期に日本製鋼所株十萬株を賣却し、其の代金十六萬六千七百圓の臨時的收入があつたことが、利益増加に大いに役立つたからである。その上採算は依然改善されず、増産も多少しきくないから、本年上期の利益は昨年度下期に及ばないであらう。併し一割五分の利益率を割ることはないと思ふ。政府は愈々石炭の増産獎勵を計ることにしたが、これが實現されるれば當社の如き大炭礦會社は、その受くる好影響は大きい。石炭株の中では當社株は依然優良である。

東邦炭礦株式會社

(本社) 東京市麹町區丸の内二丁目一八番和ビル内(電九ノ内三、九元)

【今期減配せよ】當社は十三年九月一日の値下げの打撃を最も強く感じた會社の一つである。下表に見る通り、十三年下期以降の成績の急低下は物凄く、昨年度下期は利益率一割一分となり、遂に二分減の八分配當となつた。然し當社の内容から見る限り、今後の立直りに備へるためには、今期邊り今一度減配が必要の様に思はれる。

【成績悪化の原因】昨年四月値下げの對策として採つた當社九州礦區の賣却條件によると、差當り礦區賣却代金千四百萬圓を貸付金の形にし、之に對して當社が最低年八分の利息を得る仕組みである。つまりこの時以來、當社は残された北海道彌生一礦の稼行益と年百二十萬圓の利息収入によつて、やつて行くことになつたのだ。處が運悪く、北海道の彌生礦が、昨年夏頃炭層の亂れに遭遇し、一方出炭コストは増嵩した。而も痛かつたのは、礦區賣却によつて昭和の統制から脱しながら、最近に至る迄、互助會並みの高値炭價の抜ひを受けなかつたことである。

【立直りの時期】事ここに至らしめた一つの素因は、當社が過去に於て數多くの中小炭礦を吸収しつゝ急膨脹したからだ。従つて此の際、内容的に苦汁抜けるには思切つて六分程度に減配する必要がある。すれは炭礦界安定期到來と共に、又伸びることが出來よう。

【設立】 明治二十二年十一月
 【決算期】 五月、十一月
 【事業】 石炭採掘販賣並回清業
 【資本】 公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
 【株主】 新 1,000 株 100,000 圓
 舊 1,000 株 100,000 圓
 總計 2,000 株 200,000 圓

【重役】
 會長 島田勝之助 取締役 日共平左衛門
 専務 三國庄二郎 長谷川一郎
 常務 藤井暢七郎 川島 三郎
 取締役 加藤 徳行 志田 勝民
 赤羽 克己 松岡 潤吉
 神野 禮助 横山 友範

【大株主】
 内 頭 一五七三三井礦山 100,000
 三井物産 100,000 三井合名 100,000
 三井信託 100,000 三井生命 100,000
 三井生命 100,000 三井物産 100,000
 三井生命 100,000 三井物産 100,000

【設立】 大正八年十月
 【決算期】 五月、十一月
 【事業】 石炭採掘
 【資本】 公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
 【株主】 新 1,000 株 100,000 圓
 舊 1,000 株 100,000 圓
 總計 2,000 株 200,000 圓

【重役】
 社長 赤司初太郎 取締役 太田 清藏
 取締役 岡村左右松 足立 盛夫
 加島安治郎 安藤 健
 中東光五郎 監査 後宮信太郎
 徳永 重康 金澤冬三郎

【株主】 十三年下 十三年上 十三年下
 總計 2,000 株 200,000 圓
 【大株主】
 大日本製糖 1,000,000 日本生命 1,000,000
 大島製糖 1,000,000 赤司初太郎 1,000,000
 大島製糖 1,000,000 竹村棉業 1,000,000
 後宮信太郎 1,000,000
 【事業規模】 事業地 北海道空知郡網走
 【事業成績】 (單位 1,000 圓) 十三年下期現在
 出炭高 3,500 噸 販賣高 3,500 圓
 【投資會社】 深川炭礦、雨瀧炭礦、
 樽形炭礦
 【資本異動】 十三年四月倍額増資第一回
 三回五割増資、新東邦、大谷炭礦を合
 併、五割増資、九月五割増資、
 十三年二月三割増資(最終) 拂込増資、
 十一月倍額増資第一回三回五割増資

【資産負債】
 十三年 十四年
 株主資本 1,000,000 1,000,000
 積立金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 社債 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000
 使用總資本 1,000,000 1,000,000
 固定資産 1,000,000 1,000,000
 流動資産 1,000,000 1,000,000
 現金預金 1,000,000 1,000,000
 流動負債 1,000,000 1,000,000
 短期借入金 1,000,000 1,000,000
 外部負債 1,000,000 1,000,000
 借入金 1,000,000 1,000,000
 支拂手形 1,000,000 1,000,000

〔石炭 礦業〕

磐城炭礦

〔設立〕 明治二十六年十二月
〔決算期〕 五月、十一月
〔本社〕 東京市麹町區丸の内一ノ六ノ一 (電丸ノ内六〇一)
〔礦業所〕 福島縣石城郡内郷村

【二分減配】 當社は昨年度下期に遂に二分減配の八分となつた。言ふまでもなく、業績の低下が著しかつたからである。即ち利益率を見ると一割五分四厘となり、昨年度上期に比し七分四厘、若し十三年度上期に比すると實に一割六分八厘の激落である。従つて二分減配したけれども、決算は一層窮屈となつた。このまゝで進むと更に減配が必要となつて来る。そこで當社としては鮮人坑夫の獲得を計り、増産に努めてをる。政府でも増産奨励を断行することとしたので、業績の低下も喰止め得るであらう。然る言へば更に減配した方が堅實であるが、立直りの見込もあるから、八分配當に据置くであらう。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	新 10,000	舊 10,000
【役員】	社長 淺野總一郎 副社長 前川益以 常務 岡部正樹 取締役 倉田金之助 取締役 白石元治郎 取締役 阪谷芳郎 監査 遠山倍成 監査 遠山倍成	淺野 良三 小阪 梅吉 齊藤 順三 河合 得男 遠山 元一 遠山 元一
【大株主】	十四年十一月期	三〇名
【事業規模】	探採礦區 10 (九、五五九千坪)	
【名義書換】	十錢	【新券交付】 五十錢

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	新 10,000	舊 10,000
【役員】	社長 渡邊寛一郎 副社長 島岡亮太郎 常務 門野重九郎 取締役 大崎新吉 取締役 富國徹兵 監査 本宿經夫 監査 大貫家次	島山 藏六 大貫 家次 本宿 經夫 大崎 新吉 門野 重九郎 渡邊 寛一郎
【大株主】	十四年十一月期	三〇名
【事業規模】	探採礦區 10 (九、五五九千坪)	
【名義書換】	十錢	【新券交付】 三十錢

入山採炭

〔設立〕 明治二十九年二月
〔決算期〕 五月、十一月
〔本社〕 東京市京橋區銀座三ノ四大會別館内 (電京橋 番一七)
〔坑務所〕 福島縣石城郡湯本町

【一割持續】 當社は業績、内容とも優秀な採炭會社であるが、併し石炭統制の壓迫から逃れることが出来ず、著しい成績の低下に見舞れた。即ち十四年度下期の利益率は二割二分となり、前期に比し八分六厘の低下であり、更に十三年度上期に比すると實に三割四分七厘の大幅低下を示してゐる。尤も普通八分、特配二分の配當据置には支障なかつた。今期も前期並或は若干更に業績は低下するかも知れぬが、一割配當は動かぬと思ふ。投資會社たる大清水炭礦は本年上期に五、六分の初配當を行ふ模様である。また西戸崎炭礦も來年は配當が出来よう。政府の増産對策と相俟つて、當社も立直るであらう。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	新 10,000	舊 10,000
【役員】	社長 渡邊寛一郎 副社長 島岡亮太郎 常務 門野重九郎 取締役 大崎新吉 取締役 富國徹兵 監査 本宿經夫 監査 大貫家次	島山 藏六 大貫 家次 本宿 經夫 大崎 新吉 門野 重九郎 渡邊 寛一郎
【大株主】	十四年十一月期	三〇名
【事業規模】	探採礦區 10 (九、五五九千坪)	
【名義書換】	十錢	【新券交付】 三十錢

太平洋炭礦

〔設立〕 大正九年四月
〔決算期〕 五月、十一月
〔本社〕 東京市日本橋區區町三井三號館内 (電日本橋五)

【増産力に期待】 當社は北海道では北炭、三井鑛山、菱鑛等に次いで、これからの増産に期待の持てる會社である。所有鑛區は、試験を含めると五千萬坪に及ぶが、これは當社の資本金一千百萬圓 (拂込九百九十萬圓) に對し、確に充分ゆとりのあるものである。
【増配拂込氣構へ】 目標の年間××萬噸送炭計畫實施のため、最近新規に武佐坑を開けることになつたが、之は來年中頃迄に着炭する見込だ。左表に見る通り十三年九月一日の値下げも、殆ど打撃となつてゐない。五月份は創立廿週年にも當るから、一分増配が實現するかも知れぬ。最終拂込・増産も期待される。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	新 10,000	舊 10,000
【役員】	會長 片山眞五郎 取締役 松方 正熊 取締役 大東 藤吉 取締役 間瀬 三郎 取締役 山一 龍彦 監査 清水 源作 監査 岡本 達三 監査 遠山 元一 監査 遠山 元一	片山 眞五郎 松方 正熊 大東 藤吉 間瀬 三郎 山一 龍彦 清水 源作 岡本 達三 遠山 元一 遠山 元一
【大株主】	十四年十一月期	三〇名
【事業規模】	探採礦區 10 (九、五五九千坪)	
【名義書換】	十錢	【新券交付】 三十錢

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	新 10,000	舊 10,000
【役員】	社長 小村千太郎 副社長 池田敏三郎 常務 杉浦久三郎 取締役 福井銀行 監査 勝俣 英夫 監査 鈴木春之助 監査 交野三三 監査 各務良幸	小村 千太郎 池田 敏三郎 杉浦 久三郎 福井 銀行 勝俣 英夫 鈴木 春之助 交野 三三 各務 良幸
【大株主】	十四年十一月期	三〇名
【事業規模】	探採礦區 10 (九、五五九千坪)	
【名義書換】	十錢	【新券交付】 五十錢

九州炭礦汽船

〔設立〕 明治四十年十一月
〔決算期〕 四月、十月
〔本社〕 東京市麹町區丸の内三本館 (電丸ノ内三〇)

【業績安泰】 當社は石炭一本の會社である。石炭一本の會社は殆んど業績の低下を見てゐるが、流石に優良會社だけあつて、昨年度下期も九十五萬一千圓の利益をあげ、三割四厘の利益率を持續し、前期と殆んど變らない好成绩であつた。
當社の缺點は大増産計畫なく、膨脹性の乏しいことである。併し今日の如き物資、勞力不足では大増産計畫を樹て、も實行に手間取り、資本の壓迫を蒙る怖れがある。そこになると當社の如き功成り名遂げた會社は安定性があると言ふものだ。無論一割二分の配當は恒久的である。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	新 10,000	舊 10,000
【役員】	社長 小村千太郎 副社長 池田敏三郎 常務 杉浦久三郎 取締役 福井銀行 監査 勝俣 英夫 監査 鈴木春之助 監査 交野三三 監査 各務良幸	小村 千太郎 池田 敏三郎 杉浦 久三郎 福井 銀行 勝俣 英夫 鈴木 春之助 交野 三三 各務 良幸
【大株主】	十四年十一月期	三〇名
【事業規模】	探採礦區 10 (九、五五九千坪)	
【名義書換】	十錢	【新券交付】 五十錢

〔石炭 礦業〕

【石油 礦業】

早山石油

【設立】昭和十年五月
【決算期】六月、十二月
【本社】東京市豊町區丸の内二ノ一六（電丸之内三三二）
【支社】大阪市北區濱通堂島七

【成績好調】昨年十二月期は利益金百五十一萬六千圓、利益率三割三分七厘に上り、九分配當を餘裕裡に据置いた。前期に比し四十萬八千圓の増益、利益率は拂込増加にも拘らず四分二厘の向上であつた。右は割當數量増加による賣上増に基くものだ。

【擴張と拂込】建設中の川崎工場のバリソール式脱臘装置は二月上旬に試運轉を完了した。デュオソール式落劑精製装置は資材手當を了り、愈々建設に着手する。其他附屬設備の擴張も續行する。同擴張のため未拂込金は順次徴收される。拂込徴收で資本負擔は増すが、従來の業績に餘裕があるから、九分配當維持に懸念は要らぬ。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 900,000
【株数】新(500) 100,000
【重役】社長 早山與三郎
取締役 伊藤英夫、松江春次、伊藤英夫、松江春次、伊藤英夫、松江春次
監査 森田 監査、小泉 監査
【大株主】十四年十二月期 早山會社 1,000,000、川崎汽船 1,000,000、山一證券 1,000,000、飯野商事 1,000,000、川崎、船川、新街
【工場所在地】川崎、船川、新街
【事業成績】十四年十二月期 売上高 1,000,000、利益 300,000、純利益 200,000
【名義書換】十錢【新券交付】三十錢

【資産負債】
株主資本 1,000,000
外債 100,000
流動負債 100,000
流動資産 1,000,000
固定資産 100,000
【業績】平均拂込 1,000,000
【株主】
十四年十二月 100,000
十五年一月 100,000
【名義書換】十錢【新券交付】三十錢

朝鮮石油

【設立】昭和十年六月
【決算期】四月、十月
【本社】京城府黃金町一ノ一八〇（電本局二七）
【事務所】東京市豊町區丸の内日東鐵業汽船内（電丸之内三五五）

【成績向上顯著】昨年十月末締切の十四年下期は素晴らしい成績の向上を示した。販賣數量は燈油が季節的關係から幾分の減少を免れなかつたが、其他は著しき向上を示し、殊に機械油は賣行が多かつた。この販賣量増加に加へ、作業の合理化で生産費が低下したためである。即ち利益金二百十九萬九千圓に達し、上期より一舉五十二萬一千圓の増益となつた。拂込資本の増加にも拘らず利益率は三割強と三分の向上となつてゐる。かくて一分増配の九分配當が實現した。

【拂込期待】當社は目下製油設備の擴張を急ぎつゝあるから、第四の拂込も次々に行はれる。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株数】新(500) 100,000
【重役】社長 橋本主三郎
取締役 村野多雄、上内彦策、山内彦策、山内彦策、山内彦策
監査 山内彦策、山内彦策
【大株主】十四年十月期 日本石油 1,000,000、日本製油 1,000,000、東洋拓殖 1,000,000、三井物産 1,000,000
【事業成績】十四年十月期 売上高 1,000,000、利益 300,000、純利益 200,000
【名義書換】十錢【新券交付】五十錢

【資産負債】
株主資本 1,000,000
外債 100,000
流動負債 100,000
流動資産 1,000,000
固定資産 100,000
【業績】平均拂込 1,000,000
【株主】
十四年十月 100,000
十五年一月 100,000
【名義書換】十錢【新券交付】五十錢

三菱重工業株式会社

【本社】東京市豊町區丸の内二ノ四（電丸之内三三一）
【支店】東京市蒲田區中丸九子町三三

【受託旺盛】十四年下期は製作引渡高約一億八千圓を數へたに拘らず、期末の注文残高約五億六千圓と上期末に比し一割近い増加となつた。期中の新規受託が多い爲めだ。近來外面的にも内面的にも設備擴充に邁進し、注文消化力は高まつてゐる事と思ひ併せ、當社の作業が時局柄如何に繁忙を呈しつゝあるか判る。

【操業努力】無論當社としても全面的な物資統制、燃料動力の手當、素材或は部品配給等々の艱肘の域外にある譯でなく、而も他面製品價格抑制を受けてをり、収益向上の度合ひが多少とも鈍化する事情にある。併し直接軍需品は素より、優秀な製作成績を發揮し、事變需要の第一線に立つてゐる。従つて營業成績も良好に推移し、増配こそせぬが七分配當に充分な餘裕を残してゐるのである。

【増資拂込】一億二千萬圓増資に對する第一回拂込六千萬圓を去る三月一日徴收した。昨年十一月一日徴收の最終拂込千五百萬圓と合せ、一部は借金返済、大部分は設備擴充に向け更に一層受託の消化に盡す譯だ。外國へ注文の機械類も大体は入手出来る模様だ。今期は右拂込の負擔が相當加重するので、表面の利益率は前期の割七分九厘よりやゝ低下するかも知れぬ。然し實際は三割に近いものと推測されるから懸念を要しない。準公債株として保有されてよい。

【造船 船渠業】

【設立】大正六年十月
【決算期】六月、十二月
【事業】船舶、鐵道、航空機、各種車輛、自動車、各種機械並鐵工品
【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株数】新(500) 100,000
【重役】會長 斯波孝四郎
取締役 伊藤達三、岩倉信太郎、原耕三、古澤 伊藤達三、岩倉信太郎、原耕三、古澤 伊藤達三、岩倉信太郎、原耕三
監査 後藤直太、川井源八、山室宗文
【大株主】三社 1,000,000、三井物産 1,000,000、日本生命 1,000,000、三井海上火災 1,000,000、東京海上火災 1,000,000
【事業規模】十二年下期現在
造船 一七艘、乾船渠 九條
浮船渠 一、潮入船渠 一條
【工場】長崎（造船、製鋼）、神戸、鹿島、横濱（造船）、名古屋（航空機、發動機）、東京品川、蒲田、多摩川（機器）
【事業成績】十四年十二月期 売上高 1,000,000、利益 300,000、純利益 200,000
【投資】日本製鐵、東京鐵材、東京計器、大日本造船、滿洲航空、滿洲機器
【資本異動】十四年三月、七月各三回、（最終）拂込徴收

【資産負債】
株主資本 1,000,000
外債 100,000
流動負債 100,000
流動資産 1,000,000
固定資産 100,000
【業績】平均拂込 1,000,000
【株主】
十四年十二月 100,000
十五年一月 100,000
【名義書換】十錢【新券交付】五十錢

【造船船渠業】

株式 東京石川島造船所

(本社) 東京市京橋區佃島五四(電京橋 三六八)
(出張所) 大阪市北區中之島三井物産ビル内

【拂込徴収】五月一日四百萬圓の拂込を徴収する。言ふ迄もなく擴張費の一部を賄ふ爲だ。當社の擴張はどしどし實施されて居る。第一は横濱工場の第二次擴張で、航空機部の充實及び機械工場の増設が行はれる。第二は月島工場の擴張で、造船部は大半完了、船渠建造中だ。第三は石川島の整備で、鍛錬、製鋼工場が建設される。更に月島市有地買収計畫もあり、投資會社出資増加も必至だ。當面緊急資金だけでも千萬圓に上り、計畫資金に至つては二千萬圓に達する。擴張の進行と共に順次拂込を取らう。

【下期好調】十四年下期利益金は二百一十七萬圓で、社内保留百一十二萬五千圓に上り、配當は八分を据置いた。時局以來一貫せる堅實經營の繼續と云ふ譯だ。

【引續き好調】手持工事は現在八千萬圓を下らない。前期引渡高は千八百萬圓を越したが、今期も是以下と云ふ事はない。尤も鋼材配給遅延で支障は蒙るし、更に努力不足、節電も輕視出來ず、理想的な操業は困難であるが、現状維持には差し支へはない。利益金は矢張二百十萬圓位を予想される。四百萬圓の拂込増加の負担にも裕に堪へ得る。八分配當に難はない。増配も可能だが、當社の建前からまだまだ八分を据置くとであらう。

【設立】	明治二十二年一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	小形艦船、タービン、艦船用主補機械、發動機、起重機、自動車部品、各種機器
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株数】	新(1,250) 舊(500) 3,000
【重役】	社長 松村 菊勇 取締役 笠原 逸二 常務 村田 哲郎 監査 新井 源水 取締役 末常 共介 大橋 源水 橋本 辰吉 藤澤武之助 庄司 健吉 山田 泰作
【株主数】	十一年上 十一年下 十一年中 十一年末現在
【大株主】	鶴見證券 三〇〇〇〇 國際信託 三〇〇〇〇 富國 三〇〇〇〇 日本製鋼所 九〇〇〇〇 鶴島直泰 七〇〇〇〇 福島生命 七〇〇〇〇 日之出汽船 六〇〇〇〇 馬場正治 六〇〇〇〇
【事業規模】	十二、十一月末現在 造船部 二、四、四噸、六、六噸用 船渠 全長 幅員 深
【事業成績】	十一年上 十一年下 十一年中 十一年末現在
【投資會社】	東京自動車工業、立川飛行機、石川島芝浦タービン、日本飛行機、奉天製作所
【資本異動】	十四年六月倍額増資第一回一三〇〇〇〇〇〇 拂込徴収

【資産負債】	十三年 十四年 十五年
株主資本	一七、九〇〇 一八、〇〇〇 一八、〇〇〇
積立金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
外部負債	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
社債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
借入金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	一八、〇〇〇 一八、〇〇〇 一八、〇〇〇
固定資産	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
流動資産	八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇
現金預金	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
【收支勘定】	十三年上 十三年下 十三年中 十三年末
収入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【配当】	十三年上 十三年下 十三年中 十三年末
配当率	一〇〇% 一〇〇% 一〇〇%
【株主数】	十三年上 十三年下 十三年中 十三年末
株主数	一〇〇 一〇〇 一〇〇
【名義書換】	五 十三年上 十三年下 十三年中 十三年末

函館船渠

【設立】 明治二十九年十一月
【決算期】 六月、十二月
(本社) 函館市辨天町八八 (電 三三〇)
(出張所) 東京市麹町區丸の内(電丸の内 三五五)

【室蘭船渠を合併】子會社室蘭船渠を三月一日合併した。合併比率は函館十に對し室蘭七で、室蘭は拂込百八十五萬圓を六十六萬五千圓に減資して合併される。従つて合併後の當社資本金は六百六十六萬五千圓全額拂込となる。合併の目的は物資不足に對處す可く資本經營の合理化を計るにある。

【一割繰上】十二月期の利益金は七十萬一千圓、利益率二割三分三厘で成績は好かつた。造船受注は十隻、陸上工事は日鐵丈でも八百萬圓ある。更に室蘭の合併で六、七百萬圓の収益増が見込める。一割維持は出來よう。乾船渠完成は今年一杯で、その後増資が問題となる。

【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株数】	新(1,000) 舊(500) 1,500
【重役】	社長 大塚 繁 常務 和田 三郎 取締役 小原 幸一郎 高橋 保 石井 太吉 渡邊 二郎 伊藤 三三 林 其之丞 監査 川田 吉衛 平塚 常次郎 富永 文吉
【大株主】	十四年十一月期 北〇名
石井 鐵工 一八、八〇〇 茶谷 義教 一〇、〇〇〇	
中山 俊彦 三〇、〇〇〇 加藤 榮治 三〇、〇〇〇	
【造船業】	十一年上 十一年下 十一年中 十一年末
第一號 (1,000) 第二號 (1,000) 第三號 (1,000) 第四號 (1,000)	
【事業成績】	十三年上 十三年下 十三年中 十三年末
營業收入(千圓) 三、八〇〇 三、四〇〇 三、〇〇〇	
【資産負債】	十三年 十四年 十五年
株主資本	一七、九〇〇 一八、〇〇〇 一八、〇〇〇
積立金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
外部負債	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
社債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
借入金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	一八、〇〇〇 一八、〇〇〇 一八、〇〇〇
固定資産	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
流動資産	八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇
現金預金	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
【株主数】	十三年上 十三年下 十三年中 十三年末
株主数	一〇〇 一〇〇 一〇〇
【名義書換】	十 十三年上 十三年下 十三年中 十三年末

川南工業

【設立】 昭和十一年九月
【決算期】 七月、一月
(本社) 大阪市北區中之島二ノ二五(電北濱 六一四)
(支社) 長崎市梅ヶ崎町四(電 〇〇)

【拂込徴収】當社に去る二月一日一株十七圓五十錢總額三百五十萬圓の拂込を徴収した。残る未拂込百五十萬圓は四、五月頃に徴収する予定である。この資金は造船所の擴張、子會社の拂込、炭礦の開發等々の資金に充當することになつてゐる。

【前途】中心事業の造船部は依然良好な推移を辿りつゝあるし、水産部も又輸出の好調で良好な成績を上げてゐる。従つて拂込資本の膨脹があつても、利益率は低下することなく済ませるだらう。とすれば一割配當は余裕を持つて持續可能と云ふことになる。基礎を固めた當社の前途は安心してよからう。

【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株数】	新(1,000) 舊(500) 1,500
【重役】	社長 川南 豊作 常務 藤原 哲太郎 取締役 高崎 達之助 濱口 富三郎 田上 爲次郎 鳥居 章義 松本 茂 川南 太郎 川南 秀造 井家 上裕 上野 孫八 下 信雄 監査 川原 金作 松尾 孫八
【大株主】	十四年七月期 北〇名
川南 豊作 一八、八〇〇 川南 共濟會 一〇、〇〇〇	
長崎 汽船 七、〇〇〇 川南 秀造 三、〇〇〇	
【工場所在地】	造船所 一、焼島 鑛業所 (向山)工業所 (浦崎、平戸、朝鮮)
【事業成績】	十三年上 十三年下 十三年中 十三年末
營業收入(千圓) 三、八〇〇 三、四〇〇 三、〇〇〇	
【資産負債】	十三年 十四年 十五年
株主資本	一七、九〇〇 一八、〇〇〇 一八、〇〇〇
積立金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
外部負債	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
社債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
借入金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	一八、〇〇〇 一八、〇〇〇 一八、〇〇〇
固定資産	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
流動資産	八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇
現金預金	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
【株主数】	十三年上 十三年下 十三年中 十三年末
株主数	一〇〇 一〇〇 一〇〇
【名義書換】	五 十三年上 十三年下 十三年中 十三年末

機械製作業

株式新鴻鐵工所

(本社) 東京市麹町區丸ノ内南有樂館内(電丸ノ内三〇二一五)
(出張所) 大阪市北區中之島朝日ビル(電北濱三〇一三)

【工作機部門】最近工作機の滞荷が激増し、工作機械會社の賣物が相當の數に上ると言はれてゐる。事實、工作機械會社の中には不良なものがあり、それ等が瀕死の状態にあることは確かだ。然し當社の工作機部門はそれ等とは著しく趣を異にする。

【兵機工場】浦和に建設中の兵器工場は既に一部完成し、運轉を開始した。其の兵機の性能、製造規模に就いて詳述する自由を持たぬが、素晴らしいものである。また此所から充分な利益は擧がらぬが、行く行くは相當業績に寄與する工場とならう。頃日當工場を分離獨立せしめ、其の株式を當社の株主に割當すると言ふ噂が立つたが、獨立會社として一割の配當を直ちになし得るかどうかは疑問であるから、今これを分離獨立せしむることが有利であるかどうかには多分の疑問が持たれる。當局者にも今のところ其の意志はない。

【配當は安泰】輸送力の強化が生産力擴充に缺くべからざる要素である事は此所に屢説を要しないが、此のため當社の車輪製作は益々繁忙を極めることにならう。其の他ディーゼル機關、鑿井製油機械の製作も依然として多忙を極めてゐる。重點主義の徹底で當社に期待されるところは益々多く、従つて原料高の惱みはあるにしても、一割配當には何等の不安はない。

【設立】	明治四十三年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	機械器具並車輛及船舶の製造 販賣計量器の販賣
【資本金】	公稱 20,000 拂込 15,000 新(5,000) 100,000
【株主名】	新(5,000) 100,000
【重役】	社長 笹村 吉郎 取締役 鈴木 春雄 専務 長島 吉次郎 加藤 重男 取締役 橋本 圭三郎 大内 愛七 山口 誠太郎 監査 中野 孝次 山口 八次 白野 景作
【株主名】	十三年上 十三年下 十四年上 十四年下 總數 2,100 2,300 2,500 2,700
【大株主】	山口 誠太郎 2,000 西郷 合名 1,500 帝國生命 3,000 福井 銀行 9,000 日本石油 9,000 富田 鐵工 8,000 中野 興業 6,000 笹村 吉郎 6,000
【事業規模】	新鴻工場、工作機械、鐵道車輛、船舶、空軍壓縮機、脚筒、ディーゼル機關、汽機汽鍋、鑿井製油機械
【投資會社】	新鴻製材所、新鴻鑄造所、日本石油、東京重機製造其他
【資本異動】	十三年九月一千万圓増資、十月第一回十四年九月第二回各二千萬圓拂込徴収

【資産負債】	廿四年 廿五年
株主資本	2,500 2,500
積立金	2,500 2,500
外部負債	6,000 6,000
支拂手形	1,000 1,000
流動負債	2,000 2,000
流動資産	2,000 2,000
現金預金	1,000 1,000
【收支勘定】	十三年上 十三年下 十四年上 十四年下
収入	1,000 1,000 1,000 1,000
支出	1,000 1,000 1,000 1,000
【名義書換】	十 十 十 十

機械製作業

株式池貝鐵工所

(本社) 東京市麹町區有樂町一ノ十一東日會館(電丸ノ内五六一八)

【業績向上】昨下期の業績は一段と好化した。利益金は百八十八萬四千圓、利益率は三割二分に當る。昨上期に比し利益金は五十萬五千圓、利益率は八分の各向上である。勿論配當は、一割を据置いたが、斯く著しい増益を見たのは製作高が増加したからである。今後此の情勢は續く。

【製品は優秀】當社は、新鴻、日立、唐津、大隈鐵工と共に工作機械の五大メーカーとして知られてゐるが、其の製品は極めて優秀で當社の旋盤は業界第一位のものとして定評がある。これと言ふのも當社が工作機械界のパイオニヤとして古き歴史と技術を持つてゐることに依ること勿論だが、他方池貝鑄造、池貝チツクと言つた子會社をして優秀なる部品を供給せしめつゝあるところにも依るのである。即ち子會社と一体となつて、フレームの鑄造から、工作機としての仕上げまでを一貫的にやつてゐるところに強味があるのだ。高級鑄物の技術的向上を計るために鑄造會社ではスチール・スクラップを用ゐない電氣爐の建設を行ひつゝある。

【擴張は續く】歐洲大戰と爲替安、日米通商條約廢棄等の結果高級工作機は著しく入手困難になつた。其所で當社は高精度の工作機製造に邁進することゝなつた。六郷工場、溝口工場の擴張は其の爲だ。

【設立】	大正二年四月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	各種工作機械、各種工具、内燃機關、高級印刷機械
【資本金】	公稱 20,000 拂込 15,000
【株主名】	新(5,000) 100,000
【大株主】	池貝 庄太郎 取締役 柏倉 吉三郎 池貝 恒次郎 早坂 力 池貝 今井 四郎 池貝 杉二 池貝 秀雄 池貝 三郎 池貝 秀雄 坂田 三郎
【事業規模】	發動機工場、東京芝罘本芝工作機械工場、東京芝罘三田四國町、川崎市戸手町
【事業成績】	十三年上 十三年下 十四年上 十四年下 營業收入(千圓) 1,500 1,900 2,000 2,500 工場經費(千圓) 500 500 500 500 營業經費(千圓) 500 500 500 500
【投資會社】	池貝鑄造所 池貝自動車製造 池貝チツク
【資本異動】	十三年九月六百萬圓増資第一回 十三年三月第二回三〇〇萬圓増資(最終) 拂込徴収十四年九月一千万圓増資第一回 三四五拂込徴収

【資産負債】	廿四年 廿五年
株主資本	2,500 2,500
積立金	2,500 2,500
外部負債	6,000 6,000
支拂手形	1,000 1,000
流動負債	2,000 2,000
流動資産	2,000 2,000
現金預金	1,000 1,000
【收支勘定】	十三年上 十三年下 十四年上 十四年下
収入	1,000 1,000 1,000 1,000
支出	1,000 1,000 1,000 1,000
【名義書換】	十 十 十 十

〔機械製作業〕

日本車輛製造株式會社

(本社) 名古屋市熱田區熱田東町字梅ノ木三三(瑞穂三六一)
(支社) 東京市豊町區丸ノ内二ノ二九ビル内(電丸ノ内六一三)

【拂込徴収】二月十三日の重役會で第三回拂込を一株に付十二圓半總額二百五十萬圓を徴収することに内定した。資金調整局の認可を待つて四月一日頃實行されよう。仁川工場の工事は大体豫定通り進行して居り、内地工場も機關車、客車工場の増設が進められてゐる。拂込金はその資金を賄ふ爲である。昨今の車輛不足は特に著しく、日滿支ブロック經濟の確立過程に於ける車輛需要の増加は計り知れないものがあり子會社滿洲車輛と共に益々繁忙な時期を迎へ一層の増産を要求されることにならうから増資もやがては實現するものと思はれる。

【内容優秀】資産内容は下表でも察せられる通り頗る優秀だ。其の上註文は激増して利益率は七割を越へ社内保留を毎期八割以上も行つて一層内容の充實を圖つて居るのだから資金に含みが多分にあるのも當然だ。

【今後も安泰】拂込徴収後の業績に就ても何等の心配を要しない。數字の根據を示すことを差控へねばならぬのを遺憾とするが、各工場をフルに運轉しても需要には到底應じきれぬ状態で今後の業績好調は疑ふべくもあるまい。従つて現行一割配當には何等の不安もないのである。

【設立】 明治二十九年八月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 各種車輛、自動車、鐵道用品その他諸機械製造、鑄造品、鍛造品、鋼製品及非鐵合金鑄物の製造販賣

【資本金】 公稱 10,000,000 拂込 12,250,000
新 (11,250,000) 舊 (1,000,000)

【重役】 社長 三瓶 勇佐 取締役 小坂 精二
副社長 秋山 正八 川喜多忠義
常務 岩垂 裕三 伊藤信代
取締役 三輪 善兵衛 常監 後藤 英一
村上 季平 監査 天野 文司
村野 隆 兒矢野 昌平

【株主数】 本年下 1,133
本年上 1,133

【大株主】 天野 春一 1,000 後藤 幸三 1,000
住友生命 6,000 日本生命 1,000
第百銀行 2,000 明治生命 1,000
名古屋銀行 1,000 第一生命 8,000

【年産能力】 各種機關車
ガソリン各車
十五噸貨車
ホギー客車及電車

【工場地】 名古屋、東京、仁川、鳴海

【事業成績】 本年下 1,400 本年上 1,400
投資益(千圓) 1,400 1,400

【投資会社】 大連機械製作所、名古屋自動車製作所、同和自動車工業、滿洲車輛北支那開發、中支那振興

【資本異動】 十三年五月新三圓拂込徴収七月二千萬圓に増資、第一回三圓拂込

【資産負債】 十三年 十四年

株主資本 2,200,000 2,200,000
積立金 8,400,000 8,400,000
外部負債 5,000,000 5,000,000
支拂手形 500,000 500,000
使用總資本 16,100,000 16,100,000

固定資産 7,700,000 7,700,000
流動資産 8,400,000 8,400,000
現金預金 2,200,000 2,200,000

【收支勘定】 本年上 本年下
收入 1,400,000 1,400,000
支出 1,400,000 1,400,000

【構成比率】 本年上 本年下
流動比率 100% 100%
固定比率 100% 100%

【名義書換】 五錢 新券交附 二十錢

〔機械製作業〕

株式滿洲工廠

(本社) 滿洲國奉天大東邊門外(電奉天二二二)
(支店) 大阪市東區備後町第二野村ビル(電本町二五)

【業績好轉】當社の成績は相次ぐ擴張の爲め未働資本の壓迫で久しく停滞状況にあつたが、昨下期に一轉してかなり目立つた向上を示した。即ち利益金をみると九十四萬三千圓で、之は前期に比し九萬二千圓の増益に當り、利益率は二割一分九厘で二分一厘の向上となる。斯くて當社の一割配當は再び余裕を取り戻すこととなつた。

【好轉の原因】業績好轉の原因は之を一言にして言へば擴張分が収益期に入つたことである。當社は近年かなり積極的擴張を續行した。而かも擴張は全面的に行はれたので、最近の製作高は従來に比し倍増してゐる。現地調辨主義の強行で採算は内地會社よりかなり有利となつてゐる。少なくとも運賃、税金だけの差額は高く賣れる。これは現地會社の特權と稱してよい。

【前途】車輛、ドラム鑛工場の擴張は大体一段落を告げ、今後は愈本格的操業に入る譯だ。新設部内の鑛山用諸機械工場も漸次本格的の運営に向ひつゝあるから、之も轉ては當社収益力の基本的なものとなるだらう。原料問題は手放しに樂觀出來ないが、當社は既に相當のストックを持つてゐるから、之を喰ひ延しつゝ新な配給を受けることによつて殆んど心配は不要だ。資本構成の均衡保持の目的から近き將來拂込徴収が期待されてゐる。

【設立】 昭和九年五月

【決算期】 四月、十月

【事業】 車輛製造修理、鐵塔、橋梁、鐵骨其他鐵工品、一投鑄造品、

【資本金】 公稱 10,000,000 拂込 11,800,000
新 (11,800,000) 舊 (0)

【重役】 社長 山本 盛正
事務 根本富士雄 取締役 鶴岡 吉士
取締役 伊藤知頼 監査 奥村鹿太郎
水内 忠 渡野 榮一

【株主数】 本年下 1,133 本年上 1,133
總數(名) 1,133 1,133

【大株主】 根本富士雄 9,500 帝國生命 9,500
日本生命 7,000 大阪屋商店 6,100
野村合名 6,000 奥村商店 5,000
門倉清祐 5,100 渡野 榮一 5,100

【事業規模】 工場所在地：奉天市大東邊門外
工場能力：製作修理年一千萬圓
(十一年現在)

【事業成績】 本年下 1,400 本年上 1,400
受註高(千圓) 1,400 1,400
引渡高(千圓) 1,400 1,400
原價(千圓) 1,400 1,400

【投資会社】 滿洲鑛物、滿洲工作機新製作所

【資本異動】 十二年五月三萬圓増資、七月第一回三圓拂込徴収、七年五月三萬圓に増資五月第一回三圓拂込徴収

【資産負債】 十三年 十四年

株主資本 2,200,000 2,200,000
積立金 8,400,000 8,400,000
外部負債 5,000,000 5,000,000
支拂手形 500,000 500,000
使用總資本 16,100,000 16,100,000

固定資産 7,700,000 7,700,000
流動資産 8,400,000 8,400,000
現金預金 2,200,000 2,200,000

【收支勘定】 本年上 本年下
收入 1,400,000 1,400,000
支出 1,400,000 1,400,000

【構成比率】 本年上 本年下
流動比率 100% 100%
固定比率 100% 100%

【名義書換】 十錢 新券交附 三十錢

【機械製作業】

大阪機工株式會社

【本社】大阪市淀川区豊崎西通一ノ四（電北七〇〇一三）
【出張所】東大阪市鶴町區丸ノ内九ビル内（電九ノ内八三三）

【電力石炭】電力と石炭不足は当社にも相當の悪影響を與へてゐることは事實として認めねばなるまい。殊に新設擴張中の猪名川工場の進行を遅延せしめることは痛手だ。

【拂込・増資】去る一月十六日に新株一株に付十二圓半總額百七十五萬圓の拂込を徴収した。この拂込金は云ふ迄もなく目下進行中の猪名川新工場建設資金の一部に投下される。同工場はまだ第一期計畫の中の時局品工場が昨年十月から稼働し始めた程度で、これが本格的操業に入るのは三月頃からの見込みだ。また工作機械工場は寧ろこれから施工されると云つてもよい位だ。この建設資金は第一期、第二期合せて千五、六百萬圓に上る。されば今回徴収した第三回拂込では何程も賄はれない。従つて第四回拂込は勿論のこと、續いて再増資の氣運にもある譯だ。

【前途見透】當社の製品は和戰兩面に亘つてゐる。然し時局品は断然壓倒的である。工作機械製造には特別の技術を有してをり、その製品はかなり廣く知れてゐる。新工場完成後の生産高は月三百萬圓餘りを期待出来るから、半期の利益は最低五百萬圓見當を期待出来る。従つて拂込資本が倍額の二千四百萬圓となつても猶ほ一割の利益率になる。一割配當維持には充分である。

【設立】	大正四年十月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	紡機、工作機械、内燃機關、航空機部品、軍需品、量水器、冷凍機、電氣機械、オイルメーター
【資本金】	公稱二〇〇〇 拂込八、八〇〇
【株主数】	新(五〇) 100,000 舊(五〇) 100,000
【重役】	社長 原 清明 取締役 星住鹿太郎 取締役 木村 貞造 取締役 藤丸 肇 取締役 土屋 龍平 取締役 森井 俊三
【大株主】	日之出興業三二七 衛生株式會社二七、五〇〇 菊地 辰雄八四〇〇 聯合名五、〇〇〇 範多商店四六〇〇 木村 貞造四、二〇〇 太陽 商事三三〇〇 原 清明三、〇〇〇
【事業規模】	工場設備 旋盤外各種精密工作機械 工場 鑄造工場、合金工場、熱處理工場、分拆試験工場 本社工場 大阪市東淀川区豊崎之崎西通 加島工場 大阪市西淀川区加島町 猪名川工場 兵庫縣川邊郡(建設中)
【年産能力】	十二年下期現在 紡機 機三萬餘機 精密機三萬餘機 量水 機五萬圓 一般機械 五萬圓 冷凍機其他 五萬圓
【資本異動】	十四年上期年産能力 三〇〇〇千圓 百萬圓増資第一回三圓五辨込徴収百七 百圓増資第二回三圓五辨込徴収百七 九月第二回三圓五辨込徴収

【資産負債】	十二期 十四期
株主資本	11,500 12,000
積立金	8,800 11,100
外部負債	8,500 9,500
借入金	1,000 1,000
使用總資本	19,800 22,600
流動資産	11,500 12,000
固定資産	8,300 10,600
現金預金	3,500 3,500
【收支勘定】	十二年下期 十三年上期 十三年下期 十三年上期
収入	1,000 1,000 1,000 1,000
支出	1,000 1,000 1,000 1,000
【構成比率】	十二年下期 十三年上期 十三年下期 十三年上期
流動比率	115% 115% 115% 115%
固定比率	43% 43% 43% 43%
負債比率	43% 43% 43% 43%
【業績】	平均拂込 利益率
十二年下期	115% 115%
十三年上期	115% 115%
十三年下期	115% 115%
十三年上期	115% 115%
【株價】(實物)	高値 株 新 株
十四年	八〇・八 安値 高値 安値
十五年	七〇・七 安値 高値 安値
十六年	六〇・六 安値 高値 安値
十七年	五〇・五 安値 高値 安値
十八年	四〇・四 安値 高値 安値
十九年	三〇・三 安値 高値 安値
二十年	二〇・二 安値 高値 安値
二十一年	一〇・一 安値 高値 安値
二十二年	〇・〇 安値 高値 安値
二十三年	〇・〇 安値 高値 安値
二十四年	〇・〇 安値 高値 安値
二十五年	〇・〇 安値 高値 安値
二十六年	〇・〇 安値 高値 安値
二十七年	〇・〇 安値 高値 安値
二十八年	〇・〇 安値 高値 安値
二十九年	〇・〇 安値 高値 安値
三十年	〇・〇 安値 高値 安値
【名義書換】	十五錢 【新券交付】 五十錢

【機械製作業】

株式 大阪機械製作所

【本社】大阪市西淀川区佃町二ノ八（電福島 元若一七）
【出張所】東大阪市丸ノ内三ノ四有樂館内（電九ノ内八三三）

【下期成績】當社の昨年度下期成績をみると利益金二百二萬二千圓で拂込資本に對する利益率は三割五分一厘を示した。之を前期と比較すると利益金は二十四萬九千圓の増加に當り利益率は四分四厘の向上となる。一割二分配當はかなり餘裕を加へて來た。

【現況】當社の現況をみると、格別これぞと云つた擴張はないが、全般的に亘つて修繕、改良を加へつゝある。既に時局産業生産に轉換を完了したことだから、今後はこれを中心に發展策を計る方針である。就中鑛山用機械の生産に努力を拂ふことになつてゐるから、近き將來にこの部門は當社の重要な地位を占めることになるだらう。其の他の時局品も大体順調に進んでゐる。

【前途】原料手當の不圓滑と電力制限は當社の増産計畫に少なからぬ影響を及ぼしてゐるが、先行き何時緩和されるか見當がつかない。従つて生産高は當分或る程度の減少を免れないだらう。とすれば原價の増高は必至とみられるから、成績は昨年度下期を山として今後は下り坂となるのではあるまいか。果してどうなるか判らぬが、若しも成績が芳しくなれば、その時の配當はどうなるか。當社の一割二分配當は一般から相當問題視されてゐる際だから、こゝらで思切つて減配し、配當に安定性を持たせるべきではなからうか。

【設立】	大正九年二月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	工作、紡機、鑛山機械及鐵槽
【資本金】	公稱一六〇〇〇 拂込二二、〇〇〇
【株主数】	新(一〇〇) 100,000 舊(一〇〇) 100,000
【重役】	社長 山田多計治 取締役 山田 三郎 取締役 山田 又司 取締役 山田 新一 取締役 山田 新一 取締役 山田 新一 取締役 山田 新一
【大株主】	山田多計治 六、五〇〇 鴻池信託 六、五〇〇 東洋紡績 三、〇〇〇 鈴木正夫 六、五〇〇 坂井新次 六、〇〇〇 住友生命 六、〇〇〇 川上同族 五、〇〇〇 本田菊太郎 四、〇〇〇
【事業規模】	工場敷地總面積……………三三、三〇〇坪 大阪(佃、野田)、名古屋、尼崎、長岡、上海 工場設備 十二年下期現在 旋盤 五〇〇機 ミーリング機 二〇〇機 平削機 五〇機 特殊工作機械 七〇機 生産能力(年額)……………三、〇〇〇千圓
【投資會社】	帝國精密工業、理研重工業 原口電機製作所、大阪車體製造、中央 電機製作所、津上製作所等
【資本異動】	十四年下期、九月第三回、 十五年三月最終各三圓五辨込徴収、月倍額 増資五月第二回三圓五辨込徴収

【資産負債】	十二期 十四期
株主資本	11,500 12,000
積立金	8,800 11,100
外部負債	8,500 9,500
借入金	1,000 1,000
使用總資本	19,800 22,600
流動資産	11,500 12,000
固定資産	8,300 10,600
現金預金	3,500 3,500
【收支勘定】	十二年下期 十三年上期 十三年下期 十三年上期
収入	1,000 1,000 1,000 1,000
支出	1,000 1,000 1,000 1,000
【構成比率】	十二年下期 十三年上期 十三年下期 十三年上期
流動比率	115% 115% 115% 115%
固定比率	43% 43% 43% 43%
負債比率	43% 43% 43% 43%
【業績】	平均拂込 利益率
十二年下期	115% 115%
十三年上期	115% 115%
十三年下期	115% 115%
十三年上期	115% 115%
【株價】(實物)	高値 株 新 株
十四年	八〇・八 安値 高値 安値
十五年	七〇・七 安値 高値 安値
十六年	六〇・六 安値 高値 安値
十七年	五〇・五 安値 高値 安値
十八年	四〇・四 安値 高値 安値
十九年	三〇・三 安値 高値 安値
二十年	二〇・二 安値 高値 安値
二十一年	一〇・一 安値 高値 安値
二十二年	〇・〇 安値 高値 安値
二十三年	〇・〇 安値 高値 安値
二十四年	〇・〇 安値 高値 安値
二十五年	〇・〇 安値 高値 安値
二十六年	〇・〇 安値 高値 安値
二十七年	〇・〇 安値 高値 安値
二十八年	〇・〇 安値 高値 安値
二十九年	〇・〇 安値 高値 安値
三十年	〇・〇 安値 高値 安値
【名義書換】	十五錢 【新券交付】 五十錢

【機械製作業】

理化學興業

【設立】昭和二年十一月
【決算期】六月、十二月

(本社) 東京市麹町區有樂町一ノ二(電報座七二二)

【前期業績】前期も前々期と同様の利益率一割六分六厘を挙げ、配當は特配二分を繰入れて普配一割とした。従来理研積金の計算上八分が基本だったので、二分を特配としたが、一般の特配と誤解される嫌ひがあるので、かくしたに過ぎない。

【政策轉換】事新しくいふ程でもないが、当社で企業化し子會社を創立する方針を棄て直營事業を中心事業とする遣り方に變つた。今度大阪の山瀬鐵工所(遠心分離機製造)を買収し、又荒川工場の鐵物部を利用し化學機械プラント製造工事に進出するのはその一例だ更に鐵物軍需品の大量生産に乗出す模様で、近く拂込をとらう。

【資本金】	公稱 10,000,000	拂込 15,000,000
【株数】	新(100) 100,000	舊(50) 50,000
【重役】	社長 大河内正敏	取締役 大橋新太郎 植村登三郎 田中榮八郎 木村徳衛 三井米松 大塚萬丈 監査 安田善五郎 松本泰治 貞弘重進
【大株主】	十四年十一月期 一、三三三名	化學研究所 三〇〇 住友南左衛門 一五〇 三菱社 一〇〇 日本生命 一〇〇 〇〇〇
【年産能力】	單位(半圓)	鐵物 二〇〇 化學機械 二〇〇
【名義書換】	十錢	【新券交附】 五十錢

【資産負債】	十二月	十四年	十四年
株主資本	三、七三六	三、七三六	三、七三六
外部負債	三、七三六	三、七三六	三、七三六
流動資産	三、七三六	三、七三六	三、七三六
固定資産	三、七三六	三、七三六	三、七三六
投資資産	三、七三六	三、七三六	三、七三六
流動負債	三、七三六	三、七三六	三、七三六
固定負債	三、七三六	三、七三六	三、七三六
株價(買物) 株	高値 安値	高値 安値	高値 安値
十四年	六〇・〇	五五・〇	五五・〇
十五年	六〇・〇	五五・〇	五五・〇
一月	六〇・〇	五五・〇	五五・〇

豊田式織機

【設立】明治四十年二月
【決算期】三月、九月

(本社) 名古屋市西區島崎町一(電西八三三)
(營業所) 名古屋市外新川町須ヶ口(電西五三三)

【好調持續】在華紡の復興で支那向紡織機の出荷が増加して来た。これは織機繼續會社の分野だが、間接の好影響がある。而も時局的な軍需品機器類の製造が愈々本格化してゐるので成績は好調だ。配當措置に懸念ない。

【子會社】昭和重工業は早晩当社と對等合併するが、之亦別稿の通り好成績だ。昨年九月初一分増の七分配當を斷行した日本光棉紡は、製品の需要急増で更に増益を見込まれる。当社の大連進出の據點豊田式鐵廠も機械製作部、鑄鋼部、其他各部とも作業は繁忙を極めてゐる。之等子會社の好調なことは當社の強味である。

【資本金】	公稱 10,000,000	拂込 15,000,000
【株数】	新(100) 100,000	舊(50) 50,000
【重役】	社長 兼松 照	取締役 野崎誠一 取締 松岡房吉 常務 益子愛太郎 監査 益田信世 取締 川崎 肇 赤井久義 戸上實藏 齊藤 二
【大株主】	十四年九月期 一、三三三名	三井物産 三〇〇 谷口三郎 一五〇 日本火災 一〇〇 山口玄合資 一〇〇
【工場】	本社、新川、大阪、青島	
【名義書換】	十錢	【新券交附】 三十錢

【資産負債】	十二月	十四年	十四年
株主資本	三、七三六	三、七三六	三、七三六
外部負債	三、七三六	三、七三六	三、七三六
流動資産	三、七三六	三、七三六	三、七三六
固定資産	三、七三六	三、七三六	三、七三六
投資資産	三、七三六	三、七三六	三、七三六
流動負債	三、七三六	三、七三六	三、七三六
固定負債	三、七三六	三、七三六	三、七三六
株價(買物) 株	高値 安値	高値 安値	高値 安値
十四年	六〇・〇	五五・〇	五五・〇
十五年	六〇・〇	五五・〇	五五・〇
一月	六〇・〇	五五・〇	五五・〇

【機械製作業】

栗本鐵工所

【設立】昭和九年五月
【決算期】三月、九月

(本社) 大阪市大正區新炭屋町七七(電櫻川一六〇)一六〇

【大擴張】當社が現在實行しつつある擴張は極めて大規模に上る。一、低燃銃の製造二、遠心力鑄鐵管製造三、住吉分工場の擴張四、滿洲栗本鐵工所の設立等で之等に要する資金は九百二十万圓餘りだ、流動資金を考慮すると千三百万圓餘りに達する。これを賄ふために遂に八百五十万圓を増資した。

【前途の予想】擴張工事は大体今年中で完成させる豫定であるが、それまでに増資新株の拂込は略々完了させる方針だから、資本の膨脹はかなり急である。然し収益力は相當高度となつてゐるから、假りに利益率が少し低下しても、一割配當は持續出來よう。

【資本金】	公稱 10,000,000	拂込 15,000,000
【株数】	新(100) 100,000	舊(50) 50,000
【重役】	社長 栗本勇之助	取締役 本願三 常務 栗本勇之助 助取 片岡安 津田規 吉本原 村敬二郎 阿部政次郎 下郷寅吉 前島孫太郎 監査 足田雄雄 村上勇
【大株主】	十四年九月期 一、三三三名	栗本勇之助 三〇〇 栗本 秀八 八〇〇 加納川 憲二 一〇〇 栗本 勇之助 一〇〇
【工場】	本社、住吉	
【事業成績】	十三年下 十四年上 十四年下	製品買上(千圓) 六、六三三 六、五五五 製造費(千圓) 九、九〇〇 九、八〇〇
【名義書換】	十錢	【新券交附】 三十錢

【資産負債】	十二月	十四年	十四年
株主資本	三、七三六	三、七三六	三、七三六
外部負債	三、七三六	三、七三六	三、七三六
流動資産	三、七三六	三、七三六	三、七三六
固定資産	三、七三六	三、七三六	三、七三六
投資資産	三、七三六	三、七三六	三、七三六
流動負債	三、七三六	三、七三六	三、七三六
固定負債	三、七三六	三、七三六	三、七三六
株價(買物) 株	高値 安値	高値 安値	高値 安値
十四年	六〇・〇	五五・〇	五五・〇
十五年	六〇・〇	五五・〇	五五・〇
一月	六〇・〇	五五・〇	五五・〇

東京製網

【設立】明治二十年二月
【決算期】五月、十一月

(本社) 東京市日本橋區吳服橋三ノ五横町ビル内(電日本橋二五二)七

【昨年下半年】當社の利益は毎期増加を辿つて来たが、昨年下半年には更に向上を見て、四百三十七万二千圓に上つた。この利益率は實に八割三分強に當る。設備擴張は社内保留金の限度に止め、株金の増加を行かなかつた結果でもあるが、それがため利益の處分に窮すると云つた有様である。

【今期は減益か】今期は原料難が可なり著しく、殊に高級鋼索の原材は瑞典に仰いで来たため相當打撃が大きく、結局減益は免れまい。併し前期の様に高利益率を示してゐるのだから配當維持に問題はな、影響はたゞ増資が愈々期待薄となつた程度である。

【資本金】	公稱 10,000,000	拂込 15,000,000
【株数】	新(100) 100,000	舊(50) 50,000
【重役】	専務 赤松 範一	取締役 戸村 理順 取締 原 悦生 常務 大倉 兼馬 監査 遊澤 信雄 藤田好三郎 矢吹 省三 高柳 太郎 野口 弘毅
【大株主】	十四年十一月期 一、三三三名	日本鐵兵 一、六〇〇 濱松銀行 九〇〇 第一生命 七〇〇 安田野響 五〇〇
【工場別年産能力】	十二年下期現在	綱索類川崎工場 小倉工場 100,000 繩網類川崎工場 兵庫工場 150,000
【名義書換】	五錢	【新券交附】 二十錢

【資産負債】	十二月	十四年	十四年
株主資本	三、七三六	三、七三六	三、七三六
外部負債	三、七三六	三、七三六	三、七三六
流動資産	三、七三六	三、七三六	三、七三六
固定資産	三、七三六	三、七三六	三、七三六
投資資産	三、七三六	三、七三六	三、七三六
流動負債	三、七三六	三、七三六	三、七三六
固定負債	三、七三六	三、七三六	三、七三六
株價(買物) 株	高値 安値	高値 安値	高値 安値
十四年	六〇・〇	五五・〇	五五・〇
十五年	六〇・〇	五五・〇	五五・〇
一月	六〇・〇	五五・〇	五五・〇

【機械製作業】

日本精工株式会社

(本社) 東京市品川区東大崎二ノ三六三(電大崎四二一六)

【需要益々旺盛】自動車工業、航空機工業の急速なる大擴張に伴つて、ベアリングの需要は益々旺盛となる筋合だ。当社が次ぎ次ぎと拂込を徴収するのも此の旺盛なる需要を充つ爲の増新設資金を賄はんが爲である。言ふまでもなく當社は東洋ベアリングと共に世界の覇者である。其の製品の優秀なることは此所に屢説するまでもない。従つて今後重點主義に依る産業統制が強化されても、當社は利益を受けこそすれ慮待されることは全然考へられぬ。

【拂込徴収】増資新株の第二回拂込は来る四月一日に徴収される。一株につき十二圓五十錢、合計三百萬圓である。去る十二月に増資したばかりであるから、五ヶ月目に又々拂込を徴収する譯だ。

【擴張相次ぐ】これと言ふのも需要の激増を賄はん爲め行ひつゝある工場の増設新設費を賄ふためである。大崎工場は既に完成したが、多摩川工場は建物の建設を終り目下機械の据付け中であり、藤澤工場の大擴張も大半出来上つた。此の外向任素材たる特殊鋼の生産のため川崎工場の建設も目論まれてゐる。以上の如き諸建設には少く共一千五百万圓は必要と思はれる。従つて今後も引續き拂込は徴収され、やがては増資も實現しよう。

【配當安泰】一時的には利益率は下るが、一割配當は安泰だ。

【設立】	大正五年十一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	ボール及ローラーベアリング、スチールボール、紡績用部分品、特許品部分品諸機械部分品
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株数】	新 100,000 (100,000) 旧 100,000 (100,000)
【重役】	社長 高橋 是賢 取締役 宮司 謙次 専務 多胡 秀雄 常務 安松 俊彦 近藤 静郎 監査 望月 乙彦 取締 山口 武彦 藤井 勇三
【株主数】	去年下 1,768 今年上 1,768 今年下 1,768
【大株主】	安田銀行 1,470,000 高橋是賢 1,000,000 望月 孝 400,000 安田生命 300,000 多胡秀雄 300,000 日本共済銀行 300,000 東京火災 300,000 第一火災 300,000 九十八銀行 300,000 帝國海上火災 300,000
【事業規模】	商工省指定工場 工場所在地 東京(大崎、多摩川) 神奈川縣藤澤 特殊鋼工場 神奈川県川崎市(建設中)
【特色】	本邦ベアリング製作界に於ける最優秀會社
【取引銀行】	安田銀行、第一銀行
【資本異動】	十三年七月、十月、十四年五月、八月(最終)各三圓五拂込徴収、十二月倍額増資第一回三圓五拂込徴収
【資産負債】	十三年 十四年 十五年 十六年
株主資本	10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000
積立金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
社債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用総資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	

【機械製作業】

不二越鋼材工業株式會社

(本社) 富山縣富山市石金二〇(電話四六六)
(事務所) 東京市京橋區銀座西三丁目菊正宗ビル(東京橋三三)

【最終拂込】去る二月二十一日新株の最終拂込として一株に付二十五圓宛、總額七百五十萬圓を徴收、これは切削工具、検査工具、精密機器、軸受、及び製鋼の諸部門に投下した借入金金の返済に向けられた苦だ。

【増資観】當社はこれで二千五百萬圓拂込済となつたが、尙ほ擴充の途上にあり、軸受、製鋼兩部門の如きは今後建設が本調子となる筋合なのだから、少なからぬ資金を要することは明かだ。かくて来る五月頃倍額増資を行ふなどの噂も出るわけだが、これは一寸難しからう。年内に二千萬圓程度の増資が出来れば良い方と思ふ。【資材・原料】今度の歐洲大戰の影響で設備機械や原料の獨逸よりの輸入が困難化し、當社も若干の手違ひを來したやうだが、これも何とか打開策を講じた模様だから、懸念する程のこともあるまい。【好成績】一方、業績は頗る良好と云つてよい。昨年下期の計上利益は三百九十萬圓で、その前期に比し百十餘萬圓の増益を來して居る程だ。平均拂込の増嵩から、利益率は七分四厘の低下となつたが尙ほ一割配當には餘裕綽々だ。今上期も大体同様の成績を得られると思ふ。五割の利益率は困難ではあるまい。さうとすれば現配當は充分維持出来る。

【設立】	昭和三年十二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	金切鋸及切削工具、精密機械器具、工具、鋼球、軸承、航空機部品、内燃機關
【資本金】	舊(五〇〇) 拂込済三〇〇,〇〇〇
【株数】	舊(五〇〇) 三〇〇,〇〇〇
【重役】	社長 井村 荒喜 取締役 坂東 舜一 取締 橋浦 彦三 岩田 米次郎 監査 高井 千尋 豊田 利三郎 監査 連沼 善之助 金岡 又左衛門 伊藤 忠兵衛 山田 昌吉 岡谷 惣助 寺田 基吉 津本 吉左衛門 株本 吉左衛門
【大株主】	伊藤忠商事三、安井村 荒喜三、三〇〇 寺田基吉三、八〇〇 細井恒次郎一〇,〇〇〇 住友生命八、〇〇〇 山本商事七、〇〇〇 山田昌吉六、三〇〇 連沼善之助六、〇〇〇
【事業規模】	工場所在地及設備 富山第一工場 精密機械工場 富山第二工場 及試験機並精密研磨機 富山第三工場 鋼球及鋼球子、球軸承 及鋼球子軸承 東岩瀬工場 特殊鋼製鋼工場 【投資會社】 藤井製作所、石川製作所、 協和工業
【資本異動】	十四年五月一、五〇〇萬圓増、第一 一回、十月第二回二〇〇萬圓増、十五年 二月五圓(最終)拂込徴收

【資産負債】	十二年	十四年
株主資本	二二五	三六六
積立金	一一一	一一一
社外負債	五二〇	七二六
借入金	二〇〇	二〇〇
支拂手形	三二〇	三二〇
使用總資本	一〇〇〇	一〇〇〇
固定資産	六八三	六八三
流動資産	三一七	三一七
現金預金	九一七	九一七
【収入勘定】	十二年	十四年
支入	二〇〇	二〇〇
支出	二〇〇	二〇〇
【配当】	十二年	十四年
配当率	一〇%	一〇%
【流動比率】	三三%	三三%
【負債比率】	六六%	六六%
【名義書換】	十錢	【新券交付】五十錢

愛知時計電機

【設立】 明治三十一年六月
【決算期】 五月、十一月
(本社) 名古屋市中區千代田五(電南局一七)

【拂込接近】既定の擴張計畫は進行して居る。所要資金の一部として借入れた五百萬圓は返却期間が年内一杯となつてゐるからそれまでには晚くとも拂込を徴收する筈だ。

【増資問題】新擴張計畫は庄内川尻に埋立中の敷地を中心に進められて居る。この所要資金を中心に増資が話題に上つて居るが、資金は當分シンデケート團から借入れて賄ひ、工事完了を待つて増資か社債に振替へることとならう。差當つての資金一千四百萬圓は借入を申請中と仄聞する。埋立の完了は本年秋、全体の工事は資材關係で多少遅れても十六年中には完成しよう。配當は安泰。

【資本金】	公稱三〇〇,〇〇〇 拂込一五〇,〇〇〇
【株数】	舊(五〇〇) 三〇〇,〇〇〇
【重役】	社長 青木 謙太郎 取締役 小栗 信一 米澤 宏三 常務 神田 純一 平野 義樹 取締 岡谷 敬助 渡邊 義郎 鈴木 徳太郎 村田 省藏 【大株主】 十四年十一月期 鈴木 徳太郎 三六八、〇〇〇 五明 得一郎 三〇〇,〇〇〇 【工場】 名古屋築港四號地(發動機) 【名義書換】 十錢

【資産負債】	十二年	十四年
株主資本	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
積立金	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
社外負債	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
借入金	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
支拂手形	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
使用總資本	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇
固定資産	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
流動資産	二〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇
現金預金	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
【名義書換】	十錢	【新券交付】五十錢

川西航空機

【設立】 昭和三年十一月
【決算期】 三月、九月
(本社) 兵庫縣武庫郡鳴尾村鳴尾字大東

【増資期接近】昨年十一月新株の最終拂込を徴收、現在資本金千五百萬圓拂込済となつた。そして、去る一月下旬右拂込済新株式六萬株が一株八十八圓宛で賣出された。言ふまでもなく、當社は神戸の財閥川西一家の經營する處だが、拂込済新株式の公開は増資期の接近を思はせる。賣出價格八十八圓を現行八分配當で採算すれば、四分五厘の低利廻だが、増資含みとして賣行は良好であつた。

【業績順調】工場擴張計畫に従へば三倍増資も必要だらうが、資金調整の強化も見られる折柄、倍額程度を押へられる。増資後と雖も、事業の繁忙に恵まれて、現行八分配當の持續に不安ない。

【資本金】	公稱一五〇,〇〇〇 拂込済一五〇,〇〇〇
【株数】	舊(五〇〇) 三〇〇,〇〇〇
【重役】	社長 川西 龍三 取締役 川西 清三 岩田 親一 高尾 繁造 監査 井上 治郎 清水 朗郎 相談 西岡 謙二 奥津 慶一郎 顧問 枝原 百合一 【大株主】 十四年九月期 川西 清三 九三三、〇〇〇 川西 清三 三〇〇,〇〇〇 川西 美栄子 九〇〇,〇〇〇 【工場所在地】 飛行機機體並部品 【投資會社】 北支那開發、中支那振興、 大日本航空

【資産負債】	十二年	十四年
株主資本	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
積立金	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
社外負債	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
借入金	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
支拂手形	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
使用總資本	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇
固定資産	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
流動資産	二〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇
現金預金	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
【名義書換】	十錢	【新券交付】五十錢

【機械製作業】

立川飛行機

〔設立〕大正十三年十一月
〔決算期〕四月、十月
(本社) 東京市町田區海上ビル新館(電九二五六一六)

〔成績好轉〕當社の昨年度下期成績は急向上を示した。當期の作業収入は一千三百八十四万圓に上り、利益率は十二月一日の拂込徴収に拘らず二割四分三厘に躍進した。七分配當に餘裕を取戻し、而も、この調子なら増配さへ可能だ。但しその實現は事業の性質と内容上一寸難しい。當期の好成績は立川、砂川兩工場の擴張分稼働による。〔更に拂込〕右五百廿五万圓の拂込で、資産構成はやゝ良化した。尙借金偏重である。設備擴張は依然續いてゐるので、更に早晚拂込徴収の筋合があるが、目下の様を業績の好調な時に可及的に内容の整備を遂げて置くべきだ。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,600,000	
【株数】	(單位 1千株)	舊 1,000	
【重役】	會長 門野重九郎	取締役 後藤 幸三	
【大株主】	十四年十月期	愛國生命 80,000	
【工場】	北多摩郡立川町	砂川	
【事業成績】	十三年上	十三年下	
【名義書換】	十錢	【新券交付】	五十錢

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,700,000	
【株数】	(單位 1千株)	舊 1,000	
【重役】	社長 牧田 環	取締役 栗本勇之助	
【大株主】	十四年十一月期	三井物産 300,000	
【工場】	東京市日本橋區小舟町	二ノ一	
【事業成績】	十四年中	十五年中	
【名義書換】	十錢	【新券交付】	五十錢

昭和飛行機工業

〔設立〕昭和十二年六月
〔決算期〕五月、十一月
(本社) 東京市日本橋區小舟町二ノ一(電茅場町三六六一六)

〔組立開始〕前期に東京製作所の第一期建設工事を完了し、ダグラス DC3型飛行機の組立第一號機を某方面へ納入した。目下第二號機を組立中で、三、四號機を終へた後、當社自身の設計による國産型の一貫製作に乗り出す筈だ。同時に第二期建設工事を進める。平壤製作所は主として時局品の製作、修理に當つてゐる。〔今期初配か〕前期の總収入(作業収入から原價を差引いたもの)は三百七十六万二千圓に達し、之を全部経費、償却等に向けた。今期は作業収入もつと殖へるし、拂込も徴収する筋合にあるから、愈々四、五分の初配當を行ふものと思はれる。先が樂しめる。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,700,000	
【株数】	(單位 1千株)	舊 1,000	
【重役】	社長 牧田 環	取締役 栗本勇之助	
【大株主】	十四年十一月期	三井物産 300,000	
【工場】	東京市日本橋區小舟町	二ノ一	
【事業成績】	十四年中	十五年中	
【名義書換】	十錢	【新券交付】	五十錢

昭和重工業

〔設立〕昭和九年六月
〔決算期〕三月、九月
(本社) 名古屋市西區島崎町一(電西谷五二一)

〔工事進捗〕新川工場第二期工事は殆んど完成に近い。東京工場の第一期計畫も完成し、第二期擴張に入つて居る。資材關係で工事は若干遅延したとはいへ先づ順調な進捗振りだ。差當つて工事資金が多量に要することもないが、次の擴張に入れば未拂込徴収が問題になるだらう。然し既に擴張分が働き出す譯だから拂込を徴収しても利益率低下の懸念はない。従つて現行八分配當はビクともせぬ。〔合併〕配當が親會社と同率となつたから對等合併が出来ることゝなつた。兵器や航空機部品を製作して居ることから、それら監督官廳方面の了解がつけば早晚合併が實現しよう。注目すべきだ。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,600,000	
【株数】	(單位 1千株)	舊 1,000	
【重役】	會長 兼松 照	取締役 宮本 作藏	
【大株主】	十四年九月期	豊田式機元 200,000	
【工場】	名古屋市中區新川町	新川工場	
【事業成績】	十四年中	十五年中	
【名義書換】	十錢	【新券交付】	五十錢

【機械製作業】

國際工業

〔設立〕昭和十四年十一月
〔決算期〕六月、十二月
(本社) 東京市神田區鎌倉町六富士ビル(電神田三三三)

〔事業〕當社は鐘實系の航空機製造會社で、昨年七月航空機製造事業法による設立認可を得た。株式は公募されなかつたが、市場で頗る人氣を呼び、割當てに困つた程だといふ。×國の某社と特別な契約を結び、工場完成迄は同社機及同發動機の輸入組立を行ひ、創立三ヶ年目から本格的な操業をなす豫定である。〔成績〕目論見書に依ると、起業費一千八百萬圓で、先づ第一回拂込金七百五十萬圓を之に當て、不足分は借入金で賄ひ、機を見て第二回拂込金を徴収する。第三年度に八分配當を豫定してゐる。實績に徴する迄、この種株式は鹽漬にする覺悟が必要である。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,700,000	
【株数】	(單位 1千株)	舊 1,000	
【重役】	社長 津田信吾	取締役 山杉 道助	
【大株主】	十四年十一月期	三井物産 300,000	
【工場】	東京市神田區鎌倉町	六富士ビル	
【事業成績】	十四年中	十五年中	
【名義書換】	十錢	【新券交付】	五十錢

【機械製作業】

【機械製作業】

篠原機械製作所

【設立】昭和九年十月
【決算期】六月、十二月

(本社) 東京市豊町区丸の内ビル内(電九ノ内五三)
(出張所) 大阪市東區内安堂寺町

【昨年下半年】左掲表にも見られる如く、昨年下半年の業績は同上期に比較すると、利益金では殆ど大差なかつたが、拂込資本の増加のため、利益率は低下を免れなかつた。一割配當を据置いた結果、自然利益率は幾分弱体化とならざるを得なかつた。

【今年】技術陣の貧弱は當社の一つの難點と思はれる。製品も勿論悪くはないが、五大メーカーのそれと對比すると優秀を誇り得る程のものではない。千葉縣幕張の工場第二期擴張工事は豫定より相當遅れたが近く竣工を見る筈だ。今後は製作高の増加で利益は増加する筈だが、設備費が高いために利益率の向上は望めない。

【資本金】公稱 九〇〇,〇〇〇 拂込 八〇〇,〇〇〇	【資産負債】	十二月	十四年	十五年
【株数】新(五〇〇) 舊(三〇〇)	株主資本	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
	外部負債	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	流動資産	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	固定資産	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	平均拂込	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	利益率	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	株価(買物)	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	株価(新)	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	安値	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	高値	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	平均	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	二月	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	一月中	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇

【次の擴張】豫て建設中のラヂアル・ボール盤工場は鑄物工場を殘して大体完成を見、近く製品を出し得る段階となつた。鑄物工場は既に秋田鑄物を買収して居ることとて急ぐ必要もないが、續いて建設に取り掛るらしい。次いで懸案のターレット旋盤工場だが、これは設備資材入手難の折柄だから若干後れるのではないかと思ふ。

【拂込期】ボール盤工場関係の建設資金を支辨するため夏頃迄には最終拂込が實現する筈だ。更にターレット工場を建設するとなれば倍額程度の増資を必要とするが、これは前記の事情から未知數と云つてよい。尚ほ一割配當は當面不安ないと推定される。

大阪若山鐵工所

【設立】明治三十一年四月
【決算期】五月、十一月

(本社) 大阪市西區長橋通二ノ一二(電投四二一四)
(支社) 東京市豊町区丸の内ビル(電九ノ内五三)

【資本金】公稱 七〇〇,〇〇〇 拂込 四〇〇,〇〇〇	【資産負債】	十二月	十四年	十五年
【株数】新(三〇〇) 舊(四〇〇)	株主資本	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
	外部負債	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	流動資産	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	固定資産	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	平均拂込	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	利益率	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	株価(買物)	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	株価(新)	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	安値	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	高値	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	平均	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	二月	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	一月中	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇

【機械製作業】

明電舎

【設立】大正六年六月
【決算期】四月、十月

(本社) 東京市品川區東大崎二ノ二七六(電大崎三五二〇)

【今期一割維持】昨年十月末締切の十四年下半年は利益金百七十三萬四千圓を計上した。利益率二割九分に當る。上期に比し七百萬圓の増益、利益率にして八分の向上である。一割配當は餘裕を加へたのであつた。今期は決算期の變更で五ヶ月決算となるので多少利益は減少しようが、それでも百四十萬圓を下る事はあるまい。平均拂込資本に對し二割二分の利益率となるから一割配當の維持は問題ない。

【電力問題】當社の事業は電氣が基本であり、電氣なくしては一日たりとも操業を續けることが出来ない。それ程當社にとつては電氣は重要なのである。それが多少でも制限されるとなればその打撃はかなり大きい。

【前途】電氣の他に原料の不足で相當悩んでゐる。即ちバイト用高速度鋼は仲々思ふように入手出来ないのだ。そこで再生爐(電氣爐)を以つて自給策となしつゝあるが、大きな期待は持てない。當社の前途はかなり悲觀的と云はざるをえない。配當は一割一分を行つてゐるか、之が維持出来れば結構だ。

【資本金】公稱 二七五,〇〇〇 拂込 二五〇,〇〇〇	【資産負債】	十二月	十四年	十五年
【株数】新(一〇〇) 舊(一七五)	株主資本	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
	外部負債	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	流動資産	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	固定資産	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	平均拂込	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	利益率	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	株価(買物)	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	株価(新)	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	安値	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	高値	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	平均	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	二月	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	一月中	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇

【資本金】公稱 六〇〇,〇〇〇 拂込 五〇〇,〇〇〇	【資産負債】	十二月	十四年	十五年
【株数】新(三〇〇) 舊(三〇〇)	株主資本	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
	外部負債	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	流動資産	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	固定資産	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	平均拂込	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	利益率	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	株価(買物)	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	株価(新)	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	安値	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	高値	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	平均	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	二月	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	一月中	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇

〔機械製作業〕

大日本機械工業

〔設立〕 大正五年十二月
〔決算期〕 五月、十一月

(本社) 東京市本所區業平橋一ノ二(電田二〇一)

〔拂込・増資〕 當社の外延的積極活動は頗る活潑であつたので、本所業平工場の敷地では足りず最近京成沿線青砥に約二萬五千坪の土地を買収し、近く新工場建設に着手する豫定である。これの資金に約五百萬圓を必要とするので、この四月に未拂込百五十萬圓を徴収し、再び増資に向ふ筈だ。その時期は今秋と想像され、程度は五百萬圓増資の一千二百萬圓となる見込である。

〔業績〕 来る五月末に締切る今期業績は、昨秋と今春の拂込徴収から資本負擔は増嵩し、利益金の増加にも拘らず利益率は低下を免れまい。だが、勿論一割配當の持續には心配ないと思ふ。

【資本金】	公稱	1,000,000	拂込	500,000
【株数】	新	50,000	舊	100,000
【重役】	社長	岡崎久次郎	常務	江田忠吉
【大株主】	十四年十一月	岡崎久次郎	三〇〇名	
【工場所在地】	東京市本所區業平橋一ノ二	向島西新井	業平橋	
【事業成績】	十五年上	三〇〇	十五年下	三〇〇
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢	

【資本金】	公稱	1,000,000	拂込	500,000
【株数】	新	50,000	舊	100,000
【重役】	社長	松田重次郎	常務	山本義雄
【大株主】	十四年十一月	松田重次郎	三〇〇名	
【工場所在地】	東京市本所區業平橋一ノ二	向島西新井	業平橋	
【事業成績】	十五年上	三〇〇	十五年下	三〇〇
【名義書換】	十錢	【新券交付】	五十錢	

東洋工業

〔設立〕 大正九年一月
〔決算期〕 五月、十一月

(本社) 廣島縣安藝郡府中村字新地(電廣島五五〇)

〔業績調〕 去る十一月末締切りの十四年下期は、利益金百貳萬八千圓、利益率二割七分四厘で、十八萬圓の増益、率で三厘の向上に當る。原料資材不足、電力制限の中にあつて、斯様な好成绩を示したのも軍需品生産工場たるお蔭である。民需部門に於ても、鑿岩機は増産過程を辿り、コルク製品も亦需要は増大して居る。

〔拂込期接近〕 兵器工場の完成は今年末頃と推定されるが、其の曉には一段と活況を呈しよう。既に、十一月末現在、借入金九百八十五萬圓、支拂手形を加算すれば略々一千萬圓に達する。第二回拂込徴収は今年上期中に實現しよう。

【資本金】	公稱	1,000,000	拂込	500,000
【株数】	新	50,000	舊	100,000
【重役】	社長	松田重次郎	常務	山本義雄
【大株主】	十四年十一月	松田重次郎	三〇〇名	
【工場所在地】	東京市本所區業平橋一ノ二	向島西新井	業平橋	
【事業成績】	十五年上	三〇〇	十五年下	三〇〇
【名義書換】	十錢	【新券交付】	五十錢	

〔機械製作業〕

田中機械製作所

〔設立〕 大正八年十二月
〔決算期〕 三月、九月

(本社) 大阪市港區市岡濱通三丁目二〇番地(電西三三)

〔敷地決定〕 西宮築港の埋立地は當社の有に歸さなかつたが、これに代る敷地を堺築港の埋立地に求めた。これは未だ埋立工事中だから、工場建設の着工期は年末頃になるかも知れぬ。これに取り掛かる様になれば第三回以降の拂込も漸を追ふて徴収される筈だ。先のことながら期待が持てるわけである。

〔据置か〕 電力供給の制限から今期の製作高は減少を免れず、延て収益も低下する筈だが、現配當に響くほどのことはない。然し、前記工場建設の目的から將來増資でもすれば、それを機會に配當は一割に落されることにはなると想像される。

【資本金】	公稱	1,000,000	拂込	500,000
【株数】	新	50,000	舊	100,000
【重役】	社長	岸田東次郎	常務	本芳友
【大株主】	十四年九月	岸田東次郎	三〇〇名	
【工場所在地】	東京市本所區業平橋一ノ二	向島西新井	業平橋	
【事業成績】	十五年上	三〇〇	十五年下	三〇〇
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢	

【資本金】	公稱	1,000,000	拂込	500,000
【株数】	新	50,000	舊	100,000
【重役】	社長	島津源吉	常務	島津源三郎
【大株主】	十四年十一月	島津源吉	三〇〇名	
【工場所在地】	東京市本所區業平橋一ノ二	向島西新井	業平橋	
【事業成績】	十五年上	三〇〇	十五年下	三〇〇
【名義書換】	十錢	【新券交付】	五十錢	

島津製作所

〔設立〕 大正六年九月
〔決算期〕 五月、十一月

(本社) 京都市中京區河原町二條南入(電上四三三)

〔増資期待〕 三條工場の擴充と、新に買収した五條工場の建設のため、来る五月頃倍額増資を行ひ度い意圖だが、果して予定通りに實行出来るかどうか、假令倍額を認められるとしても、その時期は若干の遅延を免れまい。

〔結局減配〕 業績は引き続き良好だ。試みに昨年同期を見ても、計上利益は百九十一萬五千圓で、此の利益率は三割八分三厘だ。一割二分配當には充分の餘裕を残して居る。今後の成績も懸念を要しないが、増資が實現すればそれを機會に一割配當に落されることゝならう。

【資本金】	公稱	1,000,000	拂込	500,000
【株数】	新	50,000	舊	100,000
【重役】	社長	島津源吉	常務	島津源三郎
【大株主】	十四年十一月	島津源吉	三〇〇名	
【工場所在地】	東京市本所區業平橋一ノ二	向島西新井	業平橋	
【事業成績】	十五年上	三〇〇	十五年下	三〇〇
【名義書換】	十錢	【新券交付】	五十錢	

【機械製作業】

日本樂器製造

【設立】 明治三十年十月
【決算期】 五月、十一月

(本社) 静岡縣濱松市中澤町二五〇(電濱松三〇一〇)
(支社) 東京市京橋區銀座七ノ一(電銀座一三三)

【最終拂込徴収】 去る三月一日新株一株に付二十五圓總額二百三十万五千圓の最終拂込を徴収したので、資本金は八百七十五萬圓全額拂込済となつた。右資金は勿論當初の計畫通り機械設備の擴充費に充當される。

【増資は必至】 重點主としてプロペラの増産は一層拍車を加へられる。明年九月完成目標の擴張計畫に着手するために夏頃までには倍額増資が具体化して居らねばならぬ。

【配當は餘剰雑々】 拂込の連續にも拘らず毎期三割五分の利益率を収めて居る。一割配當は恒久的のものとして見てよ。

【資本金】	公稱 〃 八、七〇〇 拂込 〃 六、三三三	【資産負債】	十二年 五月 十四年 十一月
【株数】	新(五〇〇) 舊(五〇〇) 〃 〃 〃 〃	株主資本	八、三三三 八、三三三
【重役】	社長 川上嘉市 常務 林慶吉 取締役 中村圓一郎 中村藤吉 刀原四郎 中島又三 千谷虎雄 蓋查 小竹藤之助 山本良雄	外部負債	四、八三三 四、八三三
【大株主】	十四年十一月期 五三三名	流動負債	三、九三三 三、九三三
【事業規模】	本社工場 静岡縣濱松市 分工場 静岡縣濱松市 静岡縣濱松市 静岡縣濱松市	固定資産	三、四〇〇 三、四〇〇
【事業成績】	十五年下 八、九三三 十六年下 八、九三三	流動資産	三、九三三 三、九三三
【名義書換】	五錢【新券交附】二十五錢	株主資本	八、三三三 八、三三三

日本ピストンリング

【設立】 昭和九年十二月
【決算期】 六月、十二月

(本社) 東京市芝區新橋田町一七 (電銀座三〇一〇)

【株價は伸びる一方】 昨今の當社株價は九十數圓といふ伸び方である。之には勿論會社筋即ち、ピストンリング興業の工作が作用してゐるが、かうした工作も全然根據なしに行はれるものではない。事實川口と與野の二工場は擴張を迫られてゐる。元來リングは素材自体は大したものではない。たゞ加工による儲けが問題なのだから、原料關係からの恐慌現象は直接的影響を齎すものではない。

【又々増資か】 目下未拂込は十二圓半を獲すのみだが之も四月一日に徴収する。この分け資材關係も保證されてゐるが、増資分は未だ確たる保證はない。需要から増資必然なるも、實現化は今夏か。

【資本金】	公稱 〃 六、〇〇〇 拂込 〃 三、七五〇	【資産負債】	十二年 六月 十四年 十二月
【株数】	新(五〇〇) 舊(五〇〇) 〃 〃 〃 〃	株主資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇
【重役】	社長 鈴木友調 取締役 遠山清太郎 常務 池田良一 監査 鏡山忠男 取部 池田良一 野口清三郎	外部負債	三、〇〇〇 三、〇〇〇
【大株主】	十四年十一月期 六〇〇名	流動負債	三、〇〇〇 三、〇〇〇
【事業規模】	工場所在地 川口市 製造品 航空機 自動車 スチームエンジン、セルエンジン 其他	固定資産	三、〇〇〇 三、〇〇〇
【事業成績】	十五年下 三、七五〇 十六年下 三、七五〇	流動資産	三、〇〇〇 三、〇〇〇
【名義書換】	十錢【新券交附】五十錢	株主資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇

小糸製作所

【設立】 昭和十一年四月
【決算期】 三月、九月

(本社) 東京市品川區東品川四ノ二 (電高輪三九二)

【益々繁忙】 當社は古くから照明機器の製作に従事して來たのであるが、軍需並に一般需要共に旺盛化したので、益々繁忙の度を強めてゐる。特に最近、車輛不足に對處して車輛大増産計畫が進められてゐるし、自動車の増産も強行されねばならぬし、特殊需要も減るものとは思はれぬから、受註高は増加し、利益も増加するのである。増配も遠からず實現するものと思はれる。

【子會社】 當社は大陸交通器材、東京鐵工、真空渡工の三社に投資し東京鐵工の五六%を除く他の二社の株式は殆ど全部當社が所有してゐる。兩社共目下無配だが、其の將來は相當注目される。

【資本金】	公稱 〃 五、〇〇〇 拂込 〃 三、七五〇	【資産負債】	十二年 三月 十四年 九月
【株数】	新(五〇〇) 舊(五〇〇) 〃 〃 〃 〃	株主資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇
【重役】	社長 小糸源六郎 取締役 池田貞助 常務 小糸榮一郎 監査 森下和策 加藤眞一 小柴廣	外部負債	一、七五〇 一、七五〇
【大株主】	十四年九月期 三、七五〇名	流動負債	一、七五〇 一、七五〇
【事業規模】	工場 品川 山本 俊子 小糸源六郎 三、七五〇 川島屋商店 三、七五〇 山本 信吾 三、七五〇	固定資産	一、七五〇 一、七五〇
【投資會社】	真空鐵工、大陸交通器材	流動資産	一、七五〇 一、七五〇
【名義書換】	五錢【新券交附】五十錢	株主資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇

日本光機工業

【設立】 大正八年七月
【決算期】 三月、九月

(本社) 横浜市鶴見區潮田町一四二 (電鶴見三二二)

【需要増大】 當社の主要製品は航海標識、航空標識、フレネルレンズ反射鏡、軍用照明器、交通照明器、映畫照明器等であるが、特に航海並に航空照明器製造會社としては本邦唯一とも稱すべく、従つて事業を契機とする需要の旺盛さには括目すべきものがある。昨年増資して生産力の擴張を計りつゝあるのも此のためだ。

【配當は安泰】 只原料資材の不足が氣掛りであるが、其の需要の特殊性から、不足勝な原料材もかなりスムーズに手當出來てゐるもの如くである。安田と密接な關係の生じたことは今後の金融操作を樂にせしめる。増資で資本負擔は増加したが一割配當は大丈夫だ。

【資本金】	公稱 〃 五、〇〇〇 拂込 〃 三、七五〇	【資産負債】	十二年 三月 十四年 九月
【株数】	新(五〇〇) 舊(五〇〇) 〃 〃 〃 〃	株主資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇
【重役】	社長 岡喜七郎 取締役 塚山繁 常務 若月 監査 柳下勲七 安田保善 三、七五〇 若月 國立 三、七五〇 安田 保善 三、七五〇	外部負債	一、七五〇 一、七五〇
【大株主】	十四年九月期 三、七五〇名	流動負債	一、七五〇 一、七五〇
【事業規模】	工場 本社工場、神奈川分工場	固定資産	一、七五〇 一、七五〇
【投資會社】	吉川發動機、横濱標識製作	流動資産	一、七五〇 一、七五〇
【事業成績】	十五年上 三、七五〇 十五年下 三、七五〇	株主資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇
【名義書換】	五錢【新券交附】五十錢	株主資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇

【機械製作業】

【機械製作業】

日新電機

【設立】大正六年四月
【決算期】四月、十月
（本社）京都市右京区梅津高取町二〇（電京都電九一〇）
（支社）京都市東山区丸之内海上二〇（電丸之内五〇天）

【好成绩】昨下期計上利益は十六萬八千圓、此の利益率は二割二分四厘だ。その前期に比し六千圓の増益、利益率で八厘の向上だ。僅かながらも向上の跡を見せて居り、八分配當は依然餘裕含みと云つてよい。

【背景】住友をバックに持つ點は當社の強みの一に數へて良い。當社は住友電工の子會社の如き地位に歩近づきつつあるかに見受けられるが、機械工作事業に重點主義の採られつつある時には、かうした大會社の傘下にあることが大きな意義を持つのだ。尙ほ今後の業績も懸念無く、八分配當は維持可能だ。

【資本金】	公稱 100,000	拂込 100,000	
【株数】	新(500)	舊(500)	
【重役】	社長 岡崎 貞伍 専務 小島 慎一 常務 高田 俊吉 取締役 高倉 俊吉 大株主 住友電工 100名 住友生命 100名 藤村市太郎 100名 龜田利吉郎 100名 【事業規模】 工場所在地 京都、東京		
【資産負債】	十二年度	十三年度	十四年度
株主資本	100,000	100,000	100,000
外部負債	10,000	10,000	10,000
流動資産	10,000	10,000	10,000
流動負債	10,000	10,000	10,000
【株價】	高値 100	安値 80	高値 100
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢

宮田製作所

【設立】昭和九年一月
【決算期】五月、十一月
（本社）京都市東山区東六條二丁目一九（電東區電九三三）

【業績順調】昨年十一月に締切つた前期業績は、左欄統計に明にされて居る如く、位然好調を示し、償却も仲々手堅い。斯様な収益増は、當社全體の賣上高の六割から七割を占める航空機部品部の活躍に依つて齎されたものだ。と同時に、いま一つの原因として、近來に於ける擴張資金の大部分を株主資本によらず、専ら借入金に頼つたことも見逃せない。

【結局増資か】處が、今後の擴張資金は種々なる角度から考へて、株主資本を使用せねばならぬと思ふ。特に當社の場合の如く軍需會社にして高利益率である處は尙更だ。結局近く増資實現か。

【資本金】	公稱 100,000	拂込 100,000	
【株数】	新(500)	舊(500)	
【重役】	社長 宮田 榮太郎 専務 宮田 榮太郎 常務 宮田 榮太郎 取締役 宮田 榮太郎 大株主 宮田 榮太郎 100名 宮田 榮太郎 100名 宮田 榮太郎 100名 宮田 榮太郎 100名 【事業規模】 工場所在地 京都、大阪、福岡 【名義書換】 十錢		
【資産負債】	十二年度	十三年度	十四年度
株主資本	100,000	100,000	100,000
外部負債	10,000	10,000	10,000
流動資産	10,000	10,000	10,000
流動負債	10,000	10,000	10,000
【株價】	高値 100	安値 80	高値 100
【名義書換】	十錢	【新券交付】	五十錢

【機械製作業】

石井鐵工所

【設立】大正八年十一月
【決算期】四月、十月
（本社）京都市東山区有樂町一東日會館二階（電丸之内五〇天）

【業績好調】昨下期の利益金は百二十六萬四千圓、利益率四割七分六厘に上つた。一割五分の高配も餘裕裡に据置いた。

【配當】注文繰越高は約二千五百萬圓、この中八百萬圓見當が人造石油製造装置、残りが製鐵機械、輕金屬製鍊装置、石油精製機械、窒素肥料その他工業用機械の受註である。今期製品引渡高七百五十萬圓を下らず、利益金は百二十五萬圓を動かす。一割五分配當に不安はないが、政策的見地より目下考慮中の様だ。月島第二工場、蒲田人石機械工場は許可済で早晚企業化しよう。必要資金百五十萬圓は預金百五十萬圓で済ますから、拂込徴收はまだ遠い。

【資本金】	公稱 100,000	拂込 100,000	
【株数】	新(500)	舊(500)	
【重役】	社長 石井 大吉 専務 石井 大吉 常務 石井 大吉 取締役 石井 大吉 大株主 石井 大吉 100名 石井 大吉 100名 石井 大吉 100名 石井 大吉 100名 【事業規模】 工場所在地 京都、東京 【名義書換】 十錢		
【資産負債】	十二年度	十三年度	十四年度
株主資本	100,000	100,000	100,000
外部負債	10,000	10,000	10,000
流動資産	10,000	10,000	10,000
流動負債	10,000	10,000	10,000
【株價】	高値 100	安値 80	高値 100
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢

荏原製作所

【設立】大正九年五月
【決算期】五月、十一月
（本社）京都市東山区南堀江三丁目一三四（電東區電九三三）

【増資期待】當社は近く未拂込徴收の上、二倍程度の増資が實現するものと期待される。即ち、次の如き新設及び擴張に約二千萬圓近い資金を必要として居るからである。一、川崎に大規模な工作機械工場を新設すること。二、羽田工場の第二期増設を行ふこと。三、満洲に子會社設立等である。

【配當】拂込徴收は今春實現すると思ふが、増資も今秋迄には具體化すであらう。問題は増資後の配當であるが、一割二分配當は高率だからとの理由から、倍額増資の許可が下りれば、當局から二分程度の減配は要求されるであらう。

【資本金】	公稱 100,000	拂込 100,000	
【株数】	新(500)	舊(500)	
【重役】	社長 荏原 清一 専務 荏原 清一 常務 荏原 清一 取締役 荏原 清一 大株主 荏原 清一 100名 荏原 清一 100名 荏原 清一 100名 荏原 清一 100名 【事業規模】 工場所在地 京都、東京 【名義書換】 十錢		
【資産負債】	十二年度	十三年度	十四年度
株主資本	100,000	100,000	100,000
外部負債	10,000	10,000	10,000
流動資産	10,000	10,000	10,000
流動負債	10,000	10,000	10,000
【株價】	高値 100	安値 80	高値 100
【名義書換】	十錢	【新券交付】	五十錢

【機械製作業】

櫻田機械製造所

【設立】明治二十六年
【決算期】五月、十一月
（本社）東京市城東區北砂町六ノ五七（電本所）三六八
（營業社）東京市京橋區銀座櫻田ビル（電本所）二〇七

【増資は半額に縮減】申請中であつた倍額増資は、資金調整局の査定が厳重の爲め結局半額増資に縮減の上許可された。即ち、百五十万圓増資の資本金四百五十万圓となつたに過ぎない。そこで、資金関係は可なり窮屈化を免れぬが、しかし、懸案の満洲櫻田機械の新設は進捗中である。

【二分減配か】問題は一割二分配當の持続性如何であるが、最近の重點主義強化必至の情勢から推して業績低下懸念にあり、且つ、監督當局に於ても、一割二分配當は高率であるから、との理由から機會ある毎に減配を發通するであらう。結局二分減配か。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	新(100) 10,000	舊(100) 10,000
【重役】	社長 櫻田壬午郎 取締役 小島 亮平 池田重五郎 河野 哲夫 監査 宮城與三郎 馬 謙 兒玉 靜雄	
【大株主】	十四年十一月期 櫻田壬午郎 10,000 株 小島 亮平 10,000 株 高柳 房吉 10,000 株 高柳 三郎 10,000 株 高柳 三郎 10,000 株 高柳 三郎 10,000 株	
【事業成績】	十一年下 十一年上 十一年中 売上高 2,200,000 2,200,000 2,200,000 製造費 1,800,000 1,800,000 1,800,000 製造費率 81.8% 81.8% 81.8%	
【名義書換】	十錢	【新券交付】五十錢

月島機械

【設立】大正六年五月
【決算期】四月、十月
（本社）東京市京橋區月島通五ノ九（電本所）二一六

【堅調】當社は化工機械製造を中心に某軍需品を製作してゐる。原料、勞力等多少とも不圓滑を免れないが、三菱系統の諸會社との關係厚く、技術も優秀だから、堅實な操業振りを示してゐる。鶴見新工場の賣上が今期から相當加はるから、成績には些かの懸念もない。一割二分配當維持は樂である。

【消極的】營業、擴張等は堅實なのが取柄だが、難を言へば餘りにも消極に過ぎるといふことだ。社の格式、發展性などから言へば、資本金も一千万圓位になつてゐて然るべきものと思ふ。膨脹のみに専念する會社と比べ雲泥の相違だ。堅い點で安心株の一つだ。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	新(100) 10,000	舊(100) 10,000
【重役】	社長 大倉 發身 取締役 宮崎 好文 小川 只治 常務 高橋 武雄 田川 太郎 大倉 榮策 監査 今井 善八郎 木村 正五 岡田 金之助	
【大株主】	十四年十月期 大倉 發身 8,000 株 大倉 榮策 8,000 株 大倉 榮策 8,000 株 大倉 榮策 8,000 株 大倉 榮策 8,000 株	
【事業成績】	十一年下 十一年上 十一年中 売上高 2,200,000 2,200,000 2,200,000 製造費 1,800,000 1,800,000 1,800,000 製造費率 81.8% 81.8% 81.8%	
【名義書換】	十錢	【新券交付】三十錢

【機械製作業】

國産電機

【設立】昭和六年七月
【決算期】五月、十一月
（本社）東京市豊島區高田南町三ノ七（電本所）二五五—一八

【擴充續く】過般下落合に二千坪の土地を購入した。高田本社工場が手狭になつたからである。奉天工場を分離して獨立會社とする件も近く認可が降りる見込だが、之亦現在工場とは別に新工場を建設する計畫だ。昨年十月に増資新株に第一回拂込六十七万五千圓を徴収したが、速からず第二回を徴収したい意圖だ。

【九分持續】マグネート（内燃機關の着火用磁石發電機）工業界に於ける雄たるだけに、X方面より操業上各種の利便を得てゐる。今期も三割内外の利益率を示す見込で、九分配當持續に懸念ない筈だ。早晚第二國産電機を合併することにならう。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	新(100) 10,000	舊(100) 10,000
【重役】	社長 岩井 豐治 取締役 阿部 一郎 加藤 正俊 阿部 守 監査 山本 善民 佐藤 柱助 野村 靜	
【大株主】	十四年十一月期 岩井 豐治 10,000 株 大川又三郎 10,000 株 岩井 英夫 10,000 株 加藤 正治 10,000 株 加藤 正治 10,000 株 加藤 正治 10,000 株	
【事業成績】	十一年下 十一年上 十一年中 売上高 2,200,000 2,200,000 2,200,000 製造費 1,800,000 1,800,000 1,800,000 製造費率 81.8% 81.8% 81.8%	
【名義書換】	十錢	【新券交付】五十錢

横山工業

【設立】昭和十一年五月
【決算期】四月、十月
（本社）東京市豊島區内幸町二ノ一（電本所）二一〇

【業績】當社は前期決算で二分減配を行つた。先般五百萬圓増資を斷行した關係から、當局から二分減配を懲罰され、配當率を一割に指定されたからである。尤も業績も低下を示した。即ち、利益金の増加にも拘らず、利益率は三割四分に低下したが、これは資本負擔の増加が、利益金の増加率を越へたからだ。しかし、此の程度の業績低下なら、一割二分配當の持續も可能であつたわけだ。

【拂込徴收】擴張は依然活潑に續行され、これが爲め昨年末第二回の拂込徴收を行つたが、此の程度の拂込金では到底擴張資金を賄ひ切れず、引續き拂込徴收期待の情勢にある。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	新(100) 10,000	舊(100) 10,000
【重役】	社長 岩井 豐治 取締役 阿部 一郎 加藤 正俊 阿部 守 監査 山本 善民 佐藤 柱助 野村 靜	
【大株主】	十四年十月期 岩井 豐治 10,000 株 大川又三郎 10,000 株 岩井 英夫 10,000 株 加藤 正治 10,000 株 加藤 正治 10,000 株 加藤 正治 10,000 株	
【事業成績】	十一年下 十一年上 十一年中 売上高 2,200,000 2,200,000 2,200,000 製造費 1,800,000 1,800,000 1,800,000 製造費率 81.8% 81.8% 81.8%	
【名義書換】	十錢	【新券交付】三十錢

【機械製作業】

鋼板工業

【設立】大正十五年三月
【決算期】五月、十一月

(本社) 神奈川県川崎市中丸子一三五 電田園調布(西丸)

【合併説】最近、当社を繞つての合併説が一部で問題にされて居る。だが、今後はいざ知らず、現在のところ当社には合併するとか、合併されるとか云ふ具體的なものは何も無い。然し乍ら、兎にも角にも、右の様な噂が一部で唱へられる根本的な原因を想像するに、一つは産業界に於ける重點主義徹底化から、當社の如き中小機械メーカーは材料の不圓滑から他社と合同する傾向にあること、他は最近、二、三期の當社業績が停頓状態にあることが指摘出来る。

【今後】だが、右の停頓は未働資本の壓迫からであつて、これから漸次業績を固めて行くものと思ふ。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株数】新 10,000 舊 10,000	【重役】代表 高橋治太郎	【大株主】十四年十一月期 山武商會 2,000 丸之内興業 3,000 山武商會 2,000 逸見知久 2,000 石黒文吉 2,000
【資産負債】	【株主資本】	【外部負債】	【流動資産】
株主資本 1,000,000	外部負債 1,000,000	流動資産 1,000,000	平均株主利益 1,000
使用総資本 1,000,000	固定資産 1,000,000	投資助定 1,000,000	流動負債 1,000,000
流動負債 1,000,000	平均株主利益 1,000	株主資本 1,000,000	平均株主利益 1,000
株主資本 1,000,000	平均株主利益 1,000	株主資本 1,000,000	平均株主利益 1,000
株主資本 1,000,000	平均株主利益 1,000	株主資本 1,000,000	平均株主利益 1,000

國光製鎖鋼業

【設立】昭和九年五月
【決算期】五月、十一月

(本社) 大阪府住吉區濱 四三(電住吉三三)

【増資期待】擴充資金調達のため三倍増資を計畫中であるが、資金調整強化の今日に於いては一寸困難ではあるまいかと思はれる。先づ増資額は倍額とみなければならぬだらう。事業の性質からみて倍増資なら案外速かに許可されよう。

【成績見透】主製品たる國光チェーンの需要は頗る旺盛だ。造船界活況の反映である。殊に三千五百噸プレス機の完成で七、八千噸から一万噸級船の鎖鎖が製造出来るようになり、注文は一段と増加して來た。成績の好調はまだ當分續くだらう。一割配當は充分維持可能と云つてよからう。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株数】新 10,000 舊 10,000	【重役】代表 長谷川爲藏	【大株主】十四年十一月期 長谷川爲藏 2,000 長谷川爲藏 2,000 長谷川爲藏 2,000
【資産負債】	【株主資本】	【外部負債】	【流動資産】
株主資本 1,000,000	外部負債 1,000,000	流動資産 1,000,000	平均株主利益 1,000
使用総資本 1,000,000	固定資産 1,000,000	投資助定 1,000,000	流動負債 1,000,000
流動負債 1,000,000	平均株主利益 1,000	株主資本 1,000,000	平均株主利益 1,000
株主資本 1,000,000	平均株主利益 1,000	株主資本 1,000,000	平均株主利益 1,000
株主資本 1,000,000	平均株主利益 1,000	株主資本 1,000,000	平均株主利益 1,000

【機械製作業】

池貝自動車製造

【設立】昭和十二年六月
【決算期】五月、十一月

(本社) 東京市豊町區有樂町東日會館(電丸ノ内五三六)

【今期も増配か】昨年同期は豫想の如く一分増の七分配當とした。左掲表にも見られる如く、業績が一段と好化したからである。今期製作高は一層増加する筋合にあるから、更に増益して、一分程度の増配可能と見られる。然し其の後は當社の主製品が車關係品だけに大して増配は望めないのである。

【拂込徴収近し】近代戦争の経験は自動車工業の確立の急務なることを痛感せしめた。當社は此の要望に添ふべく今後相當大規模な擴張をしなければならぬ。關東の某所と川崎六郷川岸に廣大な地所を買収したのも此のためである。従つて近く拂込が徴収される筋合だ。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株数】新 10,000 舊 10,000	【重役】社長 池貝庄太郎	【大株主】十四年十一月期 池貝庄太郎 2,000 池貝庄太郎 2,000 池貝庄太郎 2,000
【資産負債】	【株主資本】	【外部負債】	【流動資産】
株主資本 1,000,000	外部負債 1,000,000	流動資産 1,000,000	平均株主利益 1,000
使用総資本 1,000,000	固定資産 1,000,000	投資助定 1,000,000	流動負債 1,000,000
流動負債 1,000,000	平均株主利益 1,000	株主資本 1,000,000	平均株主利益 1,000
株主資本 1,000,000	平均株主利益 1,000	株主資本 1,000,000	平均株主利益 1,000
株主資本 1,000,000	平均株主利益 1,000	株主資本 1,000,000	平均株主利益 1,000

トヨタ自動車工業

【設立】昭和十二年八月
【決算期】三月、九月

(本社) 愛知縣西加茂郡津島町大字下市場字前山八
(出張所) 東京市豊町區有樂町一ノ二 東日會館(電丸ノ内一六六)

【經營は多角的】販賣はトヨタ自動車販賣が担当し、大陸には販賣と修理のため六百萬圓の北支自動車新立。素材取得に製鋼部の獨立と工作機自給のためそれぞれ別會社を設立する筈だ。

【擴充相次ぐ】母工場は擴張は資材關係で多少遅延するが倍増の行進を續けて居る。天津工場は本格的に進められてゐる。青島工場は新設されたし、大陸各地には修理工場の設置を相次いで見た。従つて相當巨額の擴充資金を要する譯だ。

【拂込接近増配可能】資金が要るから拂込が近い。擴張部分が働き出したから業績は向上。増量は確實だから三月期一分増配可能。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株数】新 10,000 舊 10,000	【重役】社長 豊田利三郎	【大株主】十四年九月期 豊田利三郎 2,000 豊田利三郎 2,000 豊田利三郎 2,000
【資産負債】	【株主資本】	【外部負債】	【流動資産】
株主資本 1,000,000	外部負債 1,000,000	流動資産 1,000,000	平均株主利益 1,000
使用総資本 1,000,000	固定資産 1,000,000	投資助定 1,000,000	流動負債 1,000,000
流動負債 1,000,000	平均株主利益 1,000	株主資本 1,000,000	平均株主利益 1,000
株主資本 1,000,000	平均株主利益 1,000	株主資本 1,000,000	平均株主利益 1,000
株主資本 1,000,000	平均株主利益 1,000	株主資本 1,000,000	平均株主利益 1,000

〔機械製作業〕

日本鍛工

〔設立〕昭和十二年八月
〔決算期〕五月、十一月
(本社) 東京市日本橋通一丁目二ノ一(電日本橋二〇五)

【業績順調】予想の如く十一月に締切つた昨下期の成績は好かつた。利益金は二十三萬五千圓を増して九十五萬四千圓に上り、資本負擔の増加に拘らず、利益率は二分餘りを増して三割三分強に達した。川崎工場が漸次本格的に活動を始め、賣上高の増加を見るに至つたからである。一割配當には愈々確實性を加へた譯だ。
【擴張尙ほ續く】今期からは全面的に自動車、航空機関係品の製造に力を傾注することになるが、更に東京工場の第二期擴張計畫も進捗し、尼崎新工場も目下竣工に近く秋には作業を開始する。此の資金として近く最終拂込徴収に次で増資の段取りとならう。

【資本金】公稱 五〇〇,〇〇〇 拂込 五〇〇,〇〇〇	【資本金】公稱 五〇〇,〇〇〇 拂込 五〇〇,〇〇〇
【株数】新(五〇〇) 舊(五〇〇) 100,000	【株数】新(五〇〇) 舊(五〇〇) 100,000
【重役】社長 新二 取締役 森上 島米太郎 池田 久保田 監査 山下 四郎	【重役】社長 新二 取締役 森上 島米太郎 池田 久保田 監査 山下 四郎
【大株主】十四年十一月期 山下 四郎 九元名	【大株主】十四年十一月期 山下 四郎 九元名
【工場所在地】大阪府 豊中 川崎	【工場所在地】大阪府 豊中 川崎
【事業成績】十四年十一月期 平均 三三・七	【事業成績】十四年十一月期 平均 三三・七
【事業成積】十四年十一月期 平均 三三・七	【事業成積】十四年十一月期 平均 三三・七
【資本金】公稱 五〇〇,〇〇〇 拂込 五〇〇,〇〇〇	【資本金】公稱 五〇〇,〇〇〇 拂込 五〇〇,〇〇〇
【株数】新(五〇〇) 舊(五〇〇) 100,000	【株数】新(五〇〇) 舊(五〇〇) 100,000
【重役】社長 新二 取締役 森上 島米太郎 池田 久保田 監査 山下 四郎	【重役】社長 新二 取締役 森上 島米太郎 池田 久保田 監査 山下 四郎
【大株主】十四年十一月期 山下 四郎 九元名	【大株主】十四年十一月期 山下 四郎 九元名
【工場所在地】大阪府 豊中 川崎	【工場所在地】大阪府 豊中 川崎
【事業成績】十四年十一月期 平均 三三・七	【事業成績】十四年十一月期 平均 三三・七
【事業成積】十四年十一月期 平均 三三・七	【事業成積】十四年十一月期 平均 三三・七

東京鍛工所

〔設立〕大正七年四月
〔決算期〕五月、十一月
(本社) 東京市品川區東大崎一ノ五四六(電大崎三六七一)

【前期成績】期初の未拂込徴収にも拘らず、昨下期は大体前期並みの成績を挙げた。利益金は七十三萬七千圓で、利益率は三割八分となり、前期と殆ど同率を保つことが出来た。川崎工場の一部が愈よ運轉を開始するに至つたからである。
【擴張負擔續く】川崎工場は更に第二次第三次の擴張途上であり、その完成は明年になる見込みだ。従つて資本負擔は當分解消しない擴張資金調達のため昨年十二月初最終拂込を徴収したが、續いて増資の認可を申請中で、拂込資本は次々に増大して行く。勢ひ増資を機会に減配することであらう。

【資本金】公稱 五〇〇,〇〇〇 拂込 五〇〇,〇〇〇	【資本金】公稱 五〇〇,〇〇〇 拂込 五〇〇,〇〇〇
【株数】新(五〇〇) 舊(五〇〇) 100,000	【株数】新(五〇〇) 舊(五〇〇) 100,000
【重役】社長 難波又三郎 取締役 山口 勝蔵 池田 清蔵 監査 星野友次郎 池田 池貝 監査 土屋計左右	【重役】社長 難波又三郎 取締役 山口 勝蔵 池田 池貝 監査 星野友次郎 池田 池貝 監査 土屋計左右
【大株主】十四年十一月期 難波又三郎 六元名	【大株主】十四年十一月期 難波又三郎 六元名
【工場所在地】大阪府 豊中 川崎	【工場所在地】大阪府 豊中 川崎
【事業成績】十四年十一月期 平均 三三・七	【事業成績】十四年十一月期 平均 三三・七
【事業成積】十四年十一月期 平均 三三・七	【事業成積】十四年十一月期 平均 三三・七
【資本金】公稱 五〇〇,〇〇〇 拂込 五〇〇,〇〇〇	【資本金】公稱 五〇〇,〇〇〇 拂込 五〇〇,〇〇〇
【株数】新(五〇〇) 舊(五〇〇) 100,000	【株数】新(五〇〇) 舊(五〇〇) 100,000
【重役】社長 難波又三郎 取締役 山口 勝蔵 池田 池貝 監査 星野友次郎 池田 池貝 監査 土屋計左右	【重役】社長 難波又三郎 取締役 山口 勝蔵 池田 池貝 監査 星野友次郎 池田 池貝 監査 土屋計左右
【大株主】十四年十一月期 難波又三郎 六元名	【大株主】十四年十一月期 難波又三郎 六元名
【工場所在地】大阪府 豊中 川崎	【工場所在地】大阪府 豊中 川崎
【事業成績】十四年十一月期 平均 三三・七	【事業成績】十四年十一月期 平均 三三・七
【事業成積】十四年十一月期 平均 三三・七	【事業成積】十四年十一月期 平均 三三・七

理研鍛造

〔設立〕昭和十三年四月
〔決算期〕三月、九月
(本社) 東京市豊町區有楽町一ノ二(電銀座七六二)

【増資接近】去る十二月未拂込二十五圓、總額二百五十萬圓を徴収したが、愈々倍額増資を行ふこととなつた。豫定では六月に第一回拂込十二圓半を徴収する。増資資金は前橋工場の擴張並びに借入金一の返済に充當する。
【業績窮屈か】九月期は利益金二十六萬一千圓を挙げ、利益率は二割強であつた。前橋工場が運轉不十分だつたからだ。今期は前橋工場も漸く整備し、蒲田工場擴張部分も運轉を開始するが、拂込負擔が急増してゐるので、豫想利益金三十五萬圓に對し利益率は一割七分程度に過ぎず、決算は窮屈化しよう。當分この状態が續かう。

【資本金】公稱 五〇〇,〇〇〇 拂込 五〇〇,〇〇〇	【資本金】公稱 五〇〇,〇〇〇 拂込 五〇〇,〇〇〇
【株数】新(五〇〇) 舊(五〇〇) 100,000	【株数】新(五〇〇) 舊(五〇〇) 100,000
【重役】社長 大河内正敏 取締役 大塚 萬丈 常務 小島 英雄 監査 星野 一也 荒木 重義 監査 大久保 八朗 取締 荒木 重義 監査 大久保 八朗	【重役】社長 大河内正敏 取締役 大塚 萬丈 常務 小島 英雄 監査 星野 一也 荒木 重義 監査 大久保 八朗 取締 荒木 重義 監査 大久保 八朗
【大株主】十四年九月期 平均 三三・七	【大株主】十四年九月期 平均 三三・七
【工場所在地】大阪府 豊中 川崎	【工場所在地】大阪府 豊中 川崎
【事業成績】十四年九月期 平均 三三・七	【事業成績】十四年九月期 平均 三三・七
【事業成積】十四年九月期 平均 三三・七	【事業成積】十四年九月期 平均 三三・七
【資本金】公稱 五〇〇,〇〇〇 拂込 五〇〇,〇〇〇	【資本金】公稱 五〇〇,〇〇〇 拂込 五〇〇,〇〇〇
【株数】新(五〇〇) 舊(五〇〇) 100,000	【株数】新(五〇〇) 舊(五〇〇) 100,000
【重役】社長 大河内正敏 取締役 大塚 萬丈 常務 小島 英雄 監査 星野 一也 荒木 重義 監査 大久保 八朗 取締 荒木 重義 監査 大久保 八朗	【重役】社長 大河内正敏 取締役 大塚 萬丈 常務 小島 英雄 監査 星野 一也 荒木 重義 監査 大久保 八朗 取締 荒木 重義 監査 大久保 八朗
【大株主】十四年九月期 平均 三三・七	【大株主】十四年九月期 平均 三三・七
【工場所在地】大阪府 豊中 川崎	【工場所在地】大阪府 豊中 川崎
【事業成績】十四年九月期 平均 三三・七	【事業成績】十四年九月期 平均 三三・七
【事業成積】十四年九月期 平均 三三・七	【事業成積】十四年九月期 平均 三三・七

住友電気工業

〔設立〕大正九年十二月
〔決算期〕六月、十二月
(本社) 大阪市此花區恩貴島南之町三(電土佐堀三〇一三)

【當社の信用】當社は、舊住友電線が三千萬圓の資本金から現在の五千萬圓に増資した機会——昨年十月末——に現在社名の住友電気工業となつた。その事業は各種の電線、電機、蓄電器等から硬質合金工具類に及ぶ。舊社名が世上に於て絶大な信用を有してゐること周知の通りで住友系の有力會社の一である。
【拂込、増資期待】電気工業の將來性は益々繁忙を極めるものと思はれるが、現在の工場擴張計畫が進捗するにつれて、新株未拂込一株十二圓半宛、總額五百萬圓も年内には徴収されよう。また、前途には再増資も期待される。無論現行九分配當は安泰だ。

【資本金】公稱 五〇〇,〇〇〇 拂込 五〇〇,〇〇〇	【資本金】公稱 五〇〇,〇〇〇 拂込 五〇〇,〇〇〇
【株数】新(五〇〇) 舊(五〇〇) 100,000	【株数】新(五〇〇) 舊(五〇〇) 100,000
【重役】社長 小倉 正恒 取締役 小畑 忠良 常務 田中 良雄 監査 藤原 貞一 古田 正一 監査 藤原 貞一 山本 信夫 監査 藤原 貞一 梶井 剛 監査 藤原 貞一	【重役】社長 小倉 正恒 取締役 小畑 忠良 常務 田中 良雄 監査 藤原 貞一 古田 正一 監査 藤原 貞一 山本 信夫 監査 藤原 貞一 梶井 剛 監査 藤原 貞一
【大株主】十四年十一月期 平均 三三・七	【大株主】十四年十一月期 平均 三三・七
【工場所在地】大阪府 豊中 川崎	【工場所在地】大阪府 豊中 川崎
【事業成績】十四年十一月期 平均 三三・七	【事業成績】十四年十一月期 平均 三三・七
【事業成積】十四年十一月期 平均 三三・七	【事業成積】十四年十一月期 平均 三三・七
【資本金】公稱 五〇〇,〇〇〇 拂込 五〇〇,〇〇〇	【資本金】公稱 五〇〇,〇〇〇 拂込 五〇〇,〇〇〇
【株数】新(五〇〇) 舊(五〇〇) 100,000	【株数】新(五〇〇) 舊(五〇〇) 100,000
【重役】社長 小倉 正恒 取締役 小畑 忠良 常務 田中 良雄 監査 藤原 貞一 古田 正一 監査 藤原 貞一 山本 信夫 監査 藤原 貞一 梶井 剛 監査 藤原 貞一	【重役】社長 小倉 正恒 取締役 小畑 忠良 常務 田中 良雄 監査 藤原 貞一 古田 正一 監査 藤原 貞一 山本 信夫 監査 藤原 貞一 梶井 剛 監査 藤原 貞一
【大株主】十四年十一月期 平均 三三・七	【大株主】十四年十一月期 平均 三三・七
【工場所在地】大阪府 豊中 川崎	【工場所在地】大阪府 豊中 川崎
【事業成績】十四年十一月期 平均 三三・七	【事業成績】十四年十一月期 平均 三三・七
【事業成積】十四年十一月期 平均 三三・七	【事業成積】十四年十一月期 平均 三三・七

〔機械製作業〕

【機械製作業】

大日本兵器

【設立】昭和十三年七月
【決算期】六月、十二月

(本社) 東京市麹町區丸の内二ノ六(電九ノ内五三二一)

【八分配當實施】十四年下期利益金は九十九万一千圓に達し、利益率二割六分余と前期比三分五厘方の向上を示し、一分増の八分配當を行つた。

【第三回拂込徴収か】當社は去る一月十五日七百五十萬圓の拂込を徴収し、富岡工場擴充費に五百萬圓、残り二百五十萬圓を湘南工場借入金返済に充てた。然し兩工場の擴充整備は並行して居り、湘南工場の建設費のみでも千五百萬圓と見込まれて居るから、未拂込千五百萬圓は早晩徴収される筋合にある。尠くともその半額の七百五十萬圓は今年末迄に徴収を見よう。

【資本金】公稱 10,000,000 拂込 7,500,000
【株数】(株) 100,000
【重役】社長 寺島健
常務 近藤井次郎 取締役 石原豊郎
取締役 山下太郎 監査 相井三郎
中村 藤藏 相談 山下三郎
【大株主】十四年十一月期 二九〇名
浦賀船渠 三〇,〇〇〇 山下汽船 七〇,〇〇〇
東邦電力 七〇,〇〇〇 山下汽船 七〇,〇〇〇
木村實造 八二〇日/出興業 六,〇〇〇
【沿革】浦賀船渠より富岡兵器製作所の業績内容を包含した繼續承継した。
【名義書換】十錢 【新券交附】五十錢

【事業成績】	十三年下	十四年上	十四年下
売上高(千圓)	10,000	12,000	14,000
製造費(千圓)	8,000	9,000	10,000
【資産負債】	十三年下	十四年上	十四年下
株主資本	7,500	7,500	7,500
外部負債	1,000	1,000	1,000
流動資産	1,500	1,500	1,500
固定資産	1,000	1,000	1,000
【業績】平均拂込 利益率	二九〇	二九〇	二九〇
【株價】(買物) 高値 安値	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十四年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十四年下	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十五年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
二十月中	一〇〇	一〇〇	一〇〇

帝國鑄鋼所

【設立】昭和十二年五月
【決算期】五月、十一月

(本社) 大阪市西淀川區島町一五六四(電島島五二一)

【電力問題】當社は電氣爐製鋼をやつてゐるから、電氣の制限は痛手だ。尤も特殊注文を多く持つ當社のことだから制限されても他の會社と比べればまだまだ楽な方だ。

【前途】當社は鐵に滿洲輕金屬と提携して新會社を設立し、轉てはその新會社に包括されることになつてゐたが、今日その提携を改めて滿洲重工業の直系子會社となつた。即ち滿業との提携の許に新會社を設立するので、新會社の株式は滿業が持ち、而して當社は新會社に合併されることになつてゐる。それまでは當分現狀のままに配當も一割二分を續けることになつてゐる。

【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000
【株数】(株) 100,000
【重役】社長 中治 取締役 塚本秀進
常務 中本治 監査 島田 豊
取締役 江坂 徳門 島田 豊
【大株主】十四年十一月期 一〇〇名
竹中 治 八、七〇〇 塚本秀進 三、三〇〇
竹中イクニ 五、〇〇〇 乃美貞江 一、五〇〇
【工場所在地】本社工場、飯島工場、佃合金工場、神崎鍛造工場
【營業種目】普通鑄鋼、鑄山用諸機械、各種プレス、特殊鑄鋼、各種聯合金、其他

【事業成績】	十三年下	十四年上	十四年下
売上高(千圓)	10,000	12,000	14,000
製造費(千圓)	8,000	9,000	10,000
【資産負債】	十三年下	十四年上	十四年下
株主資本	10,000	10,000	10,000
外部負債	1,000	1,000	1,000
流動資産	1,500	1,500	1,500
固定資産	1,000	1,000	1,000
【業績】平均拂込 利益率	二九〇	二九〇	二九〇
【株價】(買物) 高値 安値	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十四年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十四年下	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十五年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
二十月中	一〇〇	一〇〇	一〇〇

【機械製作業】

芳澤化機工業

【設立】大正六年十月
【決算期】六月、十二月

(本社) 東京市江戸川區逆井一ノ五(電城東二三一五)
(支社) 大阪市旭區今福町三八二(電堀川五三二)

【新設備操業】機械部及び輕合金部の一部工場完成と共に、業績は豫想の如く急に好轉して來た。十二月締切の昨下期の利益金は、前期の丁度二倍の七十八萬九千圓を擧げ、利益率は資本負擔の増加に拘らず七割九分に達した。一割五分の高率配當も業に持續し得たこと云ふまでもない。

【消極策持續か】併し如何に儲るとは云へ、一割五分と云へば何分高配當だ。旁々滿洲への進出が進捗し、大阪輕合金工場の擴充が控えてゐる。どの道増資は必然と思はれる。たゞ經營者は頗る消極的な方針を執つてゐるので、その時期は相當延びるかも知れぬ。

【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000			
【株数】(株) 100,000			
【重役】社長 芳澤嘉太郎			
取締役 山形 章 監査 大田黒元雄			
杉村 信近 三木 武市			
【大株主】十四年十一月期 一〇〇名			
芳澤嘉太郎 八、〇〇〇 荒川長太郎 一、〇〇〇			
三木武市 一、〇〇〇 山形 章 一、〇〇〇			
【工場】江戸川區逆井 旭區放出町			
【生産能力】年額一千五百萬圓			
【事業成績】	十三年上	十四年上	十四年下
売上高(千圓)	10,000	12,000	14,000
仕入高(千圓)	8,000	9,000	10,000
【名義書換】十錢 【新券交附】五十錢			

【資産負債】	十三年	十四年	十四年
株主資本	10,000	10,000	10,000
外部負債	1,000	1,000	1,000
流動資産	1,500	1,500	1,500
固定資産	1,000	1,000	1,000
【業績】平均拂込 利益率	二九〇	二九〇	二九〇
【株價】(買物) 高値 安値	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十四年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十四年下	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十五年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
二十月中	一〇〇	一〇〇	一〇〇

日本精器

【設立】昭和二年十二月
【決算期】四月、十月

(本社) 東京市蒲田區仲六郎三ノ二
(支社) 大阪市西區京橋上通二ノ一四

【前期業績】資本負擔増加のため、下掲表にも見られる如く利益金は増加してゐるにも拘らず、利益率としては低下を免れなかつた。然しそれにしては利益率三割一分三厘で一割二分配當を踏襲したのだから、利益處分は決して窮乏なものではなかつた。

【近く増資か】去る十一月の拂込徴収に依つて全額拂込済みとなつたので、近く増資が決定される順序となつた。特殊注文が殺倒して其の消化に苦しんでゐる程だから、能力の擴張はまだ當分續けなければならぬ。増資が期待される所以である。其の程度は二倍半位とならう。増資が實現すれば、配當を一割に引下げよう。

【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000
【株数】(株) 100,000
【重役】社長 徳田 昂平
取締役 青柳 欣一 取締役 田口太一郎
小野 茂三 監査 今村 久義
關岡 一 河西 兵助
【大株主】十四年十一月期 三〇〇名
徳田太一郎 一、〇〇〇 青柳 欣一 一、〇〇〇
田口太一郎 一、〇〇〇 關岡 一 一、〇〇〇
【工場】第一工場 品川區大井 飯洲町
第二工場 品川區大井 飯洲町
第三工場 蒲田區仲六郎三ノ二
志村工場 建設中
【名義書換】十錢 【新券交附】五十錢

【事業成績】	十三年	十四年	十四年
売上高(千圓)	10,000	12,000	14,000
製造費(千圓)	8,000	9,000	10,000
【資産負債】	十三年	十四年	十四年
株主資本	10,000	10,000	10,000
外部負債	1,000	1,000	1,000
流動資産	1,500	1,500	1,500
固定資産	1,000	1,000	1,000
【業績】平均拂込 利益率	二九〇	二九〇	二九〇
【株價】(買物) 高値 安値	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十四年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十四年下	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十五年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
二十月中	一〇〇	一〇〇	一〇〇

【機械製作業】

遠州織機

【設立】大正九年二月
【決算期】五月、十一月
(本社) 静岡縣濱名郡可美高塚四八八(電濱松二五)

【増資期待】高塚工場の敷地擴張は引續いて行はれて居る。次に來るのには新敷地への工場の建設だ。現本社工場の工事が進行して來たので資金調整法の認可を待つて未拂込を近く徴収する筈だ。それに續いて増資計畫が發表されねばならぬ。差當つて倍額増資と落着くのではあるまいか。増資後も業績低下の懸念は無い。
【強味と缺點】強味は資産内容が良好なばかりでなく、製品たる織機が世界的に眞價を認められて居り、軍需品加工にも好成绩を收め和戦の備へがあることだ。然し社長阪本久五郎氏を除いては、これと言つた人がないのは心細い。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,900,000
【株数】(株) 40,000
【重役】社長 阪本久五郎
取締役 南郷 三郎 監査 宮島清次郎
角田 正壽 増井治郎
【大株主】十四年十一月期
阪本久五郎 1,000,000 日本棉花 1,000,000
宮島清次郎 1,000,000
【營業項目】阪本式自動織機、普通織機
織機推進機、自動改造装置
【年産能力】自動織機 3,000臺
【事業規模】工場所在地 高塚
【機械設備】10,326,400
【名義書換】十錢 【新券交付】四十錢

【資産負債】	十二年	十四年
株主資本	1,200,000	1,200,000
外部負債	1,100,000	1,100,000
流動資産	1,100,000	1,100,000
固定資産	1,100,000	1,100,000
平均拂込	1,100,000	1,100,000
【業績】平均拂込	1,100,000	1,100,000
【株價】(實物)	1,100,000	1,100,000
十四年上	1,100,000	1,100,000
十四年下	1,100,000	1,100,000
十五年上	1,100,000	1,100,000
十五年下	1,100,000	1,100,000
【株價】(貨幣)	1,100,000	1,100,000
十四年中	1,100,000	1,100,000
十五年中	1,100,000	1,100,000

弘中商工

【設立】昭和五年十月
【決算期】五月、十一月
(本社) 朝鮮京城府漢江通三(電龍山三三〇一)

【東拓と提携】當社は最近日本産金振興からの借入金二百五十萬圓を東拓に肩代りした。加之、東拓と提携した事から金融關係も樂になつた。東拓の積極的援助から資金融通が容易になるからだ。即ち東拓から既に約百萬圓近い短資の融通を受けて居る程である。
【増資】當社は現在三百萬圓拂込済だが、新設富平工場の規模其他から推して當然増資が問題となつて居つた。唯だその増資額のみが殘されて居つたが、最近一千萬圓への三倍強増資を申請した。尤が内輪に五百萬圓増の七百萬圓程度に押へて置くべきだ。増資と同時に配當も二分減の一割に減額される恐れがある。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,200,000
【株数】(株) 30,000
【重役】社長 弘中良一
取締役 常務 江塚徳平 取締 岩本一
池邊竹次 藤島又二 西橋外男 丹羽
佐藤英夫 竹内市郎 猪野清一 監査
昇 内海仁造 常務 池田庄太郎
常務 大田 相談 池田庄太郎
【大株主】十四年十一月期
弘中良一 1,000,000 岩本 一 250,000
江塚 徳平 250,000 岩本 一 250,000
【事業成績】十四年上 1,200,000
十四年下 1,200,000
十五年上 1,200,000
十五年下 1,200,000
【事業規模】高平 1,200,000
【機械設備】1,200,000
【名義書換】1,200,000

【資産負債】	十二年	十四年
株主資本	1,200,000	1,200,000
外部負債	1,100,000	1,100,000
流動資産	1,100,000	1,100,000
固定資産	1,100,000	1,100,000
平均拂込	1,100,000	1,100,000
【業績】平均拂込	1,100,000	1,100,000
【株價】(實物)	1,100,000	1,100,000
十四年上	1,100,000	1,100,000
十四年下	1,100,000	1,100,000
十五年上	1,100,000	1,100,000
十五年下	1,100,000	1,100,000
【株價】(貨幣)	1,100,000	1,100,000
十四年中	1,100,000	1,100,000
十五年中	1,100,000	1,100,000

滿洲車輛

【設立】昭和十三年五月
【決算期】五月、十一月
(本社) 滿洲國奉天市皇姑區大實街

【五分配當据置】増資第一回の拂込は十四年八月だつた。今期は三月一日に一株に付二十五圓總額二百五十萬圓を徴収して居るから、平均拂込資本は七百五十萬圓になる筈だ。五分配當として十八万七千五百圓の配當金が要る。擴張分が漸次動き出したから五月份的利益は約四十萬圓と押へられる。五分配當は据置可能なので。
【最終拂込と今後】借入金の一部返済と運轉資金の補充で本年秋頃迄に最終拂込の徴収とならう。工事は完了に近く、努力は養成中のものもあるが、豫期程に集らぬし材料の入手も漸く窮屈な徴候が見えて來た。經營に苦心を要するがそれだけ期待は大きい。

【資本金】公稱 10,000,000 拂込 16,000,000
【株数】(株) 1,000,000
【重役】社長 野山 正八
取締役 伊藤 達三 監査 坂本 井木
岩田 中三 松山 孝二
【大株主】十四年十一月期
野山 正八 1,000,000 伊藤 達三 1,000,000
坂本 井木 1,000,000 松山 孝二 1,000,000
【營業項目】自動織機、普通織機
織機推進機、自動改造装置
【年産能力】自動織機 3,000臺
【事業規模】工場所在地 高塚
【機械設備】10,326,400
【名義書換】十錢 【新券交付】四十錢

【資産負債】	十二年	十四年
株主資本	1,200,000	1,200,000
外部負債	1,100,000	1,100,000
流動資産	1,100,000	1,100,000
固定資産	1,100,000	1,100,000
平均拂込	1,100,000	1,100,000
【業績】平均拂込	1,100,000	1,100,000
【株價】(實物)	1,100,000	1,100,000
十四年上	1,100,000	1,100,000
十四年下	1,100,000	1,100,000
十五年上	1,100,000	1,100,000
十五年下	1,100,000	1,100,000
【株價】(貨幣)	1,100,000	1,100,000
十四年中	1,100,000	1,100,000
十五年中	1,100,000	1,100,000

龍山工作

【設立】大正八年八月
【決算期】五月、十一月
(本社) 朝鮮京城府漢江通七丁目一
支社 朝鮮仁川府港町七丁目二

【製作高急増】昨年下期の製作高は三百三十五萬一千圓に達し、會てない繁忙を呈した。主として朝鮮鐵道局よりの受註増によるものである。勢ひ利益金も前期の四十三萬一千圓から五十六萬三千圓に殖え、利益率は四割一分に達してゐる。一割配當には餘裕があり過ぎる程の成績である。
【前途好望】當社は鐵道資材の製作に主力を置いてゐるため事變以來、朝鮮が大陸と本土との交通要衝として重要性を増すにつれ受註高の激増に恵まれて來た。十四年下期の受註高が前年同期の二割増加してゐるのはそのためだ。今後は益々好調を辿るだらう。

【資本金】公稱 10,000,000 拂込 12,000,000
【株数】(株) 1,000,000
【重役】社長 田川常治郎
取締役 鈴木忠之丞 取締 藤内 茂雄
甲斐久三郎 吉田 秀次郎
【大株主】十四年十一月期
田川常治郎 1,000,000 鈴木忠之丞 1,000,000
吉田 秀次郎 1,000,000 藤内 茂雄 1,000,000
【營業項目】自動織機、普通織機
織機推進機、自動改造装置
【年産能力】自動織機 3,000臺
【事業規模】工場所在地 高塚
【機械設備】10,326,400
【名義書換】十錢 【新券交付】四十錢

【資産負債】	十二年	十四年
株主資本	1,200,000	1,200,000
外部負債	1,100,000	1,100,000
流動資産	1,100,000	1,100,000
固定資産	1,100,000	1,100,000
平均拂込	1,100,000	1,100,000
【業績】平均拂込	1,100,000	1,100,000
【株價】(實物)	1,100,000	1,100,000
十四年上	1,100,000	1,100,000
十四年下	1,100,000	1,100,000
十五年上	1,100,000	1,100,000
十五年下	1,100,000	1,100,000
【株價】(貨幣)	1,100,000	1,100,000
十四年中	1,100,000	1,100,000
十五年中	1,100,000	1,100,000

【機械製作業】

帝國製鉄

【設立】大正六年十一月
【決算期】五月、十一月
【本社】大阪市港區八條通三ノ二四(電報港 五〇)
【出張所】東京市深川區森下町(電本所 二五)

【製鉄・釘事業】當社は、製鉄、釘を中心事業とし、兼ねて時局品、航空機部品等の製造にも進出してゐる。釘製類の製造が全製品の約半に達し、全國(朝鮮、台灣を含む)需要量の八割見當を供給してゐるが、運送能力神強の爲鐵道交通網の再建、大陸經濟開發の先驅として、その生産設備擴張が、要請される。

【増資期接近】本社工場の増設、天津工場設置等製鉄部の擴充に約二百萬圓、精機部(大阪市加區野江東之町工場)の整備に百五十萬圓の新資金を必要とする。倍額程度の増資期が漸次接近してゐるやうだ。昨上期二分減配の後とて、現行一割配當は安泰である。

【資本金】公稱 七〇,〇〇〇	拂込済 三,五五〇
【株數】	新(三三) 〇,〇〇〇
【重役】	社長 島田徳太郎 専務 御園 隆 常務 岡松樹 取締役 上田 三郎 吉原興一郎 佐藤 隆 井吉松 大野生太郎 岩田宗太郎 大株主 十四年十一月期 八六〇〇〇 島田商會 五,五〇〇 御園 隆 三,三〇〇 吉原興一郎 二,〇〇〇 島田徳太郎 二,〇〇〇
【工場】	本社工場(鉄) 港區市岡元町(自動車) 同七條通(電機製) 名古屋(熱田) 小型貨物三輪車
【名義書換】	十錢 【新券交付】 三十錢

【重役陣の変更】	昨年十一月に當社の重役陣に變更があつた。會長の小野連三氏を始め、田島、小林兩取締役、矢崎監査役の四重役が辭任したのである。この結果、社長廣澤二郎氏の當社に占むる獨占的統制權は却て強化された観がある。
【現状と前途】	昨年十一月期の成績は利益率二割三分強で、一割配當を据置いた。主力工場たる新設浦田工場が漸次整備されつゝあるので、今期も一割配當は續けられよう。然し當社は何分まだ拂込資本七十五萬圓の小會社なので、時節柄原材料の手當如何によつて業績は大きく左右される。この點重視すべきである。

【資本金】公稱 七五,〇〇〇	拂込済 一五,〇〇〇
【株數】	新(五〇) 〇,〇〇〇
【重役】	社長 廣澤 二郎 取締役 大波復四郎 廣澤 三郎 監査 廣澤 春雄 廣澤 義雄 大株主 十四年十一月期 一七〇名 廣澤 二郎 一〇〇名 廣澤 三郎 七〇名
【工場】	本社工場(鉄) 浦田區今泉町三ノ四 浦田工場 京橋區今泉町三ノ四 浦田工場 同敷工敷
【名義書換】	十錢 【新券交付】 三十錢

廣澤製作所

【設立】昭和十一年
【決算期】五月、十一月
【本社】東京市京橋區浦田町三ノ四(電京橋 六三)

東京機械製作所

【設立】大正五年三月
【決算期】四月、十月
【本社】東京市芝區三田四國町五(電三田天 〇〇一)

【製品優秀】新進工作機械會社として、當社は既に許可會社となつてゐるが、其の製品は精度が高く、評判がよい。主として中島飛行機、三菱重工の兩社に納入されてゐる。中島飛行機では當社の旋盤を米國リードプレンス社製旋盤と比較して精度、耐久度に於て少しも劣らないものであると折紙をつけてゐる。

【擴張と今後】當社の工場擴張は引續き旺盛である。玉川工場を始めとする、三田、目黒兩工場の擴張とか、浦田工場の新設がある。受註の増加に備へる爲だが、最近の擴張は物價高のため高價に付くから、収益率は低下を免れまい。漸ては幾分の減配か。

【資本金】公稱 七〇,〇〇〇	拂込済 四,五五〇
【株數】	新(三三) 〇,〇〇〇
【重役】	社長 芝義太郎 専務 芝 周 常務 岡村安一 西澤 廣 木一郎 淺羽大三郎 取締 池田杉二 監査 小森順造 水間 春明 平松 莊一 大株主 十四年十月期 三三〇名 芝 周 三〇,〇〇〇 芝 義太郎 三〇,〇〇〇 山一 證券 二七,〇〇〇 野 瀬 捨 七三〇 營業資金(千圓) 四七 〇,〇〇〇 浦田 十錢 【新券交付】 三十錢
【工場所在地】	三田 目黒 玉川 浦田
【名義書換】	十錢 【新券交付】 三十錢

【顧客好調】	當社の中心事業は車輛部だ。之は最近擴張を終り、日産二十七輛の生産能力を持つてゐる。之に附屬した鐵道用機器の需要も旺盛だ。奉天の鐵山用機械工場も着々能率を高めつゝある。且下新設中の鑄物工場も近く操業開始の見込みだ。最近の車輛界は頗る活況を呈してゐるから成績がよいのも當然のことだ。
【拂込期待】	鑄物工場、奉天工場の内容充實の爲め近く拂込徴收の氣運にある。六、七月頃に實施したい意圖を持つてゐるが、恐らく當局者の希望通り實現するだらう。収益力が高いから拂込資本が膨張しても一割配當は充分持續出来る。

【資本金】公稱 三〇,〇〇〇	拂込済 三,〇〇〇
【株數】	新(一七) 〇,〇〇〇
【重役】	社長 高田 友吉 取締役 三瓶 勇 常務 佐藤 忠一 相生 常三郎 田島 成治 監査 島岡 亮太郎 取締 阪田 成一 青柳 一太郎 大株主 十四年十一月期 三三〇名 取締 和商會 八,九〇〇 日本車輦製造 四,一〇〇 相生由太郎 二,二〇〇 帝國生命 三,〇〇〇 販賣収入(千圓) 二八五 二,八五〇 浦田 十錢 【新券交付】 二十錢
【工場所在地】	三田 目黒 玉川 浦田
【名義書換】	十錢 【新券交付】 三十錢

大連機械製作所

【設立】大正七年五月
【決算期】六月、十二月
【本社】大連市舊山町二三番地(電大連 九三一一)

【資本金】公稱 三〇,〇〇〇	拂込済 三,〇〇〇
【株數】	新(一七) 〇,〇〇〇
【重役】	社長 高田 友吉 取締役 三瓶 勇 常務 佐藤 忠一 相生 常三郎 田島 成治 監査 島岡 亮太郎 取締 阪田 成一 青柳 一太郎 大株主 十四年十一月期 三三〇名 取締 和商會 八,九〇〇 日本車輦製造 四,一〇〇 相生由太郎 二,二〇〇 帝國生命 三,〇〇〇 販賣収入(千圓) 二八五 二,八五〇 浦田 十錢 【新券交付】 二十錢
【工場所在地】	三田 目黒 玉川 浦田
【名義書換】	十錢 【新券交付】 三十錢

大日本セルロイド株式会社

(本社) 大阪府堺市七道西町二二七(電戎 天六〇一四)
(出張所) 東京市向島區寺島四ノ一三七(電墨田二五九)

【電力制限】新井工場(新潟縣)並に板橋工場(東京)は電力制限の影響を殆んど蒙らなかつたと云つてよいが、主力工場たる堺工場(大阪)網干及び神崎工場(兵庫縣)は相當の打撃である。化學工業であり、特にセルロイド製造過程に於けるニトロセルローズ、硝酸纖維素或ひは硝化棉は現在最も多く用ひられる無煙火藥の重要原料だし、従つて停電は免がれたが、一月十四日以降二月廿日迄三割以上の制限を受けた。二月廿日以降は若干緩和されたとは云つても、まだ二割内外の制限は受けて居るし、今期業績の低下は免がれない。

【業界の明暗】歐洲動亂後、獨逸品にかわつて海外新市場からの注文は増加して來て居るし、金屬、皮革の代用品として内需も旺盛だが、原料並に勞力不足に直面して思ふ様に増産が出来ない。硝酸、硫酸は何とか手に入るが、樟腦、ゴロ屑は所要の量が容易に確保出来ない。が、それにしても業績は大体順調で現行配當には不安無い。昨年同期の利益金二百十萬圓、利益率二割一分に對し八分配當を据置いたが、余裕種々たるものだ。

【増資問題】内地工場の擴充、天津リントー工場に次いで、滿洲にも同工場を新設することになつた。増資も時期の問題だ。

日本火藥製造株式會社

(本社) 東京市麹町區丸の内海上ビル(電丸ノ内五七七一)

【前期成績】昨年同期は純益百九十萬七千圓を計上した。利益率三割八分八厘で二割配當措置きた。尤も右の外に固定資産償却金が十四萬五千圓あるが、同上期より約廿八萬圓少ない。製品賣上高は此の間廿餘萬圓の増加だつたが、原料其他諸経費、税金等の増加で結局却前利益では斯様な減少を見た譯である。二割配當に懸念ない決算だつたにせよ、經營は一頃より樂でなくなつた事は事實として認めねばなるまい。

【今期豫想】厚狭、姫路、仁豊野、折尾等の各工場擴張分が漸次稼働し始めてゐるので、賣上高は續いて増す見込だ。たゞ動力、燃料原材料の手當難の此の際だから、積極的に著しい増益を示すとは考へられぬ。當局者も可もなく不可もない成績だらうと言つてゐるから、先づ前期並みの純益を計上し得れば上々だ。増資後政策的に減配するにしても、今上期は二割踏襲と見らるる。

【増資と割當】豫めて問題の増資は一吋遅れさうだ。當社の増資と關聯して朝鮮火藥(資本金五百萬圓)の増資(兩社とも倍額か)新株の當社株主への割當の興味があるから、株價の押目はねらはれてゐる。こゝ當分の動向が注目される。假令増資後に多少の減配を織込んで算盤が持てるからである。

【設立】	大正八年九月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	セルロイド生地、同製品、ラゲ トロイド、セルロ、セロファン
【資本金】	株式 10,000,000 株主 10,000,000
【株主数】	7,122
【役員】	會長 森田茂吉 社長 西宗 常務 伊藤吉次郎 常務 井上 茂吉 取締役 平田篤太郎 浅野修一 松本五郎 橋爪善雄 松崎南吉 結城鐵 雄 監査 昌谷彰 安場保徳 岩井豊治 矢崎徳治
【大株主】	岩井商店 5,555 三井合名 5,000 第一生命 5,000 住友銀行 2,500 明治生命 2,000 三菱信託 9,900 【年産能力】 東京工場 2,000 大阪工場 2,000 【工場】 網干工場 2,000 神崎工場 2,000 【新井工場】 セロファン 2,000 セロロイド 2,000 ラクトロイド 2,000 ラクトロイド 2,000
【事業成績】	十五年下 十五年上 十四年下 賣上高(千圓) 11,200 11,500 11,200 製造費() 8,800 9,000 8,800 【投資費】 富士寫真フィルム、三國セ ルロイド、東京セルロイド其他 【資本異動】 十二年七月二面五拂込徴収 十三年一月二面五徴収
【資産負債】	十二年 十三年 十四年 十五年 株主資本 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 積立金 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 外部負債 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 支拂手形 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 使用總資本 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 固定資産 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 流動資産 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 現金預金 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000
【名義書換】	十 十 十 十 【新券交付】 三十 三十 三十 三十

【設立】	大正五年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	ダイナマイト、硝安爆藥、黑色 火藥、導火線、雷管、藥英、殺菌、裝彈
【資本金】	株式 10,000,000 株主 10,000,000
【株主数】	8,800
【役員】	社長 原 安三郎 取締役 石藤 豊太 取締役 小倉 謙三 長崎 英造 監査 岡野 謙三 其輪 三郎 清水 高邦 田中 三郎 飯森 梅男 桑田 謙一 【株主数】 十五年下 十五年上 十四年下 總数 8,800 8,800 8,800
【大株主】	山本武太郎 5,000 中外産業 5,000 原 安三郎 9,000 内外産業 6,000 長崎 英造 4,000 飯森 梅男 4,000 小倉 謙三 3,000 清水 高邦 4,000 久保島亮吉 3,000 安田 生命 3,800
【事業規模】	工場所在地 山口縣厚狭町(爆藥) 朝鮮海州 兵庫縣四條村(火藥) 折尾仁豊野(雷管) 東京、大阪、小倉、岩見澤、飯塚(火工品) 【投資費】 中外産業(證券保有會社) 朝鮮火藥製造、中外火工品、帝國藥業製 造、帝國染料製造、日本針布、山川製藥、 中外製藥、共和レザー、新中華火藥
【資本異動】	十一年十月五圓拂込徴収 十一月五二五萬圓増資第一回拂込三圓 五、十二年九月一七圓五、十三年七月二 圓、十四年七月最終三圓各拂込徴収
【資産負債】	十二年 十三年 十四年 十五年 株主資本 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 積立金 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 外部負債 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 支拂手形 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 使用總資本 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 固定資産 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 流動資産 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 現金預金 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000
【名義書換】	十 十 十 十 【新券交付】 三十 三十 三十 三十

大日本鹽業

〔設立〕明治三十六年九月
〔決算期〕六月、十二月

(本社) 東京市麹町區丸ノ内二ノ六(電九ノ内二五五六)

〔増資・擴張〕去る一月倍額一千六百萬圓増資を決定、新株第一回拂込總額二百萬圓は三月廿五日徴收した。右資金は朝鮮、關東州の鹽田擴張と新義州のマグネ工場の建設に充てられる。鹽田開發のみでも老大な計畫だから、今後拂込は連續徴收されよう。

〔業績向上〕前期の天日製鹽は二十萬噸で前年同期の十四萬二千噸に比し好成績であつた。利益金七十二萬八千圓又、對上期七萬四千圓増で利益率二割三分に當る。餘裕裡の一割配當であつた。新義州のマグネ工場も來春は完成されるだらうから今後の業績は一段と榮觀される。資本負擔が膨脹しても一割配當に不安は無い。

【資本金】公稱六〇〇〇 拂込二〇〇〇〇

【株數】(株) 二〇〇〇

【役員】社長 宮 銀生
常務 芝 喜代二 取締役 柳 悅耳
岡 雅枝 志水寅次郎
取締役 山下 博敏 常監 岩井 俊藏
北西位 佐久 監査 三輪喜兵衛
住田 正一 室谷 謙七

【大株主】(二十一年十二月末現在)以後繰上せず
正金東京支店四〇、一九 臺灣銀行四、〇六
大日本製糖一、〇〇〇 中村合名 〇、〇〇
事業規模 鹽田總面積 七、七〇町
事業成績 鹽田面積 〇、〇〇町
販賣高(舊) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇
販賣高(新) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇
自給生産高(舊) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇
自給生産高(新) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇
【名義書換】五錢 【新券交付】十錢

【資産負債】 十二年 十四年 十四年

株主資本 八、〇〇〇 九、九二六 二、〇〇〇

外部負債 八、〇〇〇 九、九二六 二、〇〇〇

使用總資本 八、〇〇〇 九、九二六 二、〇〇〇

固定資産 七、九二六 八、八六六 九、八六六

流動資産 〇、〇七四 一、〇六〇 二、一三三

【業績】平均天日製鹽 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

【株價】(實物) 高値 安値

十四年 下 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

十五年 上 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

十五年 中 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

十五年 下 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

日本ペイント

〔設立〕明治三十一年一月
〔決算期〕一月、七月

(本社) 大阪府西淀川區浦江北四丁目(電福島五二二六)
(營業所) 東京市品川區南品川四六〇〇(電高輪三三三三)

〔電力制限〕一月十四日以降漸次強化された電力制限も、二月廿日以降二割ほどに緩和されたが、打撃は軽いものではあるまい。三日に一日休業が一ヶ月近く續いたわけだし、連續操作を要する化學工業だけに、業績の低下は免かれまい。原料入手難も緩和されてない。

〔配當據置か〕然し、當社は業界一流會社で、製品の種類は多種類に上るし、電力調整令に基づく消費規正に於ても、第二種甲に屬する船底塗料、自動車及航空機用其他特殊高級塗料を相當多量に製造して居る。業界唯一の保税工場として輸出額でも第一位を占めて居る。現行九分配當は据置可能と見てよい。

【資本金】公稱六〇〇〇 拂込二〇〇〇

【株數】(株) 二〇〇〇

【役員】社長 小畑源之助
常務 田坂吉二郎 取締役 田中 新七
鈴木傳治郎 監査 藤井 善助
取締役 森 平兵衛 吉原定次郎
小畑源之助 野村生命 六、〇〇〇
日本生命 〇、〇〇〇 吉原定次郎 二、〇〇〇
生産能力 十三年上期現在 〇、〇〇〇
工場 大阪府品川、東京市品川
【名義書換】十錢 【新券交付】三十錢

【資産負債】 十四年 十四年 十四年

株主資本 六、五五五 六、七〇〇 六、七〇〇

外部負債 六、五五五 六、七〇〇 六、七〇〇

使用總資本 六、五五五 六、七〇〇 六、七〇〇

固定資産 六、五五五 六、七〇〇 六、七〇〇

流動資産 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

【業績】平均天日製鹽 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

【株價】(實物) 高値 安値

十四年 上 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

十四年 下 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

十五年 上 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

十五年 中 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

十五年 下 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

日本理化學工業

〔設立〕大正七年七月
〔決算期〕五月、十一月

(本社) 東京市京橋區銀座三ノ三(電京橋六八一六)
(支社) 大阪府東區今橋三ノ一五(電北濱五五八九)

〔電力制限〕酸素製造には一立方米當り一、五キロ時の電力を要する。各地工場の内大阪工場が比較的多く電力制限の影響を受けてゐる。が休日關係で、その能力一時間二百五十立方米に若干缺ける程度の操業をなし得てゐるから、當社全体の業績を左右する程のものではない。今期利益率も前期並みの見込である。

〔拂込徴收〕四月一日新株に第二回拂込廿五圓宛一百五十萬圓を徴收する。蒲田の高壓化學機械工場の擴張費に充當するもので、この事業は時局柄極めて繁忙を呈してゐる。尚日本アセチレン發生機工業組合(當社外十二社)を通じての活動も注目せらるゝ。

【資本金】公稱六〇〇〇 拂込二〇〇〇

【株數】(株) 二〇〇〇

【役員】社長 高橋是賢 常務 高橋直
行 取締役 山口武彦 山下太郎 濱田
勇三 島野亨二 長谷川辰兄 藤好南
海生 藤崎三郎助 子安平司 監査
河路寅三

【大株主】十四年十一月期 五〇〇名
安田保善社八、六六六 安田生命三、〇〇〇
高橋是賢二〇〇〇 岩崎小彌太四、〇〇〇
事業規模 酸素製造機 一、〇〇〇基
事業成績 酸素生産能力 八、〇〇〇立方米
販賣高(舊) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇
販賣高(新) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇
【名義書換】十錢 【新券交付】七十錢

【資産負債】 十二年 十四年 十四年

株主資本 二、五〇〇 二、五〇〇 二、五〇〇

外部負債 二、五〇〇 二、五〇〇 二、五〇〇

使用總資本 二、五〇〇 二、五〇〇 二、五〇〇

固定資産 二、五〇〇 二、五〇〇 二、五〇〇

流動資産 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

【業績】平均天日製鹽 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

【株價】(實物) 高値 安値

十四年 上 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

十四年 下 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

十五年 上 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

十五年 中 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

十五年 下 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

日本硫黄

〔設立〕明治四十年四月
〔決算期〕六月、十二月

(本社) 東京市芝區田村町一ノ一(電銀座三五三六)

〔減配〕當社は昨下下期決算で遂に二分減の一割配當を決定した。二硫化炭素、精製硫黄の何れも、事變以來毎に操短の度を高め販賣量延びず、且産金事業も年内尙、見込み薄で未償資本の壓迫が依然解消されぬ結果だ。この期利益金は二十六萬一千圓で上期より六萬圓減少、利益率にして一割九分と低下しては無理もない。固定資産償却高八萬圓も亦、前期より二萬圓を減じてゐる状態だ。

〔價格引上〕たゞ近日中には二硫化及び精製硫黄の價格引上が許可される筈だし、産金事業も漸次賣量を増すから、今期以後の業績に就ては相當の回復が期待出来る。

【資本金】公稱五〇〇〇 拂込二二、七五〇

【株數】(株) 二二、七五〇

【役員】常務 富川七之助 取締役 中田
中榮八郎 西脇健治 石川 一郎 二神
監査 林政次 小野彌太郎 石川次郎
藤吉 藤崎友三 苦米地義三 山田五郎

【大株主】十四年十二月期 四、〇〇〇名
日理化學工業三、九〇〇 中村房次郎二、八〇〇
石川 一郎 三、九〇〇 中村房次郎二、八〇〇
生産数量(舊) 十三年下 三、九〇〇 三、九〇〇
生産数量(新) 十三年上 三、九〇〇 三、九〇〇
精製硫黄 五、〇〇〇 五、〇〇〇
硫黄加工品 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇
【名義書換】五錢 【新券交付】三十錢

【資産負債】 十二年 十四年 十四年

株主資本 一、三二〇 一、三二〇 一、三二〇

外部負債 一、三二〇 一、三二〇 一、三二〇

使用總資本 一、三二〇 一、三二〇 一、三二〇

固定資産 一、三二〇 一、三二〇 一、三二〇

流動資産 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

【業績】平均天日製鹽 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

【株價】(實物) 高値 安値

十四年 上 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

十四年 下 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

十五年 上 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

十五年 中 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

十五年 下 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

三

共

【設立】大正二年三月
 【決算期】五月、十一月
 (本社) 東京市日本橋區京橋三丁目二(電)日本橋三三三(出張所) 大阪市東區道修町一

【前期業績】昨年十一月締切の下期決算の利益金は百三十六万五千余圓で對上期十三万六千圓の減少であつた。利益率も二割一分と四分方低下した。事變の影響で需要は増大しても、事業の性質上平和的製品が多いから抑制される部面も生じ、殊に輸入原料の杜絶や製品の價格抑制は、相當深刻に業績に響いて來てゐる。従つて略増産設備を完成した品川工場にも余り期待は出來ない。

【前途】今期後も品川工場の収益が伸びぬ限り資本負擔が加はるか或程度減益は免れぬ。が仔會社(日本ベークライト等)の業績が割合良く、二割台の利益率は擧げ得ようから八分配當は擧ぐまい。

【資本金】公稱 1,500,000 拂込 1,500,000	【株數】新 100,000
【重役】社長 藤原 又策 常務 藤原 三郎 監査 田口 一太 取締役 植村 三郎 顧問 鈴木 梅太郎	【大株主】十四年十一月期 2,100名 藤原合名 6,633 藤原 三郎 1,711 高橋保全 9,833 帝國生命 7,711 藤原 規 工場 坪數 1,000 坪餘
【事業規模】工場 坪數 1,000 坪餘 【工場】東京(一) 大阪(二) 大連 【投資會社】東洋製業工業、日本ベークライト、泰昌製業、興東貿易、鳥居商店、柏木檢温器 其他	【名義書換】十錢【新券交附】三十錢
【資産負債】	【株價】(實物) 株
株主資本 1,500,000	十二月 五十四月 十四月
外部負債 3,800,000	三三三 三三三 三三三
流動資産 3,900,000	三三三 三三三 三三三
流動負債 3,900,000	三三三 三三三 三三三
平均株主利益率 二二・二	三三三 三三三 三三三
配當率 二二・二	三三三 三三三 三三三
株價(實物) 株	三三三 三三三 三三三
高値 八・五	三三三 三三三 三三三
安値 六・五	三三三 三三三 三三三
高値 八・五	三三三 三三三 三三三
安値 六・五	三三三 三三三 三三三

鐵

興

社

【設立】昭和三年十月
 【決算期】五月、十一月
 (本社) 東京市京橋區京橋三丁目四ノ八(電)京橋〇六三

【倍額増資】懸案の倍額増資は斷行され、去る一月廿五日第一回拂込二十圓、總額四百萬圓を徵收した。これで拂込は一千四百萬圓となつた。併し、満庵の増産、發電所建設、投資に今後多額の資金を投じなければならず、未拂込の追徴、更に再増資を豫想される。

【業績は】昨年下半年は利益率二割七分一厘で、例期並の成績であつた。電力制限も東北地方には關係なく、操業に差支へなかつた。又自家発電所を持つてゐるから今後安心だ。今期は新設の宮崎工場が運轉開始となり、稻倉石鑛山の増掘も奇與し更に、近く合金鐵の値上げが實現するので、利益金増加は勿論のこと、成績は向上か。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株數】新 100,000
【重役】社長 棚橋 實五郎 取締役 西野 清三郎 常務 西野 清三郎 監査 牛尾 惠平 取締役 佐野 忠司 顧問 山本 律治	【大株主】十四年十一月期 1,033名 棚橋 實五郎 2,000 佐野 忠司 1,000 藤野 忠司 7,000 山本 律治 1,000 佐野 忠司 7,000 山本 律治 1,000
【事業規模】鑛山 北海道、栃木 【工場】福島、山形、秋田、青森、岩手 【投資會社】東洋製業工業、日本ベークライト、泰昌製業、興東貿易其他	【名義書換】十錢【新券交附】五十錢
【資産負債】	【株價】(實物) 株
株主資本 1,000,000	十二月 五十四月 十四月
外部負債 3,800,000	三三三 三三三 三三三
流動資産 3,900,000	三三三 三三三 三三三
流動負債 3,900,000	三三三 三三三 三三三
平均株主利益率 二二・二	三三三 三三三 三三三
配當率 二二・二	三三三 三三三 三三三
株價(實物) 株	三三三 三三三 三三三
高値 八・五	三三三 三三三 三三三
安値 六・五	三三三 三三三 三三三
高値 八・五	三三三 三三三 三三三
安値 六・五	三三三 三三三 三三三

日本醋酸製造

【設立】明治三十五年七月
 【決算期】六月、十二月
 (本社) 東京市本所區横橋五ノ四(電)墨田三三三(事務所) 東京市本所區駒込東片町(電)小石川三六六

【電化へ合併】當社は近く電氣化學へ合併されることになつた。合併條件は一對一で、電化より配當率も上だし、株價も高いので當社に有利に取極められたのである。歴史の古い、醋酸界に其の名を知られた當社も、愈々解散する譯である。

【先行き】電化の經營になつた後は、同社のカーバイド誘導工業の一環として、その設備と技術を活かすことになるであらう。電化では青海の自家電力を利用し、その獨特のカーバイド工業を發展させ、あるので、原料難に悩んでゐた當社も合併によつて局面打開が出来る。合併後の配當は電化並の一割と見られる。

【資本金】公稱 1,500,000 拂込 1,500,000	【株數】新 100,000
【重役】社長 植村 三郎 取締役 大川 鐵雄 常務 森下 虎吉 監査 伊東 小次郎 取締役 加藤 左武郎 田中 榮八郎	【大株主】十四年十一月期 3,900名 植村 三郎 1,500 加藤 左武郎 1,500 加藤 左武郎 1,500 加藤 左武郎 1,500
【事業規模】工場 坪數 1,000 坪餘 【工場】東京(一) 大阪(二) 大連 【投資會社】東洋製業工業、日本ベークライト、泰昌製業、興東貿易、鳥居商店、柏木檢温器 其他	【名義書換】十錢【新券交附】二十錢
【資産負債】	【株價】(實物) 株
株主資本 1,500,000	十二月 五十四月 十四月
外部負債 3,800,000	三三三 三三三 三三三
流動資産 3,900,000	三三三 三三三 三三三
流動負債 3,900,000	三三三 三三三 三三三
平均株主利益率 二二・二	三三三 三三三 三三三
配當率 二二・二	三三三 三三三 三三三
株價(實物) 株	三三三 三三三 三三三
高値 八・五	三三三 三三三 三三三
安値 六・五	三三三 三三三 三三三
高値 八・五	三三三 三三三 三三三
安値 六・五	三三三 三三三 三三三

日本製鍊

【設立】大正四年九月
 【決算期】五月、十一月
 (本社) 東京市江戶區小松川一ノ一(電)墨田四四四(事務所) 東京市本所區駒込東片町(電)小石川三六六

【成績順調】前期は利益金八十萬七千圓(償却及税金引當を含む)を計上した。利益率は一分向の上の二割九分九厘で、一割配當踏襲。順調な成績と言ひ得る。之も原料、燃料、動力等々の不如意の結果全設備能力を發揮したものでない。従つて其等が可及的に得らるゝ場合の當社の生産實力は、もつと高い譯である。

【増資含み】直營事業の擴張には亞鉛及クロム原鑛の自給、鑛の増産、北支の鑛土を原料とするアルミナ生産等々があり、子會社日本化學はバリウム、日本電化は合金鐵の各増産を行つてゐる。先行き未拂込徵收の上増資の筋合だ。發展性を持つ株式である。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株數】新 100,000
【重役】社長 棚橋 實五郎 取締役 西野 清三郎 常務 西野 清三郎 監査 牛尾 惠平 取締役 佐野 忠司 顧問 山本 律治	【大株主】十四年十一月期 1,033名 棚橋 實五郎 2,000 佐野 忠司 1,000 藤野 忠司 7,000 山本 律治 1,000
【事業規模】鑛山 北海道、栃木 【工場】福島、山形、秋田、青森、岩手 【投資會社】東洋製業工業、日本ベークライト、泰昌製業、興東貿易其他	【名義書換】十錢【新券交附】五十錢
【資産負債】	【株價】(實物) 株
株主資本 1,000,000	十二月 五十四月 十四月
外部負債 3,800,000	三三三 三三三 三三三
流動資産 3,900,000	三三三 三三三 三三三
流動負債 3,900,000	三三三 三三三 三三三
平均株主利益率 二二・二	三三三 三三三 三三三
配當率 二二・二	三三三 三三三 三三三
株價(實物) 株	三三三 三三三 三三三
高値 八・五	三三三 三三三 三三三
安値 六・五	三三三 三三三 三三三
高値 八・五	三三三 三三三 三三三
安値 六・五	三三三 三三三 三三三

【化學工業】

大多喜天然瓦斯

【設立】大正六年五月
【決算期】五月、十一月
（本社）東京市京橋區銀座西六ノ三（電報室三三三〇）

【發展計畫】茂原、大多喜の新瓦斯井發掘は計十八本、壓縮工場は現在の茂原の他、七井土、上市場、大多喜の三箇所に新設する。國策によるガソリン代用天然瓦斯自動車が政府補助金によつて増産され、東京市内にガソリンスタンド設置も行はれる。工場用燃料から自動車燃料にまで進出するのだ。

【見透し】十一月決算では普通株の一分増配を決定したが今期は新株の拂込徴収で資本負擔が増加する。併し、事業の發展で収益は増加するから普通株の再増配が期待される。他事業と異り統制による打撃がないのが最大の強味だ。新株第二回拂込徴収も近い。

【資本金】公稱 10,000 拂込 6,150	【株數】新 1,000 舊 1,000	【重役】社長 手島鐵司 専務 林清賢一 部長 取給 矢部又吉 早川久工 門田 淺見 野野 石川 藤 岡 藤次 監 査 岡 秀 賀 大河内 正 敏 三川 逸 郎
【大株主】十四年十一月期 一、〇〇〇名	【事業地】茂原、大多喜、一ノ宮、國吉	【事務所】五反田一井平均 八〇〇千 瓦 斯 噴 出 量 一 井 平 均 八 〇 〇 千 瓦
【資産負債】	【株主資本】	【外部負債】
株主資本 11,300	外部負債 4,900	使用資本 16,200
流動資産 11,300	流動負債 4,900	流動負債 16,200
固定資産 0	固定負債 0	固定負債 0
平均株価 11.30	平均株価 4.90	平均株価 16.20
十四年上 11,300	十四年上 4,900	十四年上 16,200
十四年下 11,300	十四年下 4,900	十四年下 16,200
十五年上 11,300	十五年上 4,900	十五年上 16,200
十五年下 11,300	十五年下 4,900	十五年下 16,200

神戸電機製作所

【設立】大正六年五月
【決算期】五月、十一月
（本社）神戸市湊東區相生町二ノ六〇番屋敷（電元町一三三）

【下期増配】十一月締切の下期決算は予想通り一分増の九分配當を行つた。利益金は三十萬一千圓と前期に比し五萬圓の増加、對平均拂込資本利益率二割四分強、一分の向上に當る。償却は十二萬圓と前期より四萬圓増加し、内部保留率五割八分に當る。

【今期の見透】蓄電池、カウベライトから、電動機及發電機、船用機等へ進出、相當効果を納めつゝある。新設中の尼ヶ崎工場も完成した。電力制限で操業率低下は打撃だが、現行配當は堅持しよう。尼ヶ崎工場の建設資金は略々二百萬圓、既に借金は五百九十萬圓の多額を算するし、未拂込徴収は近いと見てよからう。

【資本金】公稱 10,000 拂込 2,275	【株數】新 1,000 舊 1,000	【重役】社長 石原新三郎 取給 松浦 守一 専務 直木 三郎 監査 石井 榮吉 常務 榎本 三郎 藤田 啓三 小川 茂雄 田村 啓三 小川 茂雄 取給 藤田 啓三 小川 茂雄
【大株主】十四年十一月期 一、〇〇〇名	【事業地】石原、三浦、三浦、三浦	【事務所】神戸市湊東區相生町二ノ六〇番屋敷
【資産負債】	【株主資本】	【外部負債】
株主資本 2,275	外部負債 1,000	使用資本 3,275
流動資産 2,275	流動負債 1,000	流動負債 3,275
固定資産 0	固定負債 0	固定負債 0
平均株価 2.275	平均株価 1.000	平均株価 3.275
十四年上 2,275	十四年上 1,000	十四年上 3,275
十四年下 2,275	十四年下 1,000	十四年下 3,275
十五年上 2,275	十五年上 1,000	十五年上 3,275
十五年下 2,275	十五年下 1,000	十五年下 3,275

オリエンタル寫眞工業

【設立】大正八年九月
【決算期】五月、十一月
（本社）東京市淀橋區西落合二ノ四三〇（電大塚三三三）

【一分増配】當社は昨下下期に於て一分増の九分配當を行つた。當期の販賣高は四百五十五萬五千圓で、前年同期に比し三割八分を増加した。製品の國産化時代に應じて、原料對策に當を得た結果、印刷紙、乾板、フィルム等何れも生産擴充が出来たからだが一般向、某方面向、ともに注文に追はれる状態だ。

【品質の向上化】今期も尙、原材料は豊富だし、價格抑制も左して痛痒としない今の業績では九分配當維持は無難のこと、一割への再増配も期待が持てる。而も當社は曾つての製品不評を一掃すべく、品質向上を目指して研究陣の強化を圖つてゐる。

【資本金】公稱 10,000 拂込 10,000	【株數】新 1,000 舊 1,000	【重役】社長 桂之助 常務 菊地 政治 部長 菊地 久吉 取給 荒井 建三 常務 中村 直綱 監査 淺沼 龍吉 安藤 國之助 小泉 壽太郎
【大株主】十四年十一月期 一、〇〇〇名	【事業地】東京、大阪、名古屋、京都、神戸、横浜、福岡、仙台、札幌	【事務所】東京市中野區江古田
【資産負債】	【株主資本】	【外部負債】
株主資本 10,000	外部負債 0	使用資本 10,000
流動資産 10,000	流動負債 0	流動負債 10,000
固定資産 0	固定負債 0	固定負債 0
平均株価 10.00	平均株価 0.00	平均株価 10.00
十四年上 10,000	十四年上 0.00	十四年上 10,000
十四年下 10,000	十四年下 0.00	十四年下 10,000
十五年上 10,000	十五年上 0.00	十五年上 10,000
十五年下 10,000	十五年下 0.00	十五年下 10,000

富士寫眞フィルム

【設立】昭和九年一月
【決算期】四月、十月
（本社）神奈川県足柄上郡南足柄村中沼二一〇（電關本五一一）
（出張所）東京市京橋區銀座西二ノ三（電京橋六六一）

【業績好調】原料入手難はあるが、國産萬能の波に乗つて業績は相當好調裡に推移しつゝある。歐洲戰亂で獨逸からの高級ゼラチンが杜絶したが、これは國産品で大體間に合ふ様になつたし、乾板用硝子、硝酸銀も希望通りの數量は入手し得めとしても、其の八割位は確保しつゝ操業を續けて居る。主要工場たる神奈川縣足柄方面は、電力制限率は極めて小巾なものだし、この方も大體心配ない。先づ現行一割配當を維持する程度の業績は維持出来るよう。

【拂込期接近】小田原工場（硝酸銀、色素等）の完成も今夏に迫つたし、擴充工事に當つてた借金返済の爲、拂込徴収が期待される。

【資本金】公稱 10,000 拂込 2,150	【株數】新 1,000 舊 1,000	【重役】社長 淺野修一 常務 作間 政介 取給 平田 篤太郎 西宗 茂二 井上 進吉 春木 榮 森田 茂雄 小川 節太郎 監査 伊藤 吉次郎 磯村 増雄
【大株主】十四年十一月期 一、〇〇〇名	【事業地】東京、大阪、名古屋、京都、神戸、横浜、福岡、仙台、札幌	【事務所】東京市京橋區銀座西二ノ三
【資産負債】	【株主資本】	【外部負債】
株主資本 2,150	外部負債 0	使用資本 2,150
流動資産 2,150	流動負債 0	流動負債 2,150
固定資産 0	固定負債 0	固定負債 0
平均株価 2.150	平均株価 0.00	平均株価 2.150
十四年上 2,150	十四年上 0.00	十四年上 2,150
十四年下 2,150	十四年下 0.00	十四年下 2,150
十五年上 2,150	十五年上 0.00	十五年上 2,150
十五年下 2,150	十五年下 0.00	十五年下 2,150

【化學工業】

【製紙パルプ事業】

日曹人絹パルプ

【設立】昭和十二年三月
【決算期】四月、十月

(本社) 東京市豊町區大手町二ノ八(電丸ノ内型美)

【八分配當維持】パルプの製造技術は漸く本調子となり、半期一萬越内外の生産が見込まれるやうになつた。ス・フは操短を餘儀なくされるが、半期二千越近くの生産を期待せしむる。企業が漸く軌道に乗つて来た證據であつて、今更らながら原木確保の強味を認めぬ譯には行かなくなつた。併し、他面にカナダよりの原木積取運賃の昂騰があり、爲替の低落に伴ふ決済上の不利はあるが、それにして事業の根底に不安はなく、八分配當の持続に當面問題を生ずる如き懸念はない。来る四月期の成績も良く、來期は富山工場の蒸煮罐一基増設の關係もあつて業績は漸次向上を期待せしむる。

【資本金】公稱 10,000 拂込 15,000	【株数】..... (100)
【重役】社長 中野友禮 常務 金井滋直	取締役 武田次郎 遠山元一 伊藤忠兵衛
田嶋昌作 岸本吉左衛門 古莊健次郎	石橋正二郎 小林中 金岡又左衛門 馬場正治 小泉後三 監査 辰澤茂乙 竹中治 中山俊治 小長谷新太郎 中田勇吉 相澤 増田義一 鈴木寅彦
【大株主】十四年十月期 三六三名	日本曹達 10,000 第一生命 10,000
伊藤忠商事 五,000 妙高企業 三,000	【事業規模】富山工場(人絹パルプ)八代工場(ス・フ)福井工場(機械加工)
【名義書換】十錢	【新券交付】二十錢

北鮮製紙化學工業

【設立】昭和十一年
【決算期】三月、九月

(本社) 咸鏡北道吉州郡 吉州邑營基洞
(出張所) 東京市豊町區有樂町一丁目三信ビル(電銀座四六)

【品質向上】當社の製品は嘗てはピッチが多いと言ふ非難を受けたことがある。併し其の後製品の品質改善に努力した結果著しく優良なものとなつた。人絹パルプとしては最上のものと言へないまでも、優良品中に數へられる。

【今期業績】新設擴張工事は昨年七月に完成し、十月から始まる今期には全期を通じて寄與する譯だ。生産は當然増加する。併し一方昨年七月一日から實施された一封度當り一錢二厘の値下げがあるから、増産しても大増益となるかどうか疑問だ。昨年九月份より幾分良好な成績を収める程度で、大した變化はあるまい。

【資本金】公稱 10,000 拂込 10,000	【株数】..... (100)
【重役】社長 高島菊次郎 副社長 足立正 専務 藤原喜藏 横井三郎	取締役 大橋新太郎 田中治朗 井上憲一 村岡植 監査 松本弘造 轉相龍
【大株主】十四年九月期 八三名	王子證券 3,000 秋田 秀穂 2,000
朝鮮信託 8,000 漢城銀行 6,000	【事業規模】工場 朝鮮咸鏡北道吉州人絹パルプ工場(ス・フ)三信ビル(機械)
【名義書換】十錢	【新券交付】五十錢

滿洲パルプ工業

【設立】昭和九年五月
【決算期】三月、九月

(本社) 滿洲國牡丹江省牡丹江市柳林
(支社) 東京市豊町區丸ノ内二ノ六八重洲ビル(電丸ノ内型美)

【三月期業績】まだ本稿執筆當時には當社の三月期決算は發表されてゐなかつた。然し昨年十月二十五日から晒設備が運轉を開始したので、従來製紙用パルプとして販賣せざるを得なかつたものを、人絹パルプとして販賣することが出来る。此の爲利益は相當増加してゐる筈だ。尤も石炭不足と言ふことが他方の悪材料として考へられるが當社は早手廻しに石炭手當を行つたので此の方面の心配は少い。大体二十萬圓程度の利益を出し、一、二分の増配を行つて、配當を六分乃至七分に引上げるであらう。拂込徴収を近く行ふかも知れぬ。【九月份】今年九月份も大体三月份並には充分行くと思ふ。

【資本金】公稱 10,000 拂込 15,000	【株数】..... (100)
【重役】社長 寺田元之助 社長 高橋謙造 常務 木下莊 取締役 赤松龍一 南郷三郎 岸本五兵衛 尼崎芳雄	二國三樹三 信實英藏 奥田保邦 眞植俊一 監査 寺田甚吉 山本留太郎
【大株主】十四年八月期 四四名	三菱製紙 4,000 寺田元之助 1,000
王子證券 4,000 植村澄三郎 1,000	【事業規模】工場所在地 柳林 林業區域 滿洲國 一七〇萬町歩
【名義書換】十錢	【新券交付】五十錢

大日本セロファン

【設立】昭和六年六月
【決算期】四月、十月

(本社) 名古屋市西區光寺町字旭一〇〇(電東三六)

【業績順調】電力使用制限は只今までのところ平均二割程度に當り、業績全体から見れば大きな影響はない。今期に入つての業績は平均月産三千五百連程度だ。三月以降も同率と見れば今期は二万二千連の生産と押へられる。一連當り五圓の利益と見れば十一萬圓となる。昨年同期と同様の利益で平均二割の節電も結局影響せぬことになる。【前途】防水セロファンの操業は電力飢饉で中止して居るがそれでも前述の収益豫想となるのだ。原料不足でフル運轉が出来ないが、配給分でも増加して能力月産五千連がフルに働く曉は業績に期待される。ところ大きい。現行六分配當は將來増配の樂しみさへある。

【資本金】公稱 10,000 拂込 10,000	【株数】..... (100)
【重役】社長 中野 友禮 取締役 青木留次郎	専務 高木 通海 監査 金井 滋直
【大株主】十四年十月期 三三名	日本曹達 10,000 下出 3,000
青木留次郎 1,000 日東 1,000	【事業規模】セロファン紙、人造纖維
【名義書換】十錢	【新券交付】五十錢

【セメント事業】

浅野セメント株式会社

(本社) 東京市麹町區丸の内海上ビル新館(電九ノ内一五〇九)

【土佐を合併】先に日本社を合併した當社は亦土佐セメントを合併した。此の合併の意義は言ふ迄もなく、運輸關係不調に悩む土佐の救済にある。従來出荷の八割を海運に依存して居た土佐は、運賃の昇、船腹の拂底で、業績は壓迫されざるを得なかつたからだ。合併比率一対一は十四年下期來の固定資産評價が浅野社に比し土佐の方が安いのでから浅野としても悪くない。何れにせよ兩社の對等合併は双方に取つて經營の合理化となるは明らかだ。

【前期凡調】十二月期の計上利益は四百三十二万五千圓だが、此の中には日本社三ヶ月分の利益二十三万五千圓も含まれる。浅野自体としては、前期と變らな。か是でも期の後半から生産状態の悪化した事と對照すればむしろ意外の好成績だ。セメント出荷量は八十四万六千噸で、一万五千噸の増加だが、日本社分を別とすれば三万噸前後の減量だ。他方差益も三圓を割る有様だ。がスレート、有價證券投資、電氣製鋼等の副業収益は何れも増加し結局前述の利益を挙げたのだ。利益率は一期三分で、配當は五分を繼續した。

【今期も五分か】洋灰需要は依然旺盛だが、煉成炭不足は緩和しな。し、生産會社賃値は廿一圓二十錢と一圓四十錢方の引上だが、コスト高からさして向上は望めない。引續主五分を踏襲しよう。

【設立】	大正元年十月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	セメント、スレート
【資本金】	公稱二六、三〇〇拂込七、〇三三
【株数】	(單位千株) 新(三三、〇〇〇) 舊(三三、〇〇〇) 一六六、〇〇〇
【重役】	社長 浅野一郎 専務 金子喜代太 常務 浅野八郎 乙竹茂郎 取締役 白石元次郎 浅野良三 田中榮八郎 阪谷芳郎 森廣藏 藤井光藏 山本太郎 監査 安田善五郎 尾高豊作 徳川誠 遊澤武之助
【株主】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【大株主】	浅野同族三六、八八七 浅野興業六、〇〇〇 浅野同族三三、〇〇〇 安田銀行八、〇〇〇 大川合名三、〇〇〇 富田同族三、〇〇〇 北電興業三、〇〇〇 富田兵元、〇〇〇 東京、西多摩、門司、北海道、臺灣、大阪、香春、川崎、尼崎
【工場】	東京、西多摩、門司、北海道、臺灣、大阪、香春、川崎、尼崎
【事業成績】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【生産能力】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【出荷高】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【新契約】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【契約】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【在庫】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【投資】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【資本異動】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下

【資産負債】	三十四年 三十五年
株主資本	六、八八七 六、八八七
積立金	一、〇〇〇 一、〇〇〇
外部負債	三、〇〇〇 三、〇〇〇
社債	一、〇〇〇 一、〇〇〇
借入金	一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	一、〇〇〇 一、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【流動比率】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【固定比率】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【負債比率】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【業績】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【株價】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【名義書換】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下

【セメント事業】

小野田セメント製造

(本社) 山口縣厚狭郡小野田町六二七六(電小野田一三) (出張所) 東京市京橋區銀座西三丁目建築會館内(電京橋二九七)

【業績順調】十一月末締切の昨年同期成績は左表に見る如く順調に一割配當を据置いた。前報にも述べたやうに、當社は朝鮮、關東州、滿洲等に別會社を有し、それらの好調か内地業界の不味を補つてゐるのである。

【前途觀】當面現行一割配當に不安ないか、業界を手放しに樂觀する譯にゆかぬ。洋灰煉修の資材入手難、石炭不足等の悪影響をうけて内地、外地、滿洲共に困難を曝じてゐるのだ。尤も、セメント需要は國內、大陸の増大は言ふに及ばず、今次歐洲大戰の影響で輸出も可能である。當分現行配當は安泰だ。

【資本金】	公稱二〇、〇〇〇 拂込二、三三三
【株数】	(單位千株) 新(一〇、〇〇〇) 舊(一〇、〇〇〇) 一〇〇、〇〇〇
【重役】	社長 狩野宗三 専務 朝枝信太郎 常務 河内通祐 取締役 赤羽克巳 本吉喜一 白根竹介 監査 上島次郎 山本義人 渡邊生一 坂本三三 兼直 菊谷茂吉 三澤廣忠 坂本章三
【大株主】	三十四年十一月期 七、〇〇〇名
【生産能力】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【出荷高】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【名義書換】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下

【設立】	明治四十年五月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	セメント
【資本金】	公稱二〇、〇〇〇 拂込二、三三三
【株数】	(單位千株) 新(一〇、〇〇〇) 舊(一〇、〇〇〇) 一〇〇、〇〇〇
【重役】	社長 岩崎清一 常務 山田隆吉 岩崎清一郎 取締役 岡野利兵衛 吉水仁藏 南俊一 長瀬菊次郎 安部政次郎 木村清治 泉山岩次郎 相談 大橋新太郎 日本鐵兵三、〇〇〇 岩崎七商店三、〇〇〇 富國發兵三、〇〇〇 岩崎七商店三、〇〇〇 富國發兵三、〇〇〇
【大株主】	三十四年十一月期 二、〇〇〇名
【生産能力】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【出荷高】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【名義書換】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下

磐城セメント

(本社) 東京市麹町區丸の内丸ビル内(電九ノ内三三〇一) (出張所) 青森縣青森市古川町一七

【八分繼續】昨年同期出荷は普通洋灰九万五千噸 混合洋灰八万噸 合計十七万五千余噸だつた。混合洋灰出荷は急増したが、是は煉成炭不足を反映するものだ。結局出荷は前半は良く、後半は振はなかつた。前年同期に比し約一萬噸の出荷減だ。洋灰益は越五圓弱として八十五萬圓、副業収入を入れて恒例の百六萬圓の利益計上をなし、八分配當を繼續した。

【大陸進出未だし】當社の大陸進出は括目に値ひするとされたが、僅か滿洲洋灰の増設あつたのみで蒙疆華北兩洋灰公司未だ實質的活動を示さない。經營合理化の途を七尾、豊國の合併に見よう。

【資産負債】	三十四年 三十五年
株主資本	二、三三三 二、三三三
積立金	一、〇〇〇 一、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇
社債	一、〇〇〇 一、〇〇〇
借入金	一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	一、〇〇〇 一、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【流動比率】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【固定比率】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【負債比率】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【業績】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【株價】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下
【名義書換】	三十四年上 三十四年下 三十五年上 三十五年下

【セメント事業】

秩父セメント

【設立】大正十二年一月
【決算期】五月、十一月

(本社) 東京市麹町区丸の内日本工業倶楽部内(電九ノ内三三六)

【前期凡調】石炭不足の打撃を受けて、當社の昨年同期出荷高は十五万四千吨に止まつた。予定より二万五千吨の減少だ。普通洋灰は九万六千余吨、混合洋灰は五万七千余吨の出荷を見た。工場渡し契約が多く、爲にセメント益は意外に減らず六十萬圓に上り投資収入十萬圓、スレート益十二萬圓その他を加へ、總利益九十三萬六千圓を計上し得た。前期比一萬三千圓の利益増で一割三分を据置いた。

【今期も變るまい】依然石炭問題が業績を左右する。併し余裕は多いし、技術的精進も怠らないから、急速な業績の悪化はなからう。一割三分に變りあるまい。回轉窯製鐵はまだ成功しない様だ。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株数】新 100,000 舊 100,000
【重役】社長 大友 幸助 取締役 浅田 平藏 常務 浅田 平藏 監査 橋本 太郎	【株主資本】1,000,000
【大株主】大友 幸助 浅田 平藏 橋本 太郎	【外部負債】1,000,000
【事業成績】十四年下期 利益 936,600	【使用総資産】1,000,000
【出荷高】(洋灰) 157,000 (混合) 57,000	【流動資産】1,000,000
【名義書換】十五錢 新券交付 三十錢	【株價】(洋灰) 高値 70.00 安値 65.00

大阪窯業セメント

【設立】昭和元年十二月
【決算期】五月、十一月

(本社) 大阪市北区堂島濱通二丁目一四(電北二〇二二)

【多角經營の強味】セメント需要は昨年四、五月以降増加し、市況も好調を示したが、石炭不足並にその他資材の入手難で操業率緩和も意の如くならず、操業は甚だ窮屈となつた。然し、當社は副産物を原料とする特殊セメント製造等の多角經營によつて、この難局に處し、左掲表示に見る如く昨年同期は一割六分配當を据置いた。

【高率配當の不安】當社は別に直接軍需關係事業に従事してゐる譯でないから、現行一割六分の高率配當を抑壓される不安はさほど大きいものでない。しかし、なほ物資不足の悪影響をうけるとすれば、一概に樂觀は出来ない。製鐵事業も未だ本格化せぬ。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株数】新 100,000 舊 100,000
【重役】社長 浅田 平藏 取締役 橋本 太郎 常務 浅田 平藏 監査 山口 太郎	【株主資本】1,000,000
【大株主】浅田 平藏 橋本 太郎 山口 太郎	【外部負債】1,000,000
【事業成績】十四年下期 利益 1,016,000	【使用総資産】1,000,000
【出荷高】(洋灰) 157,000 (混合) 57,000	【流動資産】1,000,000
【名義書換】十五錢 新券交付 三十錢	【株價】(洋灰) 高値 112.50 安値 105.00

【セメント事業】

宇部セメント製造

【設立】大正十二年九月
【決算期】五月、十一月

(本社) 山口縣宇部市大字小串一九七八(電宇部八八)

【業績低下】昨年十月以降の石炭配給統制の強化によつて、セメント需要の旺盛に拘らず、操業は更に短縮され、生産減少の止むなきに至つた。経費の合理化、コストの低下に努力するも、所詮業績の低下は免れず、左掲表示の昨年同期は八分配當据置と雖も償却金の計上は廿五萬圓と前期に比し五萬圓を減少した。

【減配懸念】かくては、當然減配の懸念も濃化する。セメント業一本槍で進んでゐる當社のこととて、業界に何らかの打開策が施されぬ限り、相當困難な場面にも遭ふことを覚悟せねばならぬ。尤も、セメント需要は旺盛を續けてゐるから、極度の悲観は無用だ。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株数】新 100,000 舊 100,000
【重役】社長 渡邊 剛二 取締役 藤本 宗七 常務 高良 宗七 監査 岡田 豊一	【株主資本】1,000,000
【大株主】山川 庸之助 名和田 哲郎	【外部負債】1,000,000
【事業成績】十四年下期 利益 812,000	【使用総資産】1,000,000
【出荷高】(洋灰) 157,000 (混合) 57,000	【流動資産】1,000,000
【名義書換】十五錢 新券交付 三十錢	【株價】(洋灰) 高値 67.00 安値 63.00

豊國セメント

【設立】大正七年十二月
【決算期】四月、十月

(本社) 東京市麹町区丸の内海上ビル(電九之内一三五)

【利益向上期待】昨年同期は意外の好成績だつた。市價昂騰の爲、洋灰益は五十五萬圓を突破した。併し今期の出荷減退は避け得られない。十一、十二兩月の出荷はそれぞれ二万五千吨、二万二千吨で、十月の二万七千吨に比し相當の減少を示して居る。が、今期十二万噸の出荷、四十五萬圓の利益は挙げ得よう。

【余剰電力】五千キロの自家發電工事は完成、既に使用中だ。三千キロの余剰を見込んで居るが、現在は流して居る。勿論洋灰の生産減から余剰も減少する。今の所賣電するか否か未定だ。此の電力使用に就いて新規計畫もある様だ。何れにせよ増配期待は乏しい。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株数】新 100,000 舊 100,000
【重役】社長 村瀬 木一 常務 岩崎 清 取締役 木下 剛 坂本 信義 監査 大島 小太郎 山田 肇	【株主資本】1,000,000
【大株主】村瀬 木一 坂本 信義 山田 肇	【外部負債】1,000,000
【事業成績】十四年下期 利益 1,016,000	【使用総資産】1,000,000
【出荷高】(洋灰) 157,000 (混合) 57,000	【流動資産】1,000,000
【名義書換】十五錢 新券交付 三十錢	【株價】(洋灰) 高値 112.50 安値 105.00

【セメント事業】

七尾セメント

【設立】大正十五年十一月
【決算期】五月、十一月
（本社）東京市豊町區丸の内九ビル（電九之内三三三）
（支社）石川縣金澤市白銀町一四

【下期一分増配】前期のセメント出荷高は約十萬噸で、三十二萬圓の利益だ。是に配當收入七萬圓を加えて、總利益三十九萬二千圓余を擧げた。利益率一割八分余で、一分増の七分配當を行つた。
【拂込徴収近し】ニッケル製錬は成功した。現在製錬されたものは××應で、内二割は滓だ。精製する爲に回轉窯の第二基目を改造す可く、商工省に申請して許可を得た。第一基窯の改造費七十萬圓返濟も必要だから最終拂込七十五萬圓を運くとも來期中に徴収しよう。上期セメント出荷は季節的關係から悪いが、製錬益を加へて利益五十萬圓は動くまゝ。

【資本金】公稱 5,000 拂込 4,100	【株数】新 100,000
【重役】社長 岩崎 清七 取締役 中村 哲男 取締役 山田 元一 監査 岡野利兵衛 取締役 山田 義彰 石黒 傳七 大株主 十四年十一月期 生明市太郎 七〇名	【資産負債】
【大株主】十四年十一月期 生明市太郎 七〇名	株主資本 5,000
【工場所在地】七尾	外部負債 1,000
【事業成績】十四年上 六六,〇〇〇 十四年下 六六,〇〇〇	流動資産 1,000
【名義書換】十錢 【新券交付】三十錢	固定資産 1,000

東洋セメント工業

【設立】昭和九年五月
【決算期】六月、十二月
（本社）大阪市北區堂島濱通一ノ一五（電北三三三）
（事務所）東京市豊町區丸の内三三二一（電九之内三三三）

【天津工場の運轉】十二月末締切の昨年下期は一割配當据置であつた。前期とあまり變化ない成績を擧げ得たのである。即ち、昨年六月より操業開始の段取となつた天津スレート工場が幾分でも寄與したのである。特殊セメント、スレート等の副業の比重は本業に比して小さく、大きな期待は持てぬが、本業の不振を幾分でもカバーし得る處に若干の妙味はあるのだ。
【前途観】昨年十一月以降セメント減産は必至となつた。業績低下は避け難い。しかし、石炭不足等の困難はあつても、セメント需要は増大してをり、尙當面現行一割配當は續けよう。

【資本金】公稱 5,000 拂込 2,500	【株数】新 100,000
【重役】社長 阿部美樹志 取締役 山口謙四郎 取締役 川上 高朝 監査 井上 上田 剛 大株主 十四年十一月期 阿部美樹志 五〇名	【資産負債】
【大株主】十四年十一月期 阿部美樹志 五〇名	株主資本 5,000
【工場所在地】天津	外部負債 1,000
【事業成績】十四年上 二〇〇,〇〇〇 十四年下 二〇〇,〇〇〇	流動資産 1,000
【名義書換】十錢 【新券交付】五十錢	固定資産 1,000

東洋産業

【設立】明治三十一年四月
【決算期】五月、十一月
（本社）名古屋市中區廣小路通り二朝日ビル（電本局四三一）
（事務所）東京市豊町區丸の内三丁目（電九之内三三三）

【東洋産業と改稱】東洋炭灰、南海炭礦、南海汽船等を對等吸收合併して公稱一千二百二十萬圓の會社とすべく認可申請中だが本輯發行の頃には正式認可とならう。吸收後直ちに東洋産業と改稱の筈。
【今期配當は九分】現行配當は三河が九分、東海八分、炭礦七分汽船一割で基準配當は九分強だ。九分五厘配當をやるより今期九分として次期一分増の一割配當が順當なところだらう。
【合併後増益】合併前の各社成績から想像して利益は約二百六十萬圓利益率三割餘となる。石原と提携の事業や南海炭礦増産計畫が進行するに伴つて増益するであらう。

【資本金】公稱 2,000 拂込 1,100	【株数】新 100,000
【重役】社長 山内 卓郎 取締役 荒川長太郎 取締役 山田 近 監査 小嶋和四郎 大株主 十四年十一月期 山内卓郎 三〇名	【資産負債】
【大株主】十四年十一月期 山内卓郎 三〇名	株主資本 2,000
【工場所在地】七尾	外部負債 1,000
【事業成績】十四年上 六六,〇〇〇 十四年下 六六,〇〇〇	流動資産 1,000
【名義書換】十錢 【新券交付】三十錢	固定資産 1,000

滿洲セメント

【設立】昭和九年二月
【決算期】十一月（年回）
（本社）滿洲遼陽市大通り三〇

【二分増配】滿洲業界の活況は依然著しい。此の波に乗つて當社は前期には九萬八千噸を出荷し、總利益四十六萬三千圓を擧げ、利益率一割八分余に達した。予想の如く二分増の八分配當を行つた。
【第二回拂込徴収近し】年産十八萬噸増設工事の完成は四月末頃と見られる。其の工事費四百五十萬圓を賄ふ爲、昨年四倍増資を行ひ第一回拂込八十七萬五千圓を徴収したが、不足分補充の爲更に五月頃第二回拂込徴収を行ふであらう。今年度出荷は二十萬噸を期せられるから、總利益百萬圓は動くまい。利益率二割四分を越え、八分配當は勿論安泰だが、二分の再増配も可能だ。

【資本金】公稱 1,000 拂込 500	【株数】新 100,000
【重役】社長 岩崎 清七 取締役 林部兵次郎 取締役 水橋 一三郎 監査 石黒 傳七 大株主 十四年十一月期 岩崎清七 五〇名	【資産負債】
【大株主】十四年十一月期 岩崎清七 五〇名	株主資本 1,000
【工場所在地】天津	外部負債 1,000
【事業成績】十四年上 二〇〇,〇〇〇 十四年下 二〇〇,〇〇〇	流動資産 1,000
【名義書換】十錢 【新券交付】三十錢	固定資産 1,000

【硝子事業】

旭硝子株式會社

(本社) 東京市麹町區丸の内八重洲ビル内(電九ノ内 三三一九)
(支店) 東京市京橋區京橋二丁目明治屋ビル内(電京橋三〇一三)

【操業】硝子部は、普通板の高率操短でその生産は減つてゐるが、型、鍋、網、磨等の特殊板が却つて賣れる状態にある。普通板として静岡大火後の供給、輸出等に特別生産が認められてゐる。耐火煉瓦は昭和化学工業合併(昨年八月)による新工場の操業、尼崎及牧山工場のコルハート増設等の寄與がある。ヒシライト及ガラス纖維も好調で曹達のみ原料關係で上伸を抑へられてゐる。而も曹達灰及苛性曹達共販會社設立で儲けは薄くなる筋合にある。

【成績】然し、全体的には石炭難、電力制限の影響等を可成り克服して營業成績はよろしい。今上期の賣上高は前期と殆ど變らない見込である。計上利益率亦二期七分内外と押へてよく、一割五分配當を踏襲するであらう。當社の如き綜合硝子事業を行ふ所にあつては相當な困難な環境と雖も略支障なく乗切れるのが強味だ。

【増資と化成株】當社並びに日本化成工業の増資、従つて當社が引受ける化成株の公開問題は、本稿締切迄にまだ具体的に判らぬ。然し化成の倍額増資は近々實現する。當局の認可を得たからである。當社は化成株を現在、その半數三十万株を保有するが、引受新株の三分の一程を緣故關係、當社株主、一般に公開しようといふのだ。當社自身の増資は多少遅れるにしても今後の成行きに注目される。

【設立】 明治四十年九月
【決算期】 四月、十月
【事業】 硝子、耐火煉瓦、曹達類、
【資本】 資本金 10,000,000
【株主】 大野政吉 取締役 山田直一
林雅之助 岩井秀男
河手拾三郎 加藤武男
池田龜三郎
【株主数】 十一年上 十一年下
總數(名) 二六三 二六三
【大株主】 岩崎小彌太 二七三三三 東京海上 二二、三〇〇
三菱信託 八、六〇〇 明治生命 六、四〇〇
第一生命 三、四〇〇 岩崎子 一、六〇〇
林 源子 一、六〇〇 野村増子 八、七五〇
【年産能力】 普通板硝子 一、〇〇〇千箱
乾板用板硝子 一、〇〇〇千箱
型、網、網入、磨板硝子 一、〇〇〇千箱
安全硝子 一、〇〇〇千箱
ソダ灰 一、〇〇〇千箱
苛性曹達 一、〇〇〇千箱
重炭酸曹達其他 一、〇〇〇千箱
耐火煉瓦 一、〇〇〇千箱
コルハート電鍍耐火煉瓦 一、〇〇〇千箱
工場 硝子工場 尼崎、牧山、鶴見
煉瓦工場 尼崎、曹達工場 日本
化成工業 三愛化學工業、大日本塗料、滿洲青島、滿洲製藥、耀華硝子、東海工業
【資本異動】 十四年八月 昭和化学工業合併 一、二五萬圓増資

【資産負債】 十三年 十四年 十四年
株主資本 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
積立金 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
外部負債 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支拂手形 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
固定資産 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動資産 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支勘定】 十三年上 十三年下 十四年上 十四年下
收入 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
利益 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【流動比率】 十三年上 十三年下 十四年上 十四年下
流動比率 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
【名義書換】 五 十 十五 二十 二十五 三十 三十五 四十 四十五 五十 五十五 六十 六十五 七十 七十五 八十 八十五 九十 九十五 一百

日本板硝子株式會社

(本社) 大阪府東區北濱五丁目住友ビル内(電北區一三三)
(出張所) 東京市麹町區丸の内丸ビル内(電九ノ内 三三一九)

【電力石炭問題】硝子工業に於ける原料、燃料問題は最近漸く深刻となつて來た。主要原料の中で一番不足してゐるのは曹達灰だ。次に石炭であるが、之は曹達灰以上に足りない。十三年十月から切符制で配給を行つてゐるが、昨年十月更に制限を強化された。この爲め當社の操業率は大体常時の四割見當に低下してゐる。先行きこれ以上に操業率を高める可能性があるかと云ふと、それは全く望み難い希望である。

【前期と今期】昨年下期の成績をみると利益金四十五万三千圓で對拂込資本利益率は一割六分五厘を示した。これで一割配當だから利益處分は餘り餘裕があるとは云はれない。今期は前述の如き状況だから利益減は免れない所と覺悟すべきだらう。とすれば従來の含みを計上して辛うじて一割配當を行ふことにならう。

【前途】石炭と原料不足は果して近き將來に緩和される見込みがあるかと云ふに甚だ疑問である。とすれば生産高はこの先減ればとて殖えることがないから、成績は更に低下を免れないだらう。殊に當社は輸出を殆んど行つてゐないから、輸出の好調を全然受け入れることが出来ない。これは當社の弱點である。然し内容は頗る充實してゐるから當分一割配當は維持するだらう。

【硝子事業】

【設立】 大正七年十一月
【決算期】 五月、十一月
【事業】 各種硝子製造販賣
【資本】 資本金 10,000,000
【株主】 住友本社 三、三三三 住友ビル内(電北區一三三)
旭硝子 三、三三三 住友ビル内(電北區一三三)
住友銀行 八、六〇〇 大日本塗料 八、六〇〇
米井合名 三、三三三 太陽商事 三、三三三
高崎製作 一、六六六 加藤正治 一、六六六
【事業規模】 製造設備(十一年集計)
溶解槽 11,000基
コルハート式板硝子製造機 10基
生産能力(年産) 一、〇〇〇千箱
耐火煉瓦(月産) 一、〇〇〇千箱
工場所在地 九州若松市二島
三重縣四日市市千歳町
廣島縣加茂郡三津町
【事業成績】 十一年上 十一年下 十二年上 十二年下
製造高(千箱) 三、三三三 三、三三三 三、三三三 三、三三三
賣上(千圓) 三、三三三 三、三三三 三、三三三 三、三三三
【資本異動】 九年十月六百萬圓増資、第一回拂込二二圓五枚收

【資産負債】 十三年 十四年 十四年
株主資本 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
積立金 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
外部負債 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支拂手形 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
固定資産 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動資産 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支勘定】 十三年上 十三年下 十四年上 十四年下
收入 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
利益 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【流動比率】 十三年上 十三年下 十四年上 十四年下
流動比率 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
【名義書換】 十 二十 三十 四十 五十 六十 七十 八十 九十 一百

【紡績事業】

東洋紡績株式会社

(本社) 大阪市北區堂島濱通二ノ八(電北 一〇〇一七)
(出張所) 東京市日本橋區小網町一ノ三(電茅場 二五・九五)

【裕豊紡三分増配】上海に本據を構へる子會社裕豊紡は、昨年同期に一分二分から一分五分へ三分増配を行つた。もう三分増配して當社に合併することも考へられぬではないが、目下のところ現實化しなうもない。一昨年同期から引續き三期間連続増配して八分から一分五分へ殆んど二倍の配當率となつた底力は實に偉大なるものだ。

【前期決算】前期決算では利益金一千三百六十一萬五千圓(對上期四萬二千圓増)を計上、その利益率三割七分四厘を示し、六百萬圓を固定資産償却に振り向けて一割八分を悠々据置いた。下欄に見られる如き重役陣の變更も行はれ、社業の膨張に對處したのだ。

【東洋産業の問題】當社の子會社、傍系會社も漸次その數を増して主だつたもののみでも内外地を通じて二十社を超える状態だ。併し兼々問題視されてゐる「東洋産業」の設立迄には未だ至らぬ様である。當社が滿洲に進出した當時、滿洲を中心に織維工業の綜合經營を行ふ目的で「東洋産業」を設立する計畫であつたが、滿洲國の統制が織維工業乃至は他産業共バラバラに行はれはじめたので當社としても東洋タイヤとか東洋人織とか言ふ風に個別的に會社を設立せねばならなくなつたのだ。行く行くは一社に統合されるのだらうが、當面それが行へるかどうか疑問と見られる。

鐘淵紡績株式会社

(本社) 東京市向島區田町二ノ一六二(電隅田 三三・一三)
(營業所) 神戸市林田區御崎町二丁目(電兵庫 一三)

【上海稱復配一割五分】十三年上期一割から一舉無配とした上海製造絹絲は、昨年同期一割五分の復配を行つた。利益金六百二十八萬一千圓、その利益率八割三分七厘に達し一割五分の復配には問題なかつたのだ。天津の水害もさう大した打撃とはならず、原棉不足、操業率低下でコストは増嵩したが製品相場は暴落したので利益は充分見込めた。上海絹の利益は大部分社内に留保して再飛躍に備へてゐるが、當社としても非常に心強いものがある。

【製糸益五百萬圓突破】昨年同期の利益金は一千四百九十四萬九千圓、利益率三割九分九厘で、上期に比し、前者七十萬圓、後者二分二厘の向上となつてゐる。大戦による輸出好轉の恩恵も決算期の關係で比較的多かつたが、製糸益は五百萬圓を裕に突破し、極めて好成绩を収め得た。

【今期の問題】電力制限の影響も部分的には相當ひどかつたが、當社全体としてみれば左程問題はない。當社の如く全国各地及び朝鮮に工場をもつ様な會社はこの方面でも危険を分散し得るのだ。唯染料不足で淀川の加工工場の操業が漸次思はずしくなくなつて行くのが残念である。中山加工工場に比すればまだよいとしても加工綿布の輸出増が見越された矢先だけに染料不足は痛い。

【紡績事業】

【設立】	大正三年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	各種の織維工業及化學工業品の製造販賣
【資本金】	七、七〇〇,〇〇〇
【株数】	七、七〇〇,〇〇〇
【重役】	會長 伊藤傳七 社長 庄司乙吉 副社長 種田健藏 關桂三 取締役 谷口豊三郎 中山秀一 土屋喜太郎 作川謙太郎 澤重保 川口正雄 監査 阿部彦太郎 齊藤恒一 山邊清亮 神野金之助 九鬼教七
【株主数】	十三年下 一五、四七五 十三年上 一五、四七五
【大株主】	三井物産 九、〇〇〇,〇〇〇 日本生命 八、六九五 伊藤 傳七 七、七〇〇 帝國生命 一、〇〇〇 雙島 半七三 瀨尾喜兵衛 三、三三〇
【事業規模】	人絹日産能力 六、〇〇〇 綿紡機(總) 一、〇〇〇 人絹日産能力 一、七〇〇 機織機(總) 一、〇〇〇 三梭毛機(總) 一、〇〇〇 人絹日産能力 一、〇〇〇
【生産高】	十三年上 十三年下 十三年上 十三年下
【平均番手】	一、七〇〇 一、七〇〇 一、七〇〇 一、七〇〇
【綿紡機】	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【機織機】	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【三梭毛機】	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【人絹(千疋)】	八、五七五 八、五七五 八、五七五 八、五七五
【投資會社】	裕豊紡績、東洋染色、大阪毛織
【資本異動】	十一年九月和泉紡績合併、十一年四月五圓十月一五圓徴収

【設立】	明治十九年十一月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	綿紡、絹紡、毛紡、生絲、更生絹絲、人絹、製織、加工、其他
【資本金】	公稱 一〇〇,〇〇〇,〇〇〇 拂込 一〇〇,〇〇〇,〇〇〇
【株数】	一〇〇,〇〇〇,〇〇〇
【重役】	社長 津田信吾 常務 坂口幸吉 三宅輝太 取締役 名取和作、中村庸、丸山幸藏、平賀恒次郎、井上潔 買集和 三郎 監査 野崎廣太、中上川三郎治、松本泰治
【株主数】	十三年上 十三年下
【大株主】	第一相 五、〇〇〇,〇〇〇 康徳興業 五、〇〇〇 東一 代 行 代 五、〇〇〇 三井合名 五、〇〇〇 大株代 行 代 五、〇〇〇 後富信太郎 五、〇〇〇
【事業規模】	十三年十二月期 現在
【綿紡機】	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【機織機】	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【三梭毛機】	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【人絹(千疋)】	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【投資會社】	上海製絲、南來拓殖、昭和産業
【資本異動】	十二年一月及九月各三圓五拂込徴収、十三年十一月倍額増資一回、二圓五徴収

【紡績事業】

【紡績事業】

大日本紡績株式會社

(本社) 兵庫縣尼崎市長本町一ノ五〇
(營業所) 大阪市東區安土町二ノ三〇(電本町四〇一五)

【定款變更】 昨下期の利益金は一千百七十八萬五千圓、利益率三割三分四厘で、上期に比し利益金で八十四萬三千圓、利益率で一分九厘の向上となつた。重役陣に多少の變化を見たのと同時に定款が變更され、「炭礦を所有經營する」ことが營業目的の一つに加へられた。目的變更も簡單には出來ず、當面なし得るものに限られるのであるが、當社の意圖するところは石炭を中心とする化學工業への進出であつた。既に朝鮮清津工場の附近にカーバイド工場を建設すべく出願中だ。又南大垣工場に硫化曹達の小工場を建設中である。之等の事業に所要の資金は大した額ではない。

【今期も順調】 電力制限で内地工場は或る程度の打撃は受けたものの大したことはない。朝鮮、支那の工場で結構カーバイド出來さうだ。清津工場は目下のところバルブ其他の關係で日産六匁程度の操業しか行つてゐない。日産六匁として一ヶ月の出來高は約四千圓で函當三十圓の利益とすると、半期七十萬圓一寸の利益にしかならない。が、早晚もつと出せる様になるから心配ない。京城工場も加工設備は完成し、更に織機一千余臺の設備を建設すべく申請中である。【拂込】 拂込徴収も目下混頓たる状態だが、朝鮮で行ふ事業が進展すれば其の時期は促進されよう。

【設立】	明治二十二年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	棉、毛、絹、人絹其他纖維類の紡績、製造、加工販賣、
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株主数】	新 2,351 舊 1,000
【重役】	會長 菊池三三 社長 小寺源吾 常務 田代重三 大島茂 三村和義 黒田高三郎 松田元 取締 本利 田忠雄 監査 伊藤萬助 岩田宗太郎 辰馬悦藏 竹村清太郎 寺田甚吉
【株主数】	十三年下 十三年上 十三年下 十三年上
【大株主】	帝國生命 300,000 廣海 120,000 田代重三 100,000 大日紡績會社 100,000 岸和田紡績 100,000 菊池 100,000
【事業規模】	精紡機 1,000 織機 1,000 蒸氣機 1,000
【事業成績】	十三年下 十三年上 十三年下 十三年上
【平均番手】	100,000 100,000 100,000 100,000
【綿布生産】	100,000 100,000 100,000 100,000
【軸絲生産】	100,000 100,000 100,000 100,000
【絹布生産】	100,000 100,000 100,000 100,000
【加工綿布】	100,000 100,000 100,000 100,000
【レヨナー】	100,000 100,000 100,000 100,000
【毛糸】	100,000 100,000 100,000 100,000
【資本異動】	十三年七月至十三年九月 資本一回拂込一圓五五枚收十三年九月 岸和田人絹合併

【資産負債】	十三年 十三年 十三年
株主資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000
積立金	100,000 100,000 100,000
外部負債	100,000 100,000 100,000
支拂手形	100,000 100,000 100,000
使用總資本	1,200,000 1,200,000 1,200,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	200,000 200,000 200,000
現金預金	100,000 100,000 100,000
【收支勘定】	十三年下 十三年上 十三年下 十三年上
収入	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
支出	800,000 800,000 800,000 800,000
利益	200,000 200,000 200,000 200,000
【償還比率】	十三年下 十三年上 十三年下 十三年上
流動比率	100% 100% 100% 100%
固定比率	100% 100% 100% 100%
【業績】	十三年上 十三年下 十三年上 十三年下
平均株主	100,000 100,000 100,000 100,000
【株主】	十三年上 十三年下 十三年上 十三年下
平均株主	100,000 100,000 100,000 100,000
【名義書換】	十錢 新券交付 五十錢

【紡績事業】

吳羽紡績株式會社

(本社) 大阪市東區安土町二ノ五二(電本町 六八一二)

【三社合併後の決算】 昨下期決算は、愛知織物、大町紡績、昭和人絹の三社合併後の最初の決算であつた。計上利益金は四百七十七萬圓、利益率は二割四分八厘で上期に比し利益率は約七分の低下となつてゐる。被合併會社の中には當社に比し収益力の劣るものがふくまれてゐたから、利益率の低下は止むを得ない。それに合併當初は何かにつけて仕事に圓滑を缺き勝ちであるし、直接經營に當る場合に、改造を要する點も多く出て來た。あれやこれやで思ふやうに仕事が出来なかつた。ところが今期はさうした問題は大体片附いてゐるのだから、相當の成績を収め得るだらう。

【据置確實】 綿紡關係では電力制限の影響を相當受けた。愛知織物關係の工場は制限の最もひどかつた部分で當社本來の工場と雖も減産を免れなかつた。輸出専門工場として吳羽、大門、井波、福井、入善、幸田、千種、大町の諸工場を申告したが、思ふやうな生産は中々期待出來ない。唯採算はわるくないから或程度の増益はなし得よう。人絹部内も輸出採算は可成りよくなつてゐる。藥品部門も減産せざるを得ないが、収益状態は悲觀することはない。従つて今期業績は今のところ少なくとも前期以下となる様なことは恐らくなく一割二分据置は大丈夫と云つてよい。

【設立】	昭和四年七月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	綿紡績、綿織布、加工
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株主数】	十三年下 十三年上 十三年下 十三年上
【大株主】	伊藤忠商事 1,000,000 住友生命 700,000 小島 700,000 豊島 700,000 高橋 700,000 伊藤忠商事 700,000 伊藤忠商事 700,000 伊藤忠商事 700,000 伊藤忠商事 700,000
【重役】	社長 伊藤忠兵衛 取締役 高橋 保 専務 井上 富三 伊藤竹之助 取締 泉 彌市 吉見辰吉 豊島 彌三郎 早瀬太郎 山田 昌作 早瀬太郎 松岡 潤吉 田中榮八郎 小島 逸平 平生野三郎 伊藤忠兵衛 藤野三三
【事業規模】	十三年下 十三年上 十三年下 十三年上
【事業成績】	十三年下 十三年上 十三年下 十三年上
【平均番手】	100,000 100,000 100,000 100,000
【綿布生産】	100,000 100,000 100,000 100,000
【軸絲生産】	100,000 100,000 100,000 100,000
【加工綿布】	100,000 100,000 100,000 100,000
【資本異動】	十四年十月昭和和人絹、愛知織物、大町紡績を合併、八五萬圓増資

【資産負債】	十三年 十三年 十三年
株主資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000
積立金	100,000 100,000 100,000
外部負債	100,000 100,000 100,000
支拂手形	100,000 100,000 100,000
使用總資本	1,200,000 1,200,000 1,200,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	200,000 200,000 200,000
現金預金	100,000 100,000 100,000
【收支勘定】	十三年下 十三年上 十三年下 十三年上
収入	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
支出	800,000 800,000 800,000 800,000
利益	200,000 200,000 200,000 200,000
【償還比率】	十三年下 十三年上 十三年下 十三年上
流動比率	100% 100% 100% 100%
固定比率	100% 100% 100% 100%
【業績】	十三年上 十三年下 十三年上 十三年下
平均株主	100,000 100,000 100,000 100,000
【株主】	十三年上 十三年下 十三年上 十三年下
平均株主	100,000 100,000 100,000 100,000
【名義書換】	十錢 新券交付 五十錢

【紡績事業】

富士瓦斯紡績株式會社

(本社) 東京市日本橋區本町二ノ一(電日本橋三三三—九)

【前期成績】十一月期決算では歐州大戦の影響による輸出好轉の利益を享受したのは期末、一、二箇月に過ぎず、それ以前の輸出がひどい赤字だったため、製品売上高は前期より僅かに減少した。併し復興した青島工場が前期より七十萬圓増の利益をあげたので、それだけ全體の利益率が増加して利益率は二割一分三厘と、七期振りに二割臺に上つた。固定資産償却に五十萬圓増の百五十萬圓を計上して配當は依然八分に据置いた。

【今期】前期フル運轉した青島工場が今期は原棉不足で五割近い操短となるので、持越原料其他で遺憾りして打撃を防いでゐるが、或程度利益減少は免かれまい。内地工場では輸出専門工場を決定して電力、石炭の制限から受ける損害の軽減に努めてゐる。輸出は引續き好調だから、全期間に亘つて恵まれる今期の輸出益は相當の増加を見せる。併し、國內向生産は數量の減少已むを得ないから此の方面は減益とならう。これを差引いても、今期の利益金は前期程度にはなるものと思ふ。唯期初子會社富士纖維を合併して拂込資本金が約四千萬圓に増加してゐるので、資本負担の増大が氣にかゝるが、ス・フ、人組は減産したとはいへ、ここから半期二十萬圓程度の利益は上らうから、利益率は低下しまい。八分配當安泰。

【設立】	明治二十九年三月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	紡績機、絹紡機、加工
【資本金】	公稱1,000,000 拂込1,000,000
【株主数】	新(500) 舊(500) 600
【重役】	會長 日比谷平左衛門 常務 木内直 取締役 安川豊三 戸坂隆吉 澤田退藏 取締役 藤村左衛門 監査 棚橋琢之助 川崎榮助 津田五郎 友田久雄 三宅川保一 阿河孝平 登山武市郎
【株主数】	正年下 14,000 總數名 21,500 14,000
【大株主】	明治生命 1,000,000 日比谷平左衛門 1,000,000 森村同族 300,000 川崎 榮助 1,000,000 岩崎 久彌 1,000,000 藤村左衛門 1,000,000 和田 文吾 1,000,000 千代田生命 1,000,000
【事業規模】	正年下 14,000 14,000 絹紡機(機) 1,000,000 3,000,000 絹紡機(機) 1,000,000 3,000,000 熱機(機) 1,000,000 3,000,000 織機(機) 1,000,000 3,000,000 【生産高】 正年下 14,000 14,000 平均番手 30,000 30,000 絹布(千疋) 1,000,000 1,000,000 絹紡機(千機) 1,000,000 1,000,000 絹紡機(千機) 1,000,000 1,000,000 【投資會社】 富士電、滿洲紡 【資本異動】 十四年十二月富士纖維合併

【資産負債】	十三年 十四年
株主資本	2,000,000 2,000,000
積立金	1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000
社債	1,000,000 1,000,000
支拂手形	1,000,000 1,000,000
使用總資本	7,000,000 7,000,000
固定資産	3,000,000 3,000,000
流動資産	4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000
【收支勘定】	正年下 14,000 14,000 支入 1,000,000 1,000,000 支出 1,000,000 1,000,000 【流動比率】 正年下 14,000 14,000 流動比率 100% 100% 【固定比率】 正年下 14,000 14,000 固定比率 100% 100% 【名義書換】 十 十 十 十

【紡績事業】

日清紡績株式會社

(本社) 東京市東區龜井町二ノ七八(電東田二二一九)
(事務所) 東京市日本橋區浪花町二〇(電浪花二二五一)

【前期決算】前半三箇月に相當量の輸出を行ひ、歐州大戦勃發による大巾値上りに際し、滞貨少量のため恩恵を享受するには至らなかつた。従つて製品売上高は前期より二百萬圓以上減少したが、復興した青島工場が一〇〇%運轉を開始したので、青島だけで三百八十萬圓の利益を計上することが出来た。綿糸布價格が暴騰した爲に、内外地を合はせた全利益は八百二十三萬九千圓で、利益率は五割七分九厘と言ふ珍しい好成绩をあげた。この内、五百八十三萬圓を青島工場の手廻り額補填に振向け國內工場の固定資産償却は行はなかつた。

【今期如何】輸出の見透しは製品値上りと共に原棉値上りもあり、國際情勢の前途不安で、手放しの樂觀は禁物だが、昨年程度の成績は容易に擧げ得る。値上り前の安い原棉手持もある。電力、石炭の供給制限は手痛い打撃だが、電力制限は漸次緩和されつつあるし、輸出品製造に努力すれば幾分救はれる。唯、前期大活躍の青島工場が北支線不作のため操短に陥り、上海方面から印棉を入れて補つてゐるが、六割程度の操業とならう。それにしても前々期程度の利益は樂々とあげ得るから、今後の成行き如何に拘らず一割二分配當は勿論安泰である。

【設立】	明治四十年二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	綿紡績及絹紡機
【資本金】	公稱1,000,000 拂込1,000,000
【株主数】	正年下 14,000 14,000
【大株主】	宮島清次郎 取締役 朝比奈見十 宮島清次郎 取締役 朝比奈見十 宮島清次郎 取締役 朝比奈見十 宮島清次郎 取締役 朝比奈見十 宮島清次郎 取締役 朝比奈見十 宮島清次郎 取締役 朝比奈見十 宮島清次郎 取締役 朝比奈見十 宮島清次郎 取締役 朝比奈見十 宮島清次郎 取締役 朝比奈見十 宮島清次郎 取締役 朝比奈見十
【事業規模】	正年下 14,000 14,000 絹紡機(機) 1,000,000 3,000,000 絹紡機(機) 1,000,000 3,000,000 熱機(機) 1,000,000 3,000,000 織機(機) 1,000,000 3,000,000 【生産高】 正年下 14,000 14,000 平均番手 30,000 30,000 絹布(千疋) 1,000,000 1,000,000 絹紡機(千機) 1,000,000 1,000,000 絹紡機(千機) 1,000,000 1,000,000 【投資會社】 東亞製麻、青島電氣、日新 染布、國策ハルフ工業、日本形染其他 【取引銀行】 三菱銀行 【資本異動】 十三年五月二圓拂込徴收去年 五月二圓(最終)拂込徴收

【資産負債】	十三年 十四年
株主資本	2,000,000 2,000,000
積立金	1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000
社債	1,000,000 1,000,000
支拂手形	1,000,000 1,000,000
使用總資本	7,000,000 7,000,000
固定資産	3,000,000 3,000,000
流動資産	4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000
【收支勘定】	正年下 14,000 14,000 支入 1,000,000 1,000,000 支出 1,000,000 1,000,000 【流動比率】 正年下 14,000 14,000 流動比率 100% 100% 【固定比率】 正年下 14,000 14,000 固定比率 100% 100% 【名義書換】 十 十 十 十

【紡績事業】

錦華紡績株式會社

(本社) 金澤市大豆田新町一
(營業所) 大阪市東區瓦町二丁目三和ビル五階 (電北濱 七七七)

【下期増益顯著】前期の業績は、十三年五月期に臨時配當を含めて一割四分の配當をつけた當時に次ぐ好成绩であつた。即ち利益金は三百三十九萬六千圓、その利益率二割九分四厘で昨年同期に比し利益金で五十萬圓、利益率で四分五厘の各向上となつてゐる。前期業績の向上は一つには大戦の勃發當時における綿、人絹關係の利益と米國向ス・フの利益にもよるが決算期の關係で十四年上期の販賣に屬する部分が入り込んだのにも負ふところ大だ。事實期初の如きは月六十萬圓以上の利益が擧がつた月もあつた位だ。兎も角下期の固定資産償却金も百萬圓に増加され、社内保留率も六割三分七厘に向上する等、決算の堅實さも當社本來の傳統に立ちかへり得たのである。

【今期も順調か】當社の申告した輸出専門工場は、金澤、福井第一同第二、浪速、佐賀の五ヶ工場である。このすべてが認可されるかどうかは別として金澤、浪速、佐賀の三ヶ工場は從來の輸出実績も多かつたからその可能性は充分ある。而も一紡績工場制實施によつて、只さへ優良な當社の綿糸は質織工場をしつかり擧げて有利な輸出を行ひ得よう。電力制限の打撃も案外少く今期の一割配當据置も殆ど確定的とみてよい。東亞重工業の建設は稍々延びよう。

【設立】	大正六年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	綿紡績及綿織布
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,312,500
【株主】	新 (一三三) 2,750,000
【重役】	社長 加藤 正人 取締役 川畑 恒二 常務 藤岡 宗吾 監査 高野 清一 取締役 門田 道吉 北川 大蔵 取締役 杉野 道助 西野 大蔵 取締役 中島 理一 大蔵 大蔵
【株主】	十三年上 5,680 十三年下 5,680 十三年上 5,680 十三年下 5,680
【大株主】	野澤 清一 5,680 佐藤 清一 5,680 野澤 清一 5,680 佐藤 清一 5,680
【事業規模】	十三年上 5,680 十三年下 5,680 十三年上 5,680 十三年下 5,680
【精紡績】	十三年上 5,680 十三年下 5,680 十三年上 5,680 十三年下 5,680
【混紡績】	十三年上 5,680 十三年下 5,680 十三年上 5,680 十三年下 5,680
【原綿消費】	十三年上 5,680 十三年下 5,680 十三年上 5,680 十三年下 5,680
【原綿消費】	十三年上 5,680 十三年下 5,680 十三年上 5,680 十三年下 5,680
【投資】	十三年上 5,680 十三年下 5,680 十三年上 5,680 十三年下 5,680
【資本】	十三年上 5,680 十三年下 5,680 十三年上 5,680 十三年下 5,680

【資産負債】	十二期 十四期
株主資本	1,312,500 1,312,500
積立金	1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000
使用資本	1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000
【收支】	十二期 十四期
収入	1,000,000 1,000,000
支出	1,000,000 1,000,000
【名義書換】	十 十

【紡績事業】

倉敷紡績株式會社

(本社) 岡山縣倉敷市元町四九七ノ四 (電倉敷 一〇一三)
(出張所) 大阪市西區江戸堀北通一丁目 (電土佐堀六〇一三)

【十二月期増益】昨年同期の利益金は四百十六萬二千圓、利益率は三割三厘で一割配當据置としたが、上期に比し約四十三萬圓の増益で利益率も三分方向上した。増益の主因は毛糸、毛織物部門の活況と、綿布輸出の好成绩にある。今期は電力制限で相當の生産減をまぬかれぬ。それに折角手に入れた紀陽染工も染料不足で思ふやうに操業出来なだらう。然し輸出に損がゆくやうなことは全くない苦だから心配はなからう。今期の一割配當据置は、勿論問題なく行へるだらう。

【日華紡の問題】日華紡との關係が益々深くなるだらうことは當然予想されてゐたが、遂に當社の林氏が同社の社長に就任、直接經營に當ることゝなつた。當社としては勿論のことだが、日華紡としても喜ぶべきことだ。これで當社の大陸進出の足場は確實に築かれたと見てよ。

【重工業・鑛業】子會社日本重工業(百萬圓拂込済)、日本精機(百萬圓半額拂込済)の兩社の業績も大体順調だ。それに最近當社は北支方面にも手を伸ばし石炭の採掘に着手しようとしてゐる。これ等はいづれも今のところ當社の業績に大きな寄與をなす程のものではない。行く行くは一つの強味となり得べきものにすぎぬ。

【設立】	明治二十一年三月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	綿紡績及綿織布
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,750,000
【株主】	新 (一三三) 2,750,000
【重役】	社長 柳吉 取締役 小林益太郎 常務 林 桂三郎 監査 中村純一郎 取締役 原 澄治 相談 大原孫三郎 取締役 大原 澄治 相談 大原孫三郎 取締役 大原 澄治 相談 大原孫三郎
【株主】	十三年上 5,680 十三年下 5,680 十三年上 5,680 十三年下 5,680
【大株主】	野澤 清一 5,680 佐藤 清一 5,680 野澤 清一 5,680 佐藤 清一 5,680
【事業規模】	十三年上 5,680 十三年下 5,680 十三年上 5,680 十三年下 5,680
【精紡績】	十三年上 5,680 十三年下 5,680 十三年上 5,680 十三年下 5,680
【混紡績】	十三年上 5,680 十三年下 5,680 十三年上 5,680 十三年下 5,680
【原綿消費】	十三年上 5,680 十三年下 5,680 十三年上 5,680 十三年下 5,680
【原綿消費】	十三年上 5,680 十三年下 5,680 十三年上 5,680 十三年下 5,680
【投資】	十三年上 5,680 十三年下 5,680 十三年上 5,680 十三年下 5,680
【資本】	十三年上 5,680 十三年下 5,680 十三年上 5,680 十三年下 5,680

【資産負債】	十二期 十四期
株主資本	1,312,500 1,312,500
積立金	1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000
使用資本	1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000
【收支】	十二期 十四期
収入	1,000,000 1,000,000
支出	1,000,000 1,000,000
【名義書換】	十 十

〔紡績事業〕

内外綿株式會社

(本社) 大阪市北區堂島中二ノ二五(電北 100-103)
(支社) 支那上海支路

【利益率八割七分】昨下期の利益金は一千七十一萬四千圓、その利益率は實に八割七分に達する高率なものであつた。上期の利益金九百九十六萬一千圓、利益率八割一分三厘に比して更に増益した譯であるが、下期は税金引當金三百七十萬圓控除前のものであり、上期と同列において比較するのは當を得たものではない。然しかりにそれを差引いた利益金七百一萬圓で見ても利益率は五割七分三厘で、一割二分配當は問題なく据置けたのだ。そして青島工場の損害は既に完全に消却され、内容の堅實性も一段と加はつて來た。全く當社は余りにもガツチリしすぎてゐるとさへ言へる。

【定款變更】昨年八月二十五日の臨時株主總會で會社目的の變更(追加)を行ひ、『鐵工業並に諸機械の製作販賣』をも行ふこととした。具体的には上海の大隆鐵廠を買収したのである。同社はもと紡績機械の製造販賣を行つてゐたものだが、當社は之を買収して紡績機械同部分品の製造を行ふと同時に工作機械の製造にも進出することになつた。事の成否は未だ判らぬにしても在華紡の進路に新生面を示すものとして興味は深い。

【今期】上海、青島、金州共に業績自体は悪くなく、今期の配當据置きも確實だ。今後は政治問題の推移に左右される所益々多い様だ。

【設立】	明治二十年九月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	綿紡績、綿織布加工
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株主数】	新 350 舊 300 350,000 株
【重役】	事務 佐々木國藏 取締役 大谷登 常務 岡田源太郎 石川作太郎 山口幸三郎 勝田俊治 取締役 阿部彦太郎 監査 牛田虎之助 天木繁二郎 中野嘉三郎 大西喜一 荒川太速
【株主数】	去年下 14,911 今年上 15,799 今年下 15,799 今年上 14,911
【大株主】	中野合資、光島川村 1,000,000 阿部彦太郎、川村 兼 3,000,000 大庄商店、天木繁二郎 2,250,000 阿部正彦、大阪商會、兼 2,000,000
【事業規模】	去年下 1,000,000 今年上 1,000,000 今年下 1,000,000 今年上 1,000,000
【事業成績】	去年下 1,000,000 今年上 1,000,000 今年下 1,000,000 今年上 1,000,000
【平均番手】	去年下 1,000 今年上 1,000 今年下 1,000 今年上 1,000
【資本異動】	去年十月 1,000,000 拂込後 1,000,000

〔紡績事業〕

同興紡織株式會社

(本社) 支那上海揚州浦路第一〇八六
(出張所) 大阪市北區宗是町二(電土佐堀 704)

【前期利益率四割四分】昨下期の利益金は三百三十三萬三千圓に達し、利益率も四割四分四厘を示した程の好成績であつた。固定資産の償却にも對上期約十七萬圓増の七十萬七千圓を計上、一割配當は余裕裡に据置とした。

【事業損失補填】當社は事業による損失六百七十七萬圓を事業別途勘定とし、これと見合に別途準備金を六百萬圓積立て、みた。ところが前期更に百萬圓を積立て、事業の損失を完全に補填し得ることを示してゐる。これだけの準備が出来た以上増配も充分可能なのだ、自置して一割据置としたのである。

【増配問題】當社が前期増配を見合せた主因の一つは、見透し難に在つた。今期その點はどうか。今ところ今期の成績は前期に比し多少とも落ちる様だ。一應原棉高の製品安に見舞はれてゐるからである。が、當社の綿糸は三十二手以上の中糸及び細糸が大部分だから採算がわるいと言つても利益は相當ある。それに今期は別途積立を行ふ必要はないから、業績が多少落ちても増配は不可能ではない。従つて見透しは政治狀勢如何にかゝつてゐる。若し新中央政府の樹立に伴ひ、一應の安定に確信がもてれば少なくとも二分程度の増配を行ふことゝならう。

【設立】	大正九年五月
【決算期】	四月、十月
【事業】	綿紡績、綿織布
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株主数】	新 350 舊 300 350,000 株
【重役】	事務 佐々木國藏 取締役 大谷登 常務 岡田源太郎 石川作太郎 山口幸三郎 勝田俊治 取締役 阿部彦太郎 監査 牛田虎之助 天木繁二郎 中野嘉三郎 大西喜一 荒川太速
【株主数】	去年下 14,911 今年上 15,799 今年下 15,799 今年上 14,911
【大株主】	中野合資、光島川村 1,000,000 阿部彦太郎、川村 兼 3,000,000 大庄商店、天木繁二郎 2,250,000 阿部正彦、大阪商會、兼 2,000,000
【事業規模】	去年下 1,000,000 今年上 1,000,000 今年下 1,000,000 今年上 1,000,000
【事業成績】	去年下 1,000,000 今年上 1,000,000 今年下 1,000,000 今年上 1,000,000
【平均番手】	去年下 1,000 今年上 1,000 今年下 1,000 今年上 1,000
【資本異動】	去年十月 1,000,000 拂込後 1,000,000

〔紡績事業〕

朝鮮紡織

〔設立〕大正六年十一月
〔決算期〕五月、十一月

(本社) 朝鮮釜山府凡一町一三三(電釜山四〇五)
(出張所) 東京市麹町區丸の内海上ビル(電丸の内四六六)

【電力豊富】 當社は工場を朝鮮に持つてゐるので、電力飢饉の直接の影響はない。實際は四割二、三分の操短をやつてゐるけれども、これは原棉の供給量から來てゐるのである。

【操棉益】 今シーズンの朝鮮に於ける棉花の作柄は良く、二億二千萬斤の實棉が生産された。此のうち一億二千万斤が市場に出廻る譯だが、價が高く、今年度の操棉益は幾分減少するかも知れぬ。

【營口紡減配】 子合社營口紡はついに昨年同期決算に於て三分減配して一割五分配當となつた。朝鮮紡の受ける配當収入は減る譯だが依然として百八十万圓程度の利益は出て、現配當は安泰だ。

【資本金】公稱	10,000	拂込	7,500
【株数】	100,000		
【重役】			
社長	根木 文平	取締役	内藤 松次
常務	津田 勝五郎	監査	高橋 一
監査	石川 精一		
【大株主】			
大株主	十四年十一月期	株主	八名
中外産業	三〇,〇〇〇	再製棉	一〇,〇〇〇
三菱信託	一〇,〇〇〇	昌榮合資	七,〇〇〇
三友信託	一〇,〇〇〇	上野	七,〇〇〇
事業成積	一〇,〇〇〇	十一年上	七,〇〇〇
綿糸生産	三,〇〇〇	十四年上	七,〇〇〇
綿布生産	三,〇〇〇	十四年上	七,〇〇〇
營業益(千圓)	八二	空元	五五
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢

【資産負債】	十二年	十四年	
株主資本	1,000	1,000	
外部負債	1,000	1,000	
流動資産	1,000	1,000	
流動負債	1,000	1,000	
固定資産	1,000	1,000	
固定負債	1,000	1,000	
使用総資本	1,000	1,000	
使用総負債	1,000	1,000	
【株價】			
十四年上	七・〇〇	七・〇〇	
十四年下	七・〇〇	七・〇〇	
十五年上	七・〇〇	七・〇〇	
十五年下	七・〇〇	七・〇〇	
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢

明正紡織

〔設立〕明治四十五年五月
〔決算期〕五月、十一月

(本社) 大阪市東淀川區三津屋新町(電北五四二)

【明正レイヨン合併】 懸案のレイヨン合併も愈々五月一日を期して實現する。比率は當社親株八に對して同社株(五十圓拂込済)十だ合併によつて當社は拂込四百万圓を増加することになる。當社としてはレイヨンが一割配當になつてから合併したかつたのだが、同社の前途が統制強化から思はしくないのでその時期を早めたのだ。

【一割配當安泰】 電力制限の打撃は僅少ではない。一方内地向の綿織維も月三ヶ月程度のものであればさう心配はない。一方内地向の綿織維も月三百圓程度のものでやらやつてゐて利益も相當あり、輸出は周知の如く赤字が消えたので、拂込は増加しても今期は一割配當安泰だ。

【資本金】公稱	10,000	拂込	7,500
【株数】	100,000		
【重役】			
社長	根木 文平	取締役	内藤 松次
常務	津田 勝五郎	監査	高橋 一
監査	石川 精一		
【大株主】			
大株主	十四年十一月期	株主	八名
大同生命	三〇,〇〇〇	共榮	一〇,〇〇〇
小泉信託	一〇,〇〇〇	文平	七,〇〇〇
事業成積	一〇,〇〇〇	十一年上	七,〇〇〇
綿糸生産	三,〇〇〇	十四年上	七,〇〇〇
綿布生産	三,〇〇〇	十四年上	七,〇〇〇
營業益(千圓)	八二	空元	五五
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢

【資産負債】	十二年	十四年	
株主資本	1,000	1,000	
外部負債	1,000	1,000	
流動資産	1,000	1,000	
流動負債	1,000	1,000	
固定資産	1,000	1,000	
固定負債	1,000	1,000	
使用総資本	1,000	1,000	
使用総負債	1,000	1,000	
【株價】			
十四年上	七・〇〇	七・〇〇	
十四年下	七・〇〇	七・〇〇	
十五年上	七・〇〇	七・〇〇	
十五年下	七・〇〇	七・〇〇	
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢

〔紡績事業〕

天満織物

〔設立〕明治二十年三月
〔決算期〕五月、十一月

(本社) 大阪市旭區毛馬町一〇三ノ一(電堀川五九三)
(營業所) 大阪市北區中之島二丁目二五江商ビル(電北濱五七一)

【メリヤス輸出好調】 電力制限は相當應へたが、當社の工場は分散されてゐるため打撃は比較的輕い様だ。輸出は他社同様良くなつたが、殊に當社の特色として所謂乙號會社へ賣るメリヤス原絲がよい。昨年の實績から見ると當社の原絲は日本のメリヤス輸出中三割四分四厘を占めて各社中第一位だ。原絲で直ちにリンクするのだから回轉も早い。今期も好調持續で悠々一割配當を據置かう。

【滿洲關係】 滿洲天満紡織の建設工事は資材關係で中々捗どらない。目下のところ氣候關係で工事は休止状態だが、恐らく完成するのは來年一杯位はかゝらう。

【資本金】公稱	10,000	拂込	7,500
【株数】	100,000		
【重役】			
社長	野田 吉兵衛	取締役	竹村 清次郎
常務	中出 安治郎	監査	竹内 利治
監査	江崎 義典		
【大株主】			
大株主	十四年十一月期	株主	八名
江崎義典	三〇,〇〇〇	野田	一〇,〇〇〇
竹村	一〇,〇〇〇	野田	一〇,〇〇〇
事業成積	一〇,〇〇〇	十一年上	七,〇〇〇
原棉消費(千圓)	三〇	十四年上	七,〇〇〇
原絲消費(千圓)	三〇	十四年上	七,〇〇〇
綿糸生産(千圓)	三〇	十四年上	七,〇〇〇
綿布生産(千圓)	三〇	十四年上	七,〇〇〇
營業益(千圓)	八二	空元	五五
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢

【資産負債】	十二年	十四年	
株主資本	1,000	1,000	
外部負債	1,000	1,000	
流動資産	1,000	1,000	
流動負債	1,000	1,000	
固定資産	1,000	1,000	
固定負債	1,000	1,000	
使用総資本	1,000	1,000	
使用総負債	1,000	1,000	
【株價】			
十四年上	七・〇〇	七・〇〇	
十四年下	七・〇〇	七・〇〇	
十五年上	七・〇〇	七・〇〇	
十五年下	七・〇〇	七・〇〇	
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢

國光紡績

〔設立〕大正元年十二月
〔決算期〕四月、十月

(本社) 長崎縣長崎市幸町一ノ一(電四三〇一)
(營業所) 大阪市東區横堀二ノ七〇都都ビル(電北濱五七一)

【前期據置】 前期の利益金は百二十四萬圓、その利益率二割二分五厘で一割配當は據置とした。八月の旭紡織合併で拂込資本が急増したのに輸出は振はずで、相當困つてゐた矢先歐洲大戰で著しく見送しは明るくなつた。

【今期も順調】 當社は長崎、今治、仙台(舊旭紡)の三ヶ工場を輸出専門工場として申告した。三ヶ工場共に電力不足の影響が少ないところだから若し認可されれば順調に操業し得る。堺工場は打撃が相當多いが、内地向製品生産ならばさう心配なからう。青島工場の方も棉花手當はバーター制で何とかやつて行ける。今期も無論據置。

【資本金】公稱	10,000	拂込	7,500
【株数】	100,000		
【重役】			
社長	茂久雄	取締役	鹿兒島 弘通
常務	肥後 大助	監査	山口 利三
監査	肥後 大助		
【大株主】			
大株主	十四年十月期	株主	八名
岩田宗次郎	三〇,〇〇〇	肥後	一〇,〇〇〇
岩田宗次郎	一〇,〇〇〇	山田	一〇,〇〇〇
事業成積	一〇,〇〇〇	十一年上	七,〇〇〇
生糸消費(千圓)	三〇	十四年上	七,〇〇〇
生糸生産(千圓)	三〇	十四年上	七,〇〇〇
綿糸消費(千圓)	三〇	十四年上	七,〇〇〇
綿布消費(千圓)	三〇	十四年上	七,〇〇〇
營業益(千圓)	八二	空元	五五
【名義書換】	五錢	【新券交付】	三十錢

【資産負債】	十二年	十四年	
株主資本	1,000	1,000	
外部負債	1,000	1,000	
流動資産	1,000	1,000	
流動負債	1,000	1,000	
固定資産	1,000	1,000	
固定負債	1,000	1,000	
使用総資本	1,000	1,000	
使用総負債	1,000	1,000	
【株價】			
十四年上	七・〇〇	七・〇〇	
十四年下	七・〇〇	七・〇〇	
十五年上	七・〇〇	七・〇〇	
十五年下	七・〇〇	七・〇〇	
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢

足利紡績

【設立】大正八年十二月
【決算期】五月、十一月
(本社) 栃木縣足利郡山邊村八幡(電足利八六・八六)

【一分増配】吳羽紡の傘下に入つてから當社の業績好轉は目覚ましいばかりだ。昨上期の二分増配について下期には一分増の七分増に改めた。利益金は二十五万五千圓、利益率は一分三分六厘で、上期迄の無償却から脱して十萬圓の償却金を計上してゐる。これに當社もやつと他社の仲間入りが出来た譯だ。
【今後の問題】當社の悩みは輸出実績が少くない點にある。実績から見れば恐らく當社工場は輸出専門工場の指定にもれる懼れがある。生産の切り替へも困難であらうし、どう解決するか問題だ。吳羽紡の後盾があるとは言へ今後の経営は楽ではあるまい。

Table with financial data for Asahi Spinning Co., Ltd. including columns for capital (資本金), assets (資産負債), and various financial metrics across different periods.

東華紡績

【設立】大正九年四月
【決算期】三月、九月
(本社) 中華民國上海華德路一六八號(電五二〇九)
(出張所) 大阪市北區堂島北町三六(電北四〇)

【今期】前期は非常に好成績であつたが、續く今期は相當減益せざるを得ない。尤も市況が絶頂に達したのは昨年八月頃のことだから少なくとも今期初の二、三ヶ月は有利な商内をなし得た筈である。其後の成績は落ちて今期二割程度の利益率を示すことは困難ではなからう。一割配當に所要の金額は半期僅かに十二萬圓にすぎないから、今期の据置は可能と考へられる。
【太極】當社の綿糸は二十手が殆ど全部で、最近の如く原棉高の製品安の状態では採算悪化は轉換しようがない。來期以降も原棉關係の心配は先づなからうが、政情不安の影響は敏感に受けよう。

Table with financial data for Toa Spinning Co., Ltd. including columns for capital (資本金), assets (資産負債), and various financial metrics across different periods.

帝國人造絹絲株式會社

(本社) 大阪市北區中之島二ノ五江商ビル内(電北濱三二一)
(支社) 東京市日本橋區室町四ノ五近三ビル内(電日本橋八五)

【電力燃料問題】石炭の缺乏から遂に電力大制限の實施となつた。中國筋の各工場は少からぬ打撃を蒙りつゝある。當社の如きも主力工場は何れも中國筋にあることだからその影響は蓋し相當なものの一應は考へられるが、事實はそう悲觀的でないようだ。と云ふのは周知の如く當社の三原、岩國兩工場共何れも一萬キロ餘りの自家發電設備を有してゐるからだ。石炭手當は日發の如きヘマをやつてゐないから、出力を低下させるようなことはない。寧ろフル發電を行つて餘剰分を外部に供給してゐる有様だ。即ち動力の側よりみる限り操業には殆んど不安はないと斷じてよい。

【今期予想】操業状態は前期に比し格別劣るようなことは今の所考へられない。内地向及びスフの生産高減少は已むをえないが、その代り輸出向の倍産と採算好轉がみられるのだから、彼れ是れ考へれば今期の成績は前期を凌駕することになりそうだ。一割五分配當はまだ揺がぬだろう。
【前途】大陸進出の具体化によつて當社の前途には活氣を生じて來た。新會社の經營には並々ならぬ苦心と忍耐を要するとしても、將來に少なからぬ期待が持たれるのだから、努力は決して徒勞に終るとは思はれない。

人絹人機事業

Table with financial data for Nishiki人造絹絲株式會社, including columns for establishment (設立), calculation (決算期), capital (資本金), assets (資産負債), and various financial metrics across different periods.

【人組人職事業】

倉敷絹織株式會社

（本社）岡山縣倉敷市元町四九七ノ四
（營業所）大阪市東區今橋三愛信ビル（電北濱六〇二一三）

【石炭電力問題】當社の工場では自家發電を行つてゐない所は新設工場の岡山だけだ。従つて電力不足の影響を蒙るとすれば岡山工場の生産高が減退することだ。所が岡山工場は附近にある日發の火力發電所にかなり石炭を貸してをり、その條件として電力の優先配給を受けることになつてゐる。故に假りに影響を受けたとしても大きなものではあるまいと想像される。元々岡山工場はス・フ専門工場だから、操業率が多少低下しても大した問題ではない。

【今期予想】新居濱、倉敷兩工場は何れも自家發電を持つてをり、石炭は充分手當済みであるから、操業率は以前と變りがないようだ。假りに多少落ちた所で、輸出向の採算が素晴しく好轉してゐるからその打撃は略々完全にカバー出来る見込みである。それから瓜哇の織布工場も殆んど本格的操業状態に入つてをり、この方の利益も馬鹿にならない。彼れこれ考へ合はせると今期の一割配當は裕りを持つて據置けると言つてよ。

【前途】岡山工場のバルブ自給設備は愈々本格的の操業期が近付いて來た。之が動き出せば岡山工場は面目を一新するだらう。輸出向採算の好調持續と相まつて成績向上の基因となるに相違ない。當分一割配當は不動と押へて間違はなからう。

【人組人職事業】

東洋レーヨン株式會社

（本社）東京市日本橋區室町三井物産内（電日本橋一五三二）
（事務所）滋賀縣大津市石山北大路町（電大津一五〇一三）
（出張所）大阪市北區中之島三（三井物産内）

【電力石炭問題】當社は自家發電設備を持つてをり、その發電量からみて、操業には殆んど影響なしと云つてよ。設備がフル運轉を行つてゐる時なら問題だが、現在の操業状態は人絹にしろス・フにしろかなり低められてゐる。だから出力が多少低下してもそれが操業に影響するようなことは殆んど考へられない。當社に關する限り石炭、電力問題は先づ心配なしと斷じて間違はあるまい。

【今期予想】輸出向の増産に積極的となつて來たので、當社の輸出向生産高は最近急に増加を示しつゝある。今期も増産に努めてゐるから前期より増せばとて減るようなことは万々あるまい。尤も他方内地向及びス・フは前期より更に減少することを覺悟すべきだ。が輸出向は非常な好採算に恵れてゐるから、全体の利益は前期より殖える見込だ。とすれば一割二分配當は今期も不動とみてよからう。【前途】仔會社の東洋絹織は七分に増配したので、それだけ當社の配當収入が増加した。而して同社は帝國硫黄工業と提携し、二硫化の自給を實現するに至つたので、これが次期の成績に寄與するから或は再増配となるかも知れない。かように未働資本が漸次収益をあげつゝあることは當社の前途に少なからぬ光明を與へるものだ。當分一割二分配當は動くまい。

【設立】	大正十五年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	人造絹織其他各種化學纖維並各種織物製造加工及販賣
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株主】	第一新(三五) 100,000 第二新(三五) 100,000 第三新(三五) 100,000 第四新(三五) 100,000
【役員】	社長 大原總一郎 副社長 高橋雄吉 常務 高橋雄吉 登志 大原 五一 取締役 原 登治 中村純一郎 百井 仲助 相談 大原三郎 總務 百井 仲助 相談 大原三郎
【大株主】	倉敷紡績(五) 500,000 住友本社(三) 300,000 大株代(一) 100,000 中國銀行(一) 100,000 西川銀行(一) 100,000 新居濱工場(一) 100,000 倉敷工場(一) 100,000 岡山工場(一) 100,000 新居濱工場(一) 100,000 倉敷工場(一) 100,000 岡山工場(一) 100,000
【生産高】	去年下 1,000,000 今年上 1,000,000 今年下 1,000,000
【資本異動】	十年十一月中國レーヨンを合併二千萬圓増資

【資産負債】	十二月 五十四年
株主資本	1,000,000
積立金	1,000,000
外部負債	1,000,000
流動負債	1,000,000
流動資産	1,000,000
固定資産	1,000,000
現金預金	1,000,000
流動負債	1,000,000
流動資産	1,000,000
固定資産	1,000,000
現金預金	1,000,000
流動負債	1,000,000
流動資産	1,000,000
固定資産	1,000,000
現金預金	1,000,000

【設立】	大正十五年一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	高級マルチ人絹、人絹
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株主】	第一新(三五) 100,000 第二新(三五) 100,000 第三新(三五) 100,000 第四新(三五) 100,000
【役員】	社長 辛島 淺彦 取締役 佐羽太三郎 常務 井上 治一 取締役 伊藤三郎 取締役 小澤 武 伊藤三郎 石田 禮助 秋庭 義清 田代 茂樹 中村 千鶴 高木 宇吉 中村 千鶴
【大株主】	三井物産(三) 300,000 帝國生命(一) 100,000 日本生命(一) 100,000 千代田生命(一) 100,000
【生産高】	去年下 1,000,000 今年上 1,000,000 今年下 1,000,000
【資本異動】	十年三月一圓五拂込徴収 十二年九月三圓五拂込徴収

【資産負債】	十二月 五十四年
株主資本	1,000,000
積立金	1,000,000
外部負債	1,000,000
流動負債	1,000,000
流動資産	1,000,000
固定資産	1,000,000
現金預金	1,000,000
流動負債	1,000,000
流動資産	1,000,000
固定資産	1,000,000
現金預金	1,000,000
流動負債	1,000,000
流動資産	1,000,000
固定資産	1,000,000
現金預金	1,000,000

〔人絹人機事業〕

日本レイヨン株式会社

(本社)京都市久世郡宇治町(電字治〇二)
(営業所)大阪市東區今橋三丁目五共同信託ビル(電北濱五二一九)

〔石炭電力問題〕當社は自家發電設備を持つてゐるから、電力問題は餘り心配しなくともよからう。但し、昨年合併した日本絹織の工場は自家發電を行つてゐないから、この工場は多少操業率の低下を免れなかつたと思はれる。

〔前期と今期〕前期の成績をみると利益金は二百九十六万三千圓で前々期に比し五万一千圓の増益であつた。利益率は二割五分六厘で配當は一割二分を据置いた。利益率からみる限り一割二分配當は些かやり過ぎのようだが、今期から成績が向上する筋合だから、聽ては除裕を取り戻すことゝ期待される。今期は輸出採算の大好轉によつて輸出部門は相當の増益が期待される。即ち二〇〇普通絲が一函百十圓餘りの相場だから、前期に比し實に三、四十圓の値上りだ。原料其他の値上りで丸々増益とはならぬにしても輸出物は函當り最低三十圓の利益は確實だ。とすればス・フの國內向減産による打撃は充分に補はれるとみてよからう。

〔前途〕絹織部の成績は仲々好調だから、多少の操業低下は先づ問題ではあるまい。仔會社新日本レイヨンは未だ配當の域に達せぬが當社の實力からすれば當分未働資本のまゝであつても、一割二分配當はまだ搖がぬとみてよからう。

【設立】	大正十五年三月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	ウイスコース人絹製造販賣
【資本金】	公稱〇三〇〇〇〇〇〇〇〇
【株數】	新(五〇〇) 250,000
【役員】	社長 菊池 恭三 取締役 高野 萬助 常務 宮野源一郎 岩田宗次郎 取締役 小寺 源吾 今村 奇男 取締役 森田 丁也 田代 重三 取締役 宇野賢一郎 岡部 正義
【株主數】	十三年上 七、七三二 十三年下 六、七七一
【大株主】	大日本紡績(三六、〇〇〇) 菊池 文吾(六、六六六) 仁壽 生命(三三、〇〇〇) 上山勲太郎(二、〇〇〇) 岩田宗次郎(八、九〇〇) 小寺敬一(七、〇〇〇) 岡田徳太郎(六、八〇〇) 共同信託(六、〇〇〇)
【工場並日産能力】	宇治工場 人絹(人絹専用) 岡崎工場 人絹(人絹専用)
【設備能力】	紡績機 五、七〇〇台 繰絲機 九、二〇〇台 紡績機 五、二〇〇台 繰絲機 一〇、八〇〇台
【生産高】	十三年下 十三年上 十四年下 人絹(高) 一、〇七、九六六 三、二七五 人絹(低) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇
【投資會社】	新日本レイヨン、日本美化 國策パルプ工業
【資本異動】	十三年十一月第二回三圓五拂込 十三年九月日本絹織合併(三三萬圓増資)

【資産負債】	十三年 十三年 十四年
株主資本	三、三三三 三、三三三 三、三三三
積立金	三、三三三 三、三三三 三、三三三
外部負債	三、三三三 三、三三三 三、三三三
借入金	三、三三三 三、三三三 三、三三三
使用總資本	三、三三三 三、三三三 三、三三三
固定資産	三、三三三 三、三三三 三、三三三
流動資産	三、三三三 三、三三三 三、三三三
現金預金	三、三三三 三、三三三 三、三三三
【收支勘定】	十三年上 十三年下 十四年上
收入	三、三三三 三、三三三 三、三三三
支出	三、三三三 三、三三三 三、三三三
【流動比率】	十三年上 十三年下 十四年上
流動比率	三、三三三 三、三三三 三、三三三
【負債比率】	十三年上 十三年下 十四年上
負債比率	三、三三三 三、三三三 三、三三三
【名義書換】	十 十 十
【新券交付】	五十 五十 五十

〔人絹人機事業〕

旭ベンベルグ絹絲株式会社

(本社) 大阪市北區宗室町一(電土佐堀 四三三三)

〔石炭電力問題〕當社の工場は九州延岡と滋賀縣の大津とにある。九州は主力工場であり、而も九州は水力に不足してゐない。従つて電力は少しも不自由ではないのだ。石炭も輸出向には充分なる割當てがあるから之とて強き心配は不要だ。唯、大津工場はス・フ専門であるだけに石炭は相當に制限されてゐる。

〔前期と今期〕前期の成績をみると利益金三百一萬五千圓で、利益率は一割六分三厘であつた。之をその前の期に比べると利益金は約六十萬圓を減じ利益率は三分二厘の低下となる。稍々不振であつた譯だ。然し今期は再び成績を盛返すものと期待される。輸出向採算の大好轉があるからだ。人絹の好轉はベンベルグ絹絲をも同様な状態に導いてゐる。當社のベンベルグ絹絲は殆んど輸出に振り向けてゐるから、採算好轉は仲々有利である。ス・フ及び内地向の減産は之によつてカバーされる見込みだ。その他の藥品、肥料類も電力、石炭に心配がないから前期程度の利益をあげることが出来る。とすれば一割配當は漸次余裕を取り戻すことになるだらう。

〔前途〕輸出の好採算は未だ當分續くものと考へられるから、操業に支障を來す心配がなければ前途は安心してよからうと思はれる。配當は當分不變とみてよい。

【設立】	大正十一年五月
【決算期】	四月、十月
【事業】	ウイスコース並ベンベルグ人絹
【資本金】	公稱〇四〇〇〇〇〇〇〇〇
【株數】	新(五〇〇) 250,000
【役員】	社長 長野口達 常務 堀野近取 取締役 飯島貞雄 立川正三、金田 榮太郎 池松信夫 北村忠義 内海保 三 貝ナルド・モリアー クルト・フロ ワイン 監査 堀野次郎 萩生傳 上島五 一 郎 永里高雄 コントラクト・ヘルマン
【株主數】	十三年上 十三年下 十四年下 總數(名) 一、一五六 一、一五六 一、一五六
【大株主】	日本窒素(一七、七三三) 三アルゲメ ーネ・ケムス(一〇、〇〇〇) ヴニエ社(一〇、 〇〇〇) 野口達(三、〇〇〇) ゼ・ビー・ベル ン(一、九〇〇) イー・ゲー・フルメン インダストリー(一、四〇〇)
【工場所在地】	大津工場 滋賀縣大津市 延岡工場 宮崎縣延岡市
【生産能力】	人絹(高) 一、〇七、九六六 人絹(低) 〇、〇〇〇
【生産高】	十三年上 十三年下 十四年上 人絹(高) 一、〇七、九六六 三、二七五 人絹(低) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇
【投資會社】	旭染工、旭絹織
【資本異動】	十年九月一二圓五拂込徴收

【資産負債】	十三年 十四年
株主資本	三、三三三 三、三三三
積立金	三、三三三 三、三三三
外部負債	三、三三三 三、三三三
借入金	三、三三三 三、三三三
使用總資本	三、三三三 三、三三三
固定資産	三、三三三 三、三三三
流動資産	三、三三三 三、三三三
現金預金	三、三三三 三、三三三
【收支勘定】	十三年上 十三年下 十四年上
收入	三、三三三 三、三三三 三、三三三
支出	三、三三三 三、三三三 三、三三三
【流動比率】	十三年上 十三年下 十四年上
流動比率	三、三三三 三、三三三 三、三三三
【負債比率】	十三年上 十三年下 十四年上
負債比率	三、三三三 三、三三三 三、三三三
【名義書換】	十 十 十
【新券交付】	五十 五十 五十

【八州人権事業】

新興人絹株式會社

(本社) 大阪市東區今橋四丁目一三番信託ビル(電報掛 五六一八)

【石炭電力問題】當社の原料工場は中國筋の大竹にあり、紡績工場は中部の岐阜にある。原料工場は自家發電を持つてゐるから、大した心配は要らぬと思はれるが、紡績工場はさうは行かない。中部の平均制限率は二八%になつてゐる。殊にス・フ工業に對しては昨年十月から相當強い石炭消費制限が斷行されてゐるのだから、彼れこれ考へると當社の前途は手放しに樂觀出來ない。

【前期と今期】前期の成績は利益金百八十萬四千圓で對拂込資本利益率は三割六分であつた。配當は一分増の一割に戻つた。利益率からみて先づ妥當な決算と云つてよからう。而して今期はどうかとみれば油断は出來ない。即ち今期は石炭制限の影響を丸々受けねばならぬし、更に紡績工場は電力消費制限の打撃を蒙らざるをえないからである。輸出の増進によつて何んとか打開することも期待されるが、それは凡そ知れたものだ。今期邊りから成績低下に傾く懸念が濃厚である。

【前途】手放しに樂觀は出來ないが、と云つて急速に減配しなければならぬと思はれない。収益力が高いからである。と同時に當社は新分野を開拓して極力配當維持に努めつゝあるからだ。成績は低下傾向を免れぬとしても、配當は當分不變と云つてよからう。

【八州人権事業】

日東紡績株式會社

(本社) 福島縣郡山市盤山町(電報掛 山七七一)
(營業所) 東京市京橋區京橋片倉ビル内(電報掛 三三三)

【今期の生産】昨年十月以降の石炭配給制限に加へて、今年一月から電力の制限がそれに加はることとなつた。然し、當社は日本一の優良ス・フ會社で我國の輸出ス・フ全生産額の二割以上を生産してゐるのだから、他の弱少會社に比べて減産率は少なく、従つてその打撃も輕微である。この他、棉、絹、絹紡の諸部門に於ても輸出は好況であるから前期が殆ど業績低下の底をついたものと思はれる。今期利益金は幾分増加を予想される。操業率は大体四割から五割の間にあるので、此の調子で行けばまづ安心と言つてよい。

【新規事業】問題のロツクツールは福島縣富久山工場の完成と東京工場、伊丹工場の一部によつて今期二十萬圓の利益を擧げ、ガラスヤーンも少量乍ら市場に出る。來期からは前者日産三十萬圓、後者日産一、二萬圓を以て半期七、八十万圓の利益を擧げる予想だ。建設費が社内留保金で賄はれてゐるから、業績に寄與するところは大きい。昨年七月創業の蒙羅興業は差當つて配當金は入らぬが、將來を注目される。同社は第一期決算で既に若干利益金をあげた。

【見透し】纖維工業多難の折柄、目ざましい發展も期待されなが製品は優秀だし、輸出部門も然他を壓してゐるから、不安は些かもなく、一割二分配當には搖ぎはない。

【設立】	昭和八年九月	【設立】	大正十二年四月
【決算期】	五月、十一月	【決算期】	三月、九月
【事業】	ステイプル・ファイバー及フアイバー・ヤーン	【事業】	絹紡糸、綿糸、人造纖維其他
【資本金】	100,000	【資本金】	公稱20,000 拂込13,000
【株主数】	100	【株主数】	100
【重役】	社長 河崎助太郎 取締役 青木留次郎 常務 賀集 益藏 中野省三 取締役 加美 好男 監査 橋本十五郎 藤井松四郎 河崎省三 伊藤竹之助	【重役】	社長 片倉三平 常務 阿部利七郎 白井千尋 内藤國治 下出重喜 取崎 上川勘次郎 田中彌一 島村芳三 可兒弘一 鈴木樹三郎 片倉武雄 林清 夫片倉直人 片倉方平 今井五六 藤堂 佐藤傳吉 廣川志相 片倉兼太郎
【大株主】	日本化工業 30,000 河崎助太郎 6,000 賀集 益藏 5,000 木村 作助 3,000 藤田久左衛門 3,000 藤井松四郎 2,000 藤本 健二 2,000 三協 證券 2,000 青木 悦太郎 2,000 津田 三郎 2,000	【大株主】	片倉製絲 10,000 帝國生命 3,000 恒心會 3,500 十六銀行 2,000 松葉商店 2,000 川島屋商店 8,000 日本生命 2,000 千代田生命 2,000 【事業規模】 2,000,000 2,000,000 【生産高】 十三年下 十三年上 十三年下 ス・フ(對度) 1,000 1,000 1,000 人造纖維(對度) 3,000 3,000 3,000 絹紡糸(對度) 1,000 1,000 1,000 綿糸(對度) 1,000 1,000 1,000 人造纖維(對度) 1,000 1,000 1,000 富士絹(對度) 1,000 1,000 1,000 人造纖維(對度) 1,000 1,000 1,000 【投資會社】 鬼首興業 日東毛絲紡績、 日東興業 日東サービス 【資本興動】 十三年九月名古屋紡を合併十 月第二回二圓拂込徴收
【資産負債】	十二月 十四年	【資産負債】	九三年 十四年
株主資本	30,000	株主資本	13,000
積立金	3,000	積立金	3,000
外部負債	8,000	外部負債	8,000
借入金	8,000	借入金	8,000
支拂手形	1,000	支拂手形	1,000
使用總資本	41,000	使用總資本	24,000
固定資産	20,000	固定資産	20,000
流動資産	21,000	流動資産	4,000
現金預金	4,000	現金預金	4,000
【收支勘定】	十三年上 十三年下 十四年上 十四年下	【收支勘定】	十三年上 十三年下 十四年上 十四年下
收入	10,000	收入	10,000
支出	10,000	支出	10,000
【名義書換】	十 錢	【名義書換】	十 錢
【新券交付】	五十 錢	【新券交付】	五十 錢

【設立】	大正十二年四月	【設立】	大正十二年四月
【決算期】	三月、九月	【決算期】	三月、九月
【事業】	絹紡糸、綿糸、人造纖維其他	【事業】	絹紡糸、綿糸、人造纖維其他
【資本金】	公稱20,000 拂込13,000	【資本金】	公稱20,000 拂込13,000
【株主数】	100	【株主数】	100
【重役】	社長 片倉三平 常務 阿部利七郎 白井千尋 内藤國治 下出重喜 取崎 上川勘次郎 田中彌一 島村芳三 可兒弘一 鈴木樹三郎 片倉武雄 林清 夫片倉直人 片倉方平 今井五六 藤堂 佐藤傳吉 廣川志相 片倉兼太郎	【重役】	社長 片倉三平 常務 阿部利七郎 白井千尋 内藤國治 下出重喜 取崎 上川勘次郎 田中彌一 島村芳三 可兒弘一 鈴木樹三郎 片倉武雄 林清 夫片倉直人 片倉方平 今井五六 藤堂 佐藤傳吉 廣川志相 片倉兼太郎
【大株主】	片倉製絲 10,000 帝國生命 3,000 恒心會 3,500 十六銀行 2,000 松葉商店 2,000 川島屋商店 8,000 日本生命 2,000 千代田生命 2,000 【事業規模】 2,000,000 2,000,000 【生産高】 十三年下 十三年上 十三年下 ス・フ(對度) 1,000 1,000 1,000 人造纖維(對度) 3,000 3,000 3,000 絹紡糸(對度) 1,000 1,000 1,000 綿糸(對度) 1,000 1,000 1,000 人造纖維(對度) 1,000 1,000 1,000 富士絹(對度) 1,000 1,000 1,000 人造纖維(對度) 1,000 1,000 1,000 【投資會社】 鬼首興業 日東毛絲紡績、 日東興業 日東サービス 【資本興動】 十三年九月名古屋紡を合併十 月第二回二圓拂込徴收	【大株主】	片倉製絲 10,000 帝國生命 3,000 恒心會 3,500 十六銀行 2,000 松葉商店 2,000 川島屋商店 8,000 日本生命 2,000 千代田生命 2,000 【事業規模】 2,000,000 2,000,000 【生産高】 十三年下 十三年上 十三年下 ス・フ(對度) 1,000 1,000 1,000 人造纖維(對度) 3,000 3,000 3,000 絹紡糸(對度) 1,000 1,000 1,000 綿糸(對度) 1,000 1,000 1,000 人造纖維(對度) 1,000 1,000 1,000 富士絹(對度) 1,000 1,000 1,000 人造纖維(對度) 1,000 1,000 1,000 【投資會社】 鬼首興業 日東毛絲紡績、 日東興業 日東サービス 【資本興動】 十三年九月名古屋紡を合併十 月第二回二圓拂込徴收
【資産負債】	九三年 十四年	【資産負債】	九三年 十四年
株主資本	13,000	株主資本	13,000
積立金	3,000	積立金	3,000
外部負債	8,000	外部負債	8,000
借入金	8,000	借入金	8,000
支拂手形	1,000	支拂手形	1,000
使用總資本	24,000	使用總資本	24,000
固定資産	20,000	固定資産	20,000
流動資産	4,000	流動資産	4,000
現金預金	4,000	現金預金	4,000
【收支勘定】	十三年上 十三年下 十四年上 十四年下	【收支勘定】	十三年上 十三年下 十四年上 十四年下
收入	10,000	收入	10,000
支出	10,000	支出	10,000
【名義書換】	十 錢	【名義書換】	十 錢
【新券交付】	五十 錢	【新券交付】	五十 錢

【人絹人織事業】

東京人造絹糸

【設立】大正十五年四月
【決算期】五月、十一月

(本社) 東京市日本橋區大傳馬町二ノ一傳馬ビル内(電浪花 二九二一)
(出張所) 大阪市東區備後町二ノ五六第二野村ビル(電本町五九)

【前期保合】十一月期は歐洲大戰前安値で相當量の輸出品を賣つたのと國內向けの減産のため、減産を予想されたが、決算では利益金が僅かに増加し、償却も前期同様に行つて八分配當を据置いてゐる。
【今後の問題】今期は輸出好轉の利益を全期間享受出来るし、人絹輸出に力を注げば、電力、石炭不足も突破出来るやう。當社製人絹は標準格となつてゐるから、大して悪い方ではない。ス・フは品質も劣り、生産も相當減少するので、この方面の利益は減少しよう。八分配當は勿論繼續する筈であるが、東洋紡績との合併説は此の處行向への懸念だ。

【資本金】		公稱 1,950,000 拂込 1,612,500	
株数	100,000	株数	100,000
株主	1,000	株主	1,000
役員	10	役員	10
社長	田中	社長	田中
取締役	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模	取締役	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模
監査	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模	監査	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模
大株主	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模	大株主	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模
生産高	1,000,000	生産高	1,000,000
人絹(千疋)	1,000	人絹(千疋)	1,000
人名(千疋)	1,000	人名(千疋)	1,000
名義書換	10	名義書換	10

【資産負債】		13年		14年		15年	
株主資本	1,612,500	株主資本	1,612,500	株主資本	1,612,500	株主資本	1,612,500
外部負債	1,000,000	外部負債	1,000,000	外部負債	1,000,000	外部負債	1,000,000
流動資産	1,000,000	流動資産	1,000,000	流動資産	1,000,000	流動資産	1,000,000
固定資産	1,000,000	固定資産	1,000,000	固定資産	1,000,000	固定資産	1,000,000
流動負債	1,000,000	流動負債	1,000,000	流動負債	1,000,000	流動負債	1,000,000
固定負債	1,000,000	固定負債	1,000,000	固定負債	1,000,000	固定負債	1,000,000
利益金	1,000,000	利益金	1,000,000	利益金	1,000,000	利益金	1,000,000
損失	1,000,000	損失	1,000,000	損失	1,000,000	損失	1,000,000
安値	1,000,000	安値	1,000,000	安値	1,000,000	安値	1,000,000
株	1,000	株	1,000	株	1,000	株	1,000
人名	1,000	人名	1,000	人名	1,000	人名	1,000
名義書換	10	名義書換	10	名義書換	10	名義書換	10

太陽レィヨン

【設立】昭和九年一月
【決算期】五月、十一月

(本社) 大阪市東區南久太郎町二ノ一三阿部市ビル(電船場二七〇)

【石炭電力問題】當社は自家發電を持つてゐるが、ス・フ生産に大轉換を行つた現在では樂觀出来ない。昨年十月から石炭消費制限を断行されてゐるし、大垣の紡績工場は電力の制限に會つてゐるので操業率はかなり低下してゐることであらう。當局者は色々打關策の確立に努めてゐるが、かう事態が深刻となつて來てはその効果も多きは望めまい。
【前途】今期は石炭消費制限の影響を丸々受ける上に電力の制限と云ふ悪材料が加つたので、成績低下は必至と云はねばならない。八分配當は果して何時まで維持出来るか。

【資本金】		公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	
株数	100,000	株数	100,000
株主	1,000	株主	1,000
役員	10	役員	10
社長	田中	社長	田中
取締役	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模	取締役	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模
監査	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模	監査	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模
大株主	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模	大株主	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模
生産高	1,000,000	生産高	1,000,000
人絹(千疋)	1,000	人絹(千疋)	1,000
人名(千疋)	1,000	人名(千疋)	1,000
名義書換	10	名義書換	10

【人絹人織事業】

第二帝國人絹

【設立】昭和九年九月
【決算期】四月、十月

(本社) 大阪市北區中之島二ノ二五江南ビル内(電北濱三六九)

【石炭電力問題】この問題は當社に關する限りさう深刻ではない。大体親會社「帝人」と同程度とみればよからう。
【前期と今期】前期の成績は百八十五萬圓の利益を計上し、對拂込資本利益率は三割七分であつた。昨上期に比較すると二十萬圓除りの減産となり利益率は三分弱の低下に當る。
今期は輸出向の採算好轉で、國內向の生産減少による減産は充分カバー出来る見込みだから、成績は再び好調を取り戻すものと期待される。とすれば一割二分は當分動かぬとみてよからう。殊に當社の収益力は一流會社を凌駕してゐるから猶ほ更だ。

【資本金】		公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	
株数	100,000	株数	100,000
株主	1,000	株主	1,000
役員	10	役員	10
社長	田中	社長	田中
取締役	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模	取締役	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模
監査	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模	監査	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模
大株主	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模	大株主	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模
生産高	1,000,000	生産高	1,000,000
人絹(千疋)	1,000	人絹(千疋)	1,000
人名(千疋)	1,000	人名(千疋)	1,000
名義書換	10	名義書換	10

【資産負債】		13年		14年		15年	
株主資本	1,000,000	株主資本	1,000,000	株主資本	1,000,000	株主資本	1,000,000
外部負債	1,000,000	外部負債	1,000,000	外部負債	1,000,000	外部負債	1,000,000
流動資産	1,000,000	流動資産	1,000,000	流動資産	1,000,000	流動資産	1,000,000
固定資産	1,000,000	固定資産	1,000,000	固定資産	1,000,000	固定資産	1,000,000
流動負債	1,000,000	流動負債	1,000,000	流動負債	1,000,000	流動負債	1,000,000
固定負債	1,000,000	固定負債	1,000,000	固定負債	1,000,000	固定負債	1,000,000
利益金	1,000,000	利益金	1,000,000	利益金	1,000,000	利益金	1,000,000
損失	1,000,000	損失	1,000,000	損失	1,000,000	損失	1,000,000
安値	1,000,000	安値	1,000,000	安値	1,000,000	安値	1,000,000
株	1,000	株	1,000	株	1,000	株	1,000
人名	1,000	人名	1,000	人名	1,000	人名	1,000
名義書換	10	名義書換	10	名義書換	10	名義書換	10

東邦人造纖維

【設立】昭和九年六月
【決算期】三月、九月

(本社) 東京市豊町區丸ノ内昭和ビル四階(電丸ノ内三〇三)
(事務所) 大阪市東區伏見町五丁目日本後兵館内(電北濱三三三)

【日本油脂に合併】當社と日本油脂との合併は正式に決定した。合併比率は日本油脂一〇に對し當社八である。即ち當社の五十圓拂込十株に對し日本油脂五十圓拂込株八株が交付されるのである。そして合併實行期は來る六月一日である。
【合併理由】兩社が合併するに至つた理由として、當社が今後大いに其の生産を増大せしめんとする羊毛の原料たる大豆カゼインを日本油脂で供給し得ることを擧げることが出来る。其の他現社長が、老境に入り自己の事業を整理し、後進に譲ると云つた方針を採りつゝある一つの現れとも見ることが出来る。

【資本金】		公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	
株数	100,000	株数	100,000
株主	1,000	株主	1,000
役員	10	役員	10
社長	田中	社長	田中
取締役	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模	取締役	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模
監査	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模	監査	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模
大株主	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模	大株主	田中、佐藤、吉岡、大川、小島、伊藤、鈴木、橋本、下村、相模
生産高	1,000,000	生産高	1,000,000
人絹(千疋)	1,000	人絹(千疋)	1,000
人名(千疋)	1,000	人名(千疋)	1,000
名義書換	10	名義書換	10

【羊毛工業】

伊丹製絨所

【設立】大正十一年六月
【決算期】四月、十月
(本社)兵庫縣川邊郡伊丹町古城下(電大阪福島天石一)

【大体順調】十ヶ月の増益についで今期も大体順調である。原毛不足は益々深刻化し内需については早晚使用原毛はなくなるであらうが、生産減はあつても賣値が極めてよく、特に更生絲はよかつたから、利益はそれほど減少はすまい。月平均にして十五万圓、半期九十万圓程度は豫想してよからう。九十万圓あれば利益率は三割に達するから現行配當に問題はない。
【下期】國內向の價格統制は益々廣汎に行はれるだらうから前途は油断出来ない。それに輸出を強制されるやうになると利益減は必至とならう。電力制限も尚つゞくであらうし、下期は警戒を要する。

【資本金】	公稱	10,000	拂込	6,000
【株数】	新	(500)	旧	2,000
【重役】	社長	河崎助太郎	取締役	大崎 正秋
【大株主】	十四年十一月期	新興産業	10,000	
【事業規模】	十四年十一月期	平均	10,000	
【投資会社】	三重製絨所、愛名製絨所			
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢	

【資本金】	公稱	10,000	拂込	6,000
【株数】	新	(500)	旧	2,000
【重役】	社長	河崎助太郎	取締役	大崎 正秋
【大株主】	十四年十一月期	新興産業	10,000	
【事業規模】	十四年十一月期	平均	10,000	
【投資会社】	三重製絨所、愛名製絨所			
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢	

東洋毛織工業

【設立】昭和九年一月
【決算期】五月、十一月
(本社)大阪府東淀川区津濱通一ノ九
(営業所)大阪市北區會場崎上二丁目四八共同ビル(電北二〇四)

【下期増配】昨年下半年は一分増の七分配當を行つた。業績は稍々低下し、利益金は五十六万四千圓、利益率は二割五厘で、上期に比し利益金で四万圓、利益率で一分五厘の各減少となつてゐる。下期の利益金の大部分は國內向製品の販賣益で、輸出方面は恐らく問題にならぬ程度の利益しかなかつたであらうが、免も角利益率が二割で資産内容も悪くないのだから増配は不自然ではない。
【前途】國內向生産減と價格統制の全面化をどう防ぐか、業績を決定する問題だ。輸出向はあまり期待出来さうもないし、輸出専門工場制でも強行されれば相當苦しまざるを得まい。今期は警戒を要す。

【資本金】	公稱	10,000	拂込	6,000
【株数】	新	(500)	旧	2,000
【重役】	社長	河崎助太郎	取締役	大崎 正秋
【大株主】	十四年十一月期	新興産業	10,000	
【事業規模】	十四年十一月期	平均	10,000	
【投資会社】	三重製絨所、愛名製絨所			
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢	

【羊毛工業】

東洋毛絲紡績

【設立】昭和七年三月
【決算期】五月、十一月
(本社)大阪市東區伏見町五ノ四二(電北濱四三)

【前期増配】十一月期は一分増の九分配當をつけた。利益金は七十一万七千圓、利益率二割四分二厘で、上期に比しいづれも落ちたが、一分増配に不安はなかつた。輸出実績が比較的少ないだけに、利益金の殆んど大部分は雜織維方面から擧がったものである。輸出に對しては或る程度の地盤は開拓したもの、第三國向は尚ほ伸びやんでゐる状態だ。
【今期】内需羊毛の減少は防止の方法はない。混紡と言つても原料には限度があらう。輸出方面が捗々しくなければ今期の減益はどうしても避けがたいのではなからうか。前途安心は出来ぬ。

【資本金】	公稱	10,000	拂込	6,000
【株数】	新	(500)	旧	2,000
【重役】	社長	河崎助太郎	取締役	大崎 正秋
【大株主】	十四年十一月期	新興産業	10,000	
【事業規模】	十四年十一月期	平均	10,000	
【投資会社】	三重製絨所、愛名製絨所			
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢	

錦華毛糸

【設立】昭和九年一月
【決算期】三月、九月
(本社)三重縣津市大字下郡田七二九(電二七)
(營業所)大阪市東區瓦町二丁目三和ビル(電北濱五三)

【今期据置】當社の収益源も國內向が主である。雜織維の研究も先んじて行ひ、成績も悪くないが、價格統制が全面化しては次から次へ新製品を作つて行かざるを得ないし、それも自ら限度がある。輸出方面は努力はしてゐるが確固たる地盤がないのが遺憾だ。然し月八万圓程度の利益は出せるから、今期も少なくとも五十万圓内外の利益は擧げ得るだらう。現行配當据置は問題なくやれる。
【合併問題】羊毛工業の輸出専門工場問題がどうなるか樂觀を許さないが、親會社に合併されるか、又は他社を合併するか、どちらかの道を撰ばねば獨立經營は漸次困難化する様に考へられる。

【資本金】	公稱	10,000	拂込	6,000
【株数】	新	(500)	旧	2,000
【重役】	社長	河崎助太郎	取締役	大崎 正秋
【大株主】	十四年十一月期	新興産業	10,000	
【事業規模】	十四年十一月期	平均	10,000	
【投資会社】	三重製絨所、愛名製絨所			
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢	

【羊毛工業】

東海毛糸紡績

【設立】昭和八年二月
【決算期】五月、十一月

(本社)岐阜縣海津郡城山村大字駒野字抽ノ木七七八

【製品の特異性】麻七割スフ三割の混紡糸が當社の特殊糸だ。この製品に當社の運命を賭けて居るだけに生産の主力もここにあり。梳毛糸會社が一般に成績芳しくない中であつて斷然好調を持續出来るのもこの特殊品の恩恵を受けて居るからだ。

【最近の業績】一月から三月迄の輸出は約九萬封度に達した。最近二割五分の電力使用制限で生産が減つたが、これは確かに捕手である。濠毛の輸入が見透し難い難にあることも一つの不安材料だが混紡原料はどうか手配が出来ると見込だし、需要は旺盛なのだから、大して心配する必要はない。

【資本金】	公稱 10,000	拂込 10,000
【株数】	(10,000)	100,000
【重役】	社長 小島太左衛門	
取務	小島 速平 取務 松岡 嘉右衛門	
監査	鈴木 善七 監査 山本 則吉	
豊島 久七 監査 小菅 利七		
岩田 宗太郎 井川 利七		
【大株主】	十四年十一月期	
小島太左衛門 10,000 鈴木 善七 10,000		
豊島 久七 10,000 岩田 宗太郎 10,000		
【事業成績】	十五年十一月期	
製品売上 全額 1,800,000 十五年上 1,800,000		
原料消費 全額 1,100,000 十五年上 1,100,000		
【事業規模】	工場 岐阜縣海津郡城山村	
【名義書換】	十錢 新券交付 五十錢	

【資本金】	公稱 10,000	拂込 10,000
【株数】	(10,000)	100,000
【重役】	社長 竹中治	
取務	岡田 洋一 取務 下出 義雄	
安藤 俊三 監査 後藤 新十郎		
杉野 伊勢雄 岩川 與助		
荒川 長太郎 宮川 三郎		
【大株主】	十四年九月期	
竹中 治 10,000 岡田 洋一 10,000		
岡田 洋一 10,000 荒川 長太郎 10,000		
【事業成績】	十五年上	
製品売上 全額 1,100,000 十五年上 1,100,000		
原料消費 全額 700,000 十五年上 700,000		
【事業規模】	工場 岐阜縣海津郡城山村	
【名義書換】	十錢 新券交付 五十錢	

第一毛絲紡績

【設立】昭和九年三月
【決算期】三月、九月

(本社)愛知縣東春日井郡勝川町大字前井字中泰七八九

【今期増益確実】特殊糸の紡出は依然として當社のドル箱だ。製品の最高價格決定も總体的には影響が少いし、利潤こそ少いが軍需作業が時折り加はるので工場はフル運轉に近い。一月までの四ヶ月間に既に十萬圓に近い利益金を挙げた。二月以降節電で多少作業が減つても今期の利益は約十三萬圓には達する。どう内輪に見ても利益率が三割を割ることはないから一割配當は余裕裡に据置ける。

【前途は】電力が作業の主たる要素でないだけに電力調整令も業績には化學工業其他のやうな大きな影響はない模様だ。寧ろ原料調達は前途多難を覺えさせられる。

【資本金】	公稱 10,000	拂込 10,000
【株数】	(10,000)	100,000
【重役】	社長 竹中治	
取務	岡田 洋一 取務 下出 義雄	
安藤 俊三 監査 後藤 新十郎		
杉野 伊勢雄 岩川 與助		
荒川 長太郎 宮川 三郎		
【大株主】	十四年九月期	
竹中 治 10,000 岡田 洋一 10,000		
岡田 洋一 10,000 荒川 長太郎 10,000		
【事業成績】	十五年上	
製品売上 全額 1,100,000 十五年上 1,100,000		
原料消費 全額 700,000 十五年上 700,000		
【事業規模】	工場 岐阜縣海津郡城山村	
【名義書換】	十錢 新券交付 五十錢	

【製麻事業】

帝國製麻株式會社

(本社)東京市日本橋區室町一ノ一(電日本橋二二一四)
(支社)大阪市北區宗室町(大阪ビル内)

【業績】昨十二月期の利益金は二百四萬四千圓で、上期より僅か乍ら二萬五千圓の増益を示したが、此の間利益率は却つて二割九分五厘から二割六分六厘へ低下した。昨秋の拂込徴収から資本負擔が増加したからである。而して當社は右の拂込徴収から金額拂込済會社となり、増資が期待されて居る。

【擴張】増資資金は、北海道、滿洲及朝鮮に於ける原料増産資金並びに鹿沼製品工場の引續増・改築費と朝鮮の仁川製品工場新設費に振向けられる筈だ。この外、前輯でも述べた様に、大陸への進出計畫がある。此等の細目は今後多く決定される事情にあるが、その目標とする處は、苧麻の資源を獲得しこれが開發に向はんとするにある。貿易促進の見地からも、支那農民の經濟恢復と云ふことからも、また日支經濟ブロックの主旨よりみても、誠に緊要なことだと考へる。唯だ當社としては、これに依る業績への寄與を早急に期すること出来まい。

【前途】右の如く、最近の當社經營は從來の堅實一本槍から目立つて積極化して来たが、これが爲め朝鮮の新設製品工場及び其他の擴張から目先可なりの睡眠資本を擁することになる。然し乍ら、この爲に現行一割配當が稀く様なことは考へられない。

【設立】	明治四十年七月	
【決算期】	六月、十二月	
【事業】	帆布、ダツク・ホース、薄地、リネン、服地、シャツ地、飛行機翼布、蚊帳用絲、織物絲其他	
【資本金】	公稱 10,000 拂込 10,000	
【株数】	(10,000) 100,000	
【重役】	社長 安田善五郎	
取務	河野 實三 取務 溝畑 直太郎	
田中 直通 増富 喜雄		
大橋 新太郎 監査 飯田 隆二郎		
玉木 誠次郎 塚越 丘二郎		
下河邊 行一 古井 上		
【大株主】	十五年上	
安田 善五郎 10,000 安田 生命 10,000		
安田 銀行 10,000 十七 銀行 10,000		
高岡 鐵兵 10,000 田村 合資 10,000		
日華 生命 10,000 田村 合資 10,000		
【事業規模】	十四年上期現在	
麻絲紡績(總) 七、九六(織機) 一、二二		
機織機(總) 三、八三		
工場 大阪、鹿沼、札幌、(製品) 大津		
(原料試驗) 赤羽(倉庫) 釜山製		
布(豐山、甲山、北青(亞麻))		
製線所 外 一〇 亞麻工場 四		
【事業成績】	十五年上	
製品売上(全額) 八、三六 十五年上 八、三六		
亞麻製造(一) 一、二〇 三、〇三 三、〇三		
【投資會社】	大正製麻、東洋麻工業、日本麻紡績、滿洲製麻	
【資本負擔】	十五年上 拂込 10,000	
【名義書換】	十錢 新券交付 五十錢	

【製麻事業】

日滿亞麻紡織株式會社

(本社) 東京市麹町區内幸町大阪ビル新館(電銀座五元)

【拂込、増資】當社は近く拂込徴收を行ふであらう。次いで増資が問題となる順序だ。滿洲の亞麻増産資金並びに製品工場の擴張資金を必要とするからである。當社の資金需要關係から見ると、今後相當活潑に拂込徴收が行はれるものと見られる。然し、注意すべきことは、當社の資金需要からのみ推斷して拂込徴收を期待してはならぬと云ふことだ。最近の資金調整局の態度を見ると、仲々嚴重で、明に縮減方針が認められるからである。

【大陸進出活潑】然し、そうは言つても可なり多方面に互つて進出計畫が決定し、それ等は今後相當活潑に實行されるのだから、内輪に押へると云つても限度がある。第一は帝麻との提携に依る上海ラミー會社及び中支苧麻産業會社の新設である。此の外北支に洋麻の試作を行ひ、更に上海に建築材料たるテックス工場の建設を計畫中である。尚、前輯述べた如く資本金五百萬圓で日滿紡麻が新設されて居るのだから、矢張り拂込徴收に續く増資は期待されてよい。

【今期一分増配か】續つて業績だが、二月末に締切る今期成績は好調の見込で、利益金七十餘萬圓を収めた模様だ。とすれば拂込の徴收から資本負擔は増加するが、成績の向上は確實で、一分増の一回配當の實現は先づ期待して間違ひない。

【設立】 昭和九年四月

【決算期】 二月、八月

【事業】 厚地物(帆布、ダック、天幕地、鐵道兩覆地、通信行囊地)亞麻糸

【資本金】 公稱 3,000,000 拂込 9,000,000

【株主數】 新(株) 110,000 舊(株) 110,000

【重役】 會長 坂内義雄 取締役 長谷川敬事 常務 木村治助 監査 佐々木久二 中川正左 久野謙雄 伊地知虎彦 近藤真一

【株主數】 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下

【大株主】 三井物産 1,000,000 滿洲紡織 1,000,000 日本證券 1,000,000 滿洲製麻 7,000,000 坂内紡織 7,000,000 安田信託 6,000,000 坂内紡織 6,000,000 長尾良一 6,000,000

【事業規模】 原料工場(原料栽培は滿日亞麻が經營) 双城、海林、呼蘭、海倫、拜泉、克山、泰安鎮、綏化、珠河、栽培地(濱江省、龍江省) 製品工場(富山縣堀川町) 精紡機 1,000機

【事業成績】 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下

【投資會社】 滿日亞麻紡織株式會社

【資本異動】 十三年七月三十一日拂込徴收。十一年格額増資第五回三圓五拂込徴收。十一年十月第二回二圓五拂込徴收。

【資産負債】

株主資本	十三年	十四年	十四年
積立金	六、五〇〇	八、一〇〇	八、一〇〇
外部負債	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇
借入金支分	六、〇〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇
使用總資本	七、八〇〇	八、一〇〇	九、一〇〇
固定資産	二、六〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇
流動資産	五、二〇〇	五、四〇〇	六、四〇〇
現金預金	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
【收支勘定】	十三年上	十三年下	十四年上
収入	七、七〇〇	七、七〇〇	七、七〇〇
支出	七、七〇〇	七、七〇〇	七、七〇〇
【固定資産】	十三年上	十三年下	十四年上
固定資産	二、六〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇
【流動資産】	十三年上	十三年下	十四年上
流動資産	五、二〇〇	五、四〇〇	六、四〇〇
【負債比率】	十三年上	十三年下	十四年上
負債比率	一、七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇
【名義書換】	十錢	【新券交付】	五十錢

東京麻絲紡績

【設立】 大正五年十二月

(本社) 東京市日本橋區本町一ノ二(電日本橋五元)

【前期成績】 昨年十一月締切の下期決算は良好であつた。即ち、利益金五十萬三千圓を挙げ、同利益率は三割五分五厘に達した。これを上期成績に對比すると利益金に於て八萬一千圓、利益率に於ては五分四厘の各向上となる。従つて、一割配當の維持は一段と余裕が生じ、社内保留率の如きも約七割を示して居る。

【増資】 製麻會社は何れも活潑なる膨脹をみせ、當社のみ稍々取残された感なくもないが、然し、當社も目下某處に進出を計畫中の模様だ。どう具体化するかは注目し値するが、兎に角、懸案の増資が近づきつゝあることだけは想像出来る。

第一ラミー紡績

【設立】 大正六年四月

(本社) 富山縣富山市清水芭

【前期業績】 前期は四十二萬二千圓の利益を挙げ、利益率は五割三分と言ふ高率に上つた。昨上期の利益率四割七分に比し著しい増益だ。謂ふまでもなく、車需注文が殺倒した爲である。

【増資】 今後は車需注文は益々増加するばかりである。事業は當然擴張されねばならぬ。既に第一興業なる纖維工業會社を創設したが、之にも多額の資金を投じなければならぬ。斯くて相當の資金を必要とするので、遂に四百三十萬圓への増資を決定した。第一回拂込は五月一日一株につき三十圓總額百六十二萬圓が徴收される。拂込徴收後一割配當の維持には問題はない。

【資本金】 拂込済 3,000,000

【株主數】 (株) 30,000

【重役】 社長 石崎石三 取締役 林莊治 大橋常太郎 安藤竹次郎 新開五兵衛 穴水能雄 中島孝夫 渡邊六郎 監査 寺尾芳男 岡野豪夫

【大株主】 十四年十一月期 石崎石三 三、三〇〇 村井安太郎 三、三〇〇 新開五兵衛 二、三〇〇 麻絲生産(手實) 十三年上 十三年下

【事業成績】 十三年上 十三年下

【資産負債】 十三年 十三年 十三年 十三年

【株主資本】 十三年 十三年 十三年 十三年

【外部負債】 十三年 十三年 十三年 十三年

【流動資産】 十三年 十三年 十三年 十三年

【固定資産】 十三年 十三年 十三年 十三年

【名義書換】 五錢 【新券交付】 二十錢

【資本金】 拂込済 1,000,000

【株主數】 (株) 30,000

【重役】 社長 小澤安太郎 取締役 馬場正治 取崎 蓮沼友次郎 監査 井上相如 金岡五郎 須田清平 佐藤助九郎 須田清平

【大株主】 十四年十月期 大津實業 1,000,000 馬場安太郎 1,000,000 高島幸太吉 1,000,000 蓮沼安太郎 1,000,000 高島幸太吉 1,000,000 馬場正治 1,000,000 高島幸太吉 1,000,000

【事業成績】 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下

【資産負債】 十三年 十三年 十三年 十三年

【株主資本】 十三年 十三年 十三年 十三年

【外部負債】 十三年 十三年 十三年 十三年

【流動資産】 十三年 十三年 十三年 十三年

【固定資産】 十三年 十三年 十三年 十三年

【名義書換】 十錢 【新券交付】 三十錢

【製麻事業】